

恩納岳あがた  
里が生まれ島  
森んうしぬきてい  
くがたなさを



## 1章

# 恩納村観光の現状と課題



# 1 章 恩納村観光の現状と課題

## 1. 県内外における観光を取り巻く動向把握

### (1) 我が国の観光の動向

本村の観光振興施策の検討に資するよう、全国の観光を取り巻く動向を把握・整理し、以下に示す。

#### ◆整理事項一覧

| 整理事項                | 備考                                |
|---------------------|-----------------------------------|
| ①観光立国推進基本法          | 平成 19 年 1 月 1 日施行                 |
| ②観光立国推進基本計画         | 平成 24 年 3 月 30 日閣議決定<br>計画期間：5 年間 |
| ③観光白書（平成 28 年度版）    | 国土交通省                             |
| ④平成 27 年度版 観光の実態と志向 | 発刊：公益社団法人 <sup>*1</sup> 日本観光振興協会  |

### ①観光立国推進基本法（平成 19 年 1 月 1 日施行）

#### ◆法の概要

昭和 38 年に制定された旧「観光基本法<sup>\*2</sup>」の全部を改正し、題名を「観光立国推進基本法」に改めることにより、観光を 21 世紀における日本の重要な政策の柱として明確に位置付けた。

観光立国の実現に関する施策の基本理念として、地域における創意工夫を生かした主体的な取組みを尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要である、という認識の下に施策を講ずべきこと等を定めている。

政府は、観光立国の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「観光立国推進基本計画」を定めることとしており、国は、基本的施策として、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成、観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成、国際観光の振興、観光旅行の促進のための環境の整備に必要な施策を講ずることとしている。

#### ◆目的

観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進に寄与すること。

<sup>\*1</sup>公益社団法人：一般社団法人のうち、公益法人認定法に基づいて、行政庁から公益性を認定された社団法人。公益を目的とする事業は非課税となるなど、税制上の優遇措置を受けることができる。

<sup>\*2</sup>観光基本法：国の観光政策に関する基本方針を示した法律。昭和 38 年法律第 107 号。

◆基本理念

- ①豊かな国民生活を実現するための「住んでよし、訪れてよしの国づくり」の認識の重要性
- ②国民の観光旅行の促進の重要性
- ③国際的視点に立つことの重要性
- ④関係者相互の連携の確保の必要性

◆関係者の責務

- ①国の責務：観光立国の実現に関する施策を総合的に策定、実施する。
- ②地方公共団体の責務：地域の特性を活かした施策を策定し実施。また、広域的な連携協力を図る。
- ③住民の責務：観光立国の重要性を理解し、魅力ある観光地の形成への積極的な役割を担う。
- ④観光事業者の責務：観光立国の実現に主体的に取り組むよう努める。

②観光立国推進基本計画（平成 24 年 3 月 30 日閣議決定）

◆基本的な方針

- 1. 震災からの復興
- 2. 国民経済の発展
- 3. 国際相互理解の増進
- 4. 国民生活の安定向上

◆計画期間：5年間（平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月）

◆計画期間における基本的な目標

| 項目                          | 目標値   | 実績値  |
|-----------------------------|---|--|
| 1. 国内における旅行消費額              | 平成 28 年までに 30 兆円にする。  | 【平成 21 年実績：25.5 兆円】                                |
| 2. 訪日外国人旅行者数                | 平成 32 年初めまでに 2,500 万人とすることを念頭に、平成 28 年までに 1,800 万人にする。                              | 【平成 22 年実績：861 万人、平成 23 年推計：622 万人】                |
| 3. 訪日外国人旅行者の満足度             | 平成 28 年までに、訪日外国人消費動向調査で、「大変満足」と回答する割合を 45%、「必ず再訪したい」と回答する割合を 60%とすることを目指す。          | 【平成 23 年実績：「大変満足」の回答割合 43.6%、「必ず再訪したい」の回答割合：58.4%】 |
| 4. 国際会議の開催件数                | 我が国における国際会議の開催件数を平成 28 年までに 5 割以上増やすことを目標とし、アジアにおける最大の開催国を目指す                       | 【平成 22 年実績：国際会議の開催件数 741 件】                        |
| 5. 日本人の海外旅行者数               | 平成 28 年までに 2,000 万人にする。   | 【平成 22 年実績：1,664 万人、平成 23 年推計：1,699 万人】            |
| 6. 日本人の国内観光旅行による 1 人当たりの宿泊数 | 平成 28 年までに年間 2.5 泊とする。  | 【平成 22 年実績：2.12 泊】                                 |
| 7. 観光地域の旅行者満足度              | 観光地域の旅行者の総合満足度について、「大変満足」と回答する割合及び再来訪意向について「大変そう思う」と回答する割合を平成 28 年までにいずれも 25%程度にする。 | 【実績値無し】  |

◆観光庁が主導的な役割を果たすべき主な施策

1. 国内外から選好される魅力ある観光地域づくり（観光地域のブランド化・複数地域間の広域連携等）
2. オールジャパンによる訪日プロモーションの実施
3. 国際会議等のMICE※1分野の国際競争力強化
4. 休暇改革の推進

◆政府全体により講ずべき施策

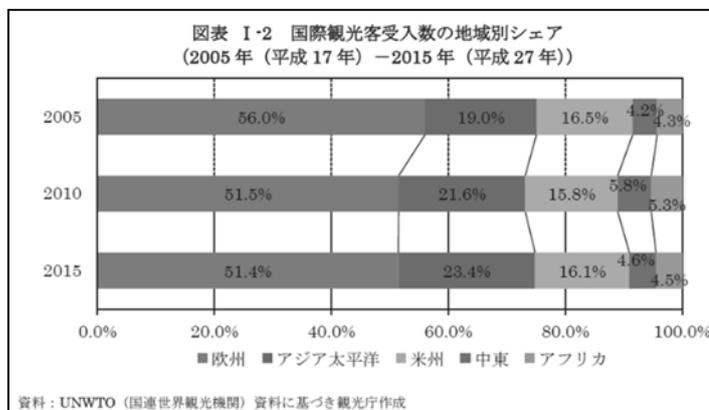
1. 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成（観光情報等の発信・提供、外国人受入態勢の確保等）
2. 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成
3. 国際観光の振興（外国人観光客の来訪の促進、国際相互交流の促進）
4. 観光旅行の促進のための環境の整備（観光旅行の容易化・円滑化、観光旅行者への接遇の向上・利便性の増進、安全の確保等）

③観光白書（平成28年度版）

◆第1章 世界の観光の動向

○UNWTO（国連世界観光機関）の2016年（平成28年）1月の発表では、2015年（平成27年）の世界全体の国際観光客到着数は、5,000万人増の11.8億人となり、6年連続での増加となっている。

○また、地域別シェア（2005年－2015年）を見ると、依然として欧州が5割以上を占めるものの、アジア太平洋のシェアは2割強（23.4%）まで拡大している。



※1MICE：Meeting（会議）、Incentive tour（報奨旅行）、Convention/Conference（国際会議）、Exhibition/Event（展示会）。多くの集客が見込まれ、経済効果の大きいビジネス関連イベント。また、それを開催するための大型施設。

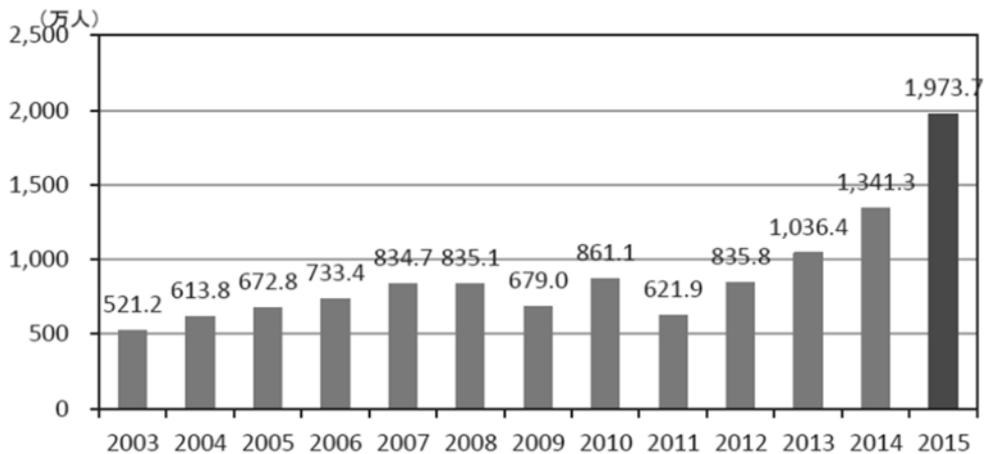
◆第2章 日本の観光の動向

【訪日旅行の状況】

○2015年（平成27年）の訪日外国人旅行者数は、1,974万人（対前年比47.1%増）と過去最高となり、3年連続で過去最高を更新した。

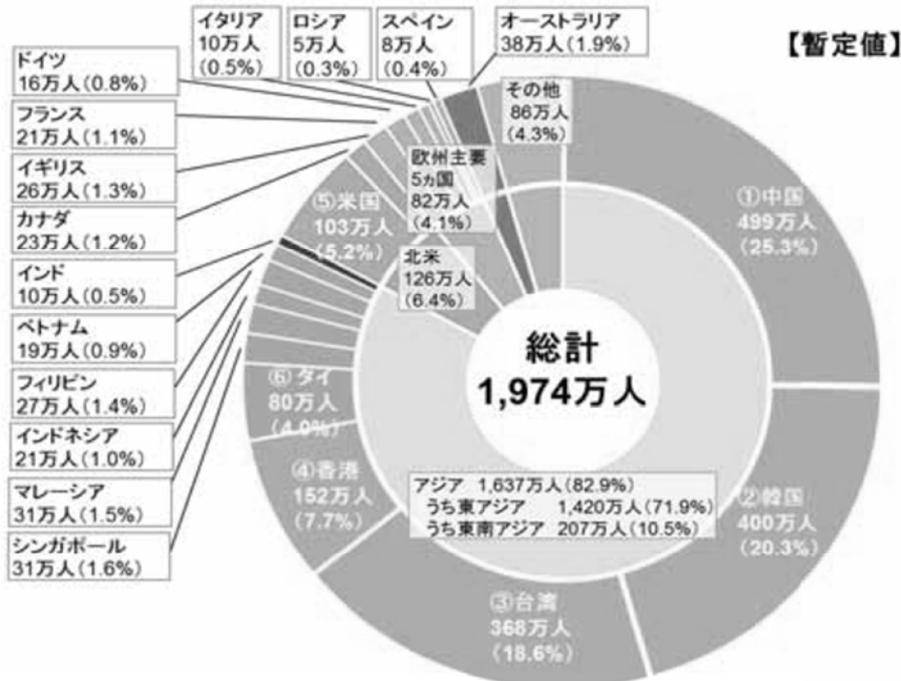
○なお、2015年（平成27年）の訪日外国人旅行者の内訳を見ると、アジア圏（中国、韓国、台湾、香港）からの旅行者が約8割（82.9%、1,637万人）を占めている。

図表 I - 5 訪日外国人旅行者数の推移



資料：日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成

図表 I - 6 訪日外国人旅行者の内訳 2015年（平成27年）



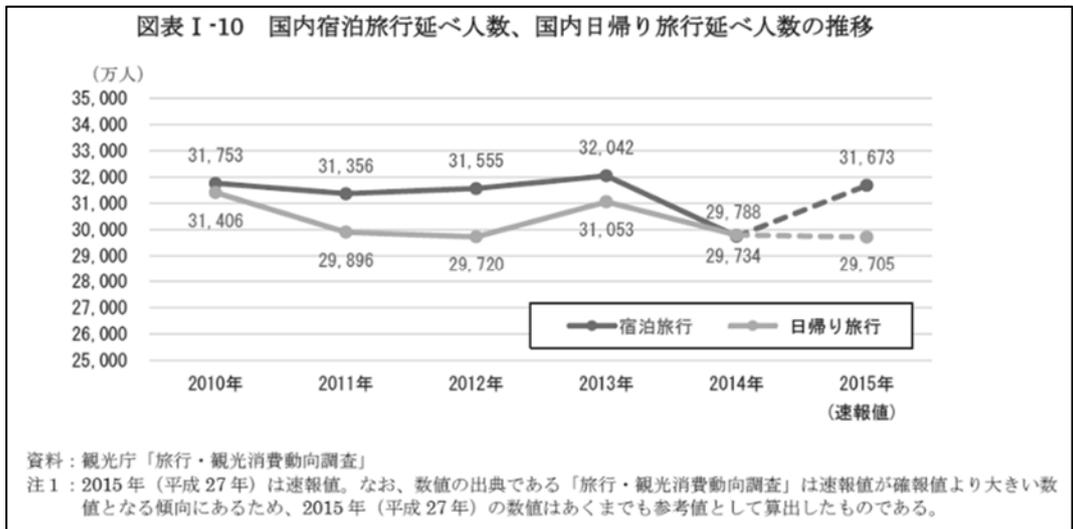
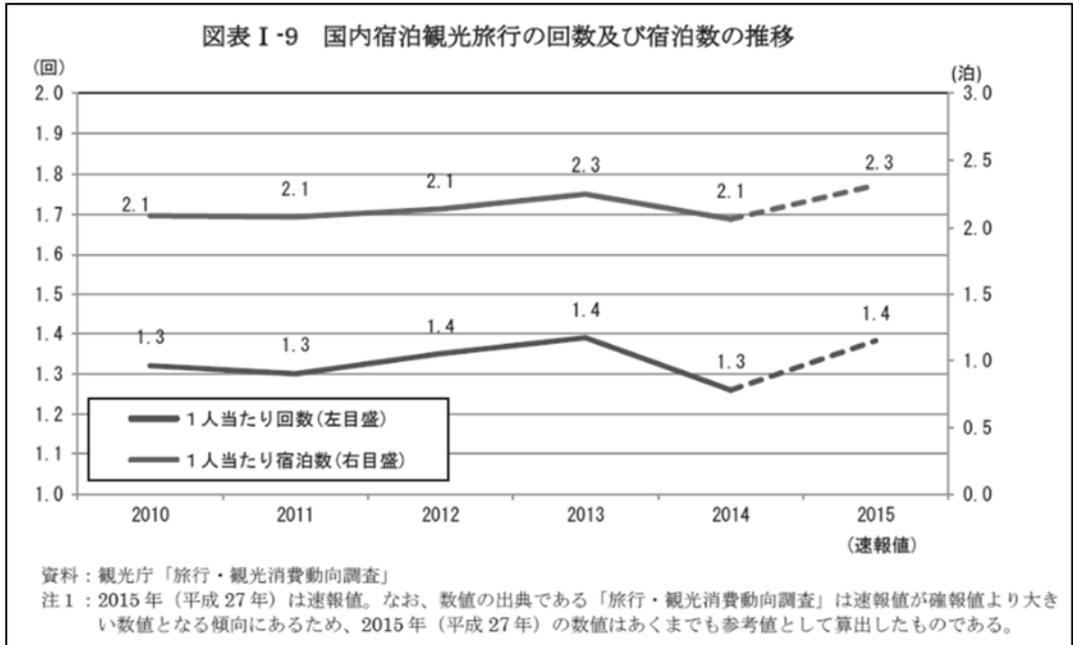
資料：日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成

注1：（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア。

注2：「その他」には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。

**【国内旅行の状況】**

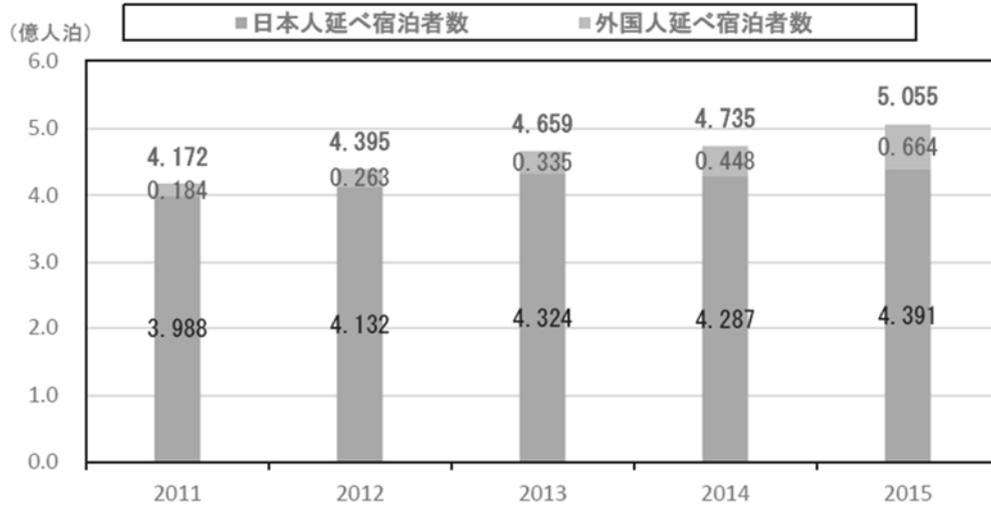
- 国民1人あたりの国内宿泊観光旅行の回数は1.4回（前年比9.8%増）、宿泊数は2.3泊（前年比12.3%増）となっている。2010年（平成22年）からの推移をみても、大きな変動はない。
- 2015年（平成27年）に国内宿泊旅行に行った人数は延べ3億1,673万人（対前年比6.5%増）となっている。2014年（平成26年）は消費税引き上げによる落ち込みがあったほか、北陸新幹線の開業効果、9月の大型連休（シルバーウィーク）等が影響したものと推察される。



**【宿泊旅行の状況】**

- 日本における延べ宿泊者数は、2015年（平成27年）に5億人泊を突破した。また、外国人延べ宿泊者数は6,637万人泊（前年比48.1%増）で、全体に占める割合は初めて1割を超えた（13.1%）。
- 宿泊施設タイプ別の外国人延べ宿泊者数の割合を見ると、シティホテルの利用率が高く、2015年（平成27年）には約3割（30.8%）を占め、宿泊者の3人に1人が外国人となっている。

図表 I-11 日本人・外国人の延べ宿泊者数の推移

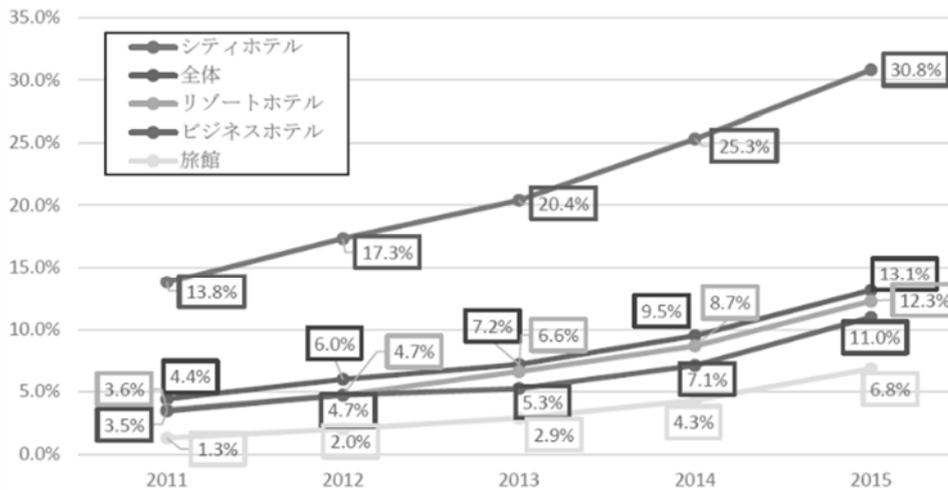


資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

注1：2015年（平成27年）は速報値。

注2：各年のグラフの上に記載されている数字は、日本人と外国人の延べ宿泊者数の合計。

図表 I-13 宿泊施設タイプ別の外国人延べ宿泊数の割合の推移



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

注1：2015年（平成27年）は速報値。

○2015年（平成27年）の都道府県別・宿泊施設タイプ別客室稼働率を見ると、沖縄県においては、シティホテル（81.0%）で8割を超え、リゾートホテル（76.3%）、ビジネスホテル（76.8%）においても8割弱の高い稼働率となった。

図表 I-15 都道府県別・宿泊施設タイプ別客室稼働率  
2015年（平成27年）

|      | 宿泊施設タイプ |      |             |             |            |      |
|------|---------|------|-------------|-------------|------------|------|
|      | 全体      | 旅館   | リゾート<br>ホテル | ビジネス<br>ホテル | シティ<br>ホテル | 簡易宿所 |
| 全国   | 60.5    | 37.8 | 57.3        | 75.1        | 79.9       | 27.3 |
| 北海道  | 61.5    | 46.9 | 48.3        | 73.3        | 77.6       | 23.4 |
| 青森県  | 50.4    | 41.3 | 44.3        | 61.2        | 59.2       | 16.1 |
| 岩手県  | 52.5    | 39.5 | 41.5        | 71.1        | 65.4       | 23.1 |
| 宮城県  | 62.2    | 47.8 | 41.8        | 74.3        | 70.4       | 34.7 |
| 秋田県  | 44.0    | 31.5 | 38.3        | 59.3        | 65.0       | 17.6 |
| 山形県  | 48.4    | 31.9 | 31.3        | 69.2        | 68.7       | 12.2 |
| 福島県  | 52.5    | 39.9 | 45.0        | 79.8        | 75.9       | 9.5  |
| 茨城県  | 51.8    | 25.3 | 44.7        | 64.9        | 68.0       | 12.7 |
| 栃木県  | 47.6    | 38.8 | 51.3        | 68.3        | 60.1       | 11.2 |
| 群馬県  | 50.7    | 46.1 | 43.8        | 70.2        | 72.1       | 11.5 |
| 埼玉県  | 66.3    | 25.2 | 36.7        | 75.8        | 80.9       | 22.3 |
| 千葉県  | 70.7    | 35.6 | 84.1        | 73.7        | 82.8       | 21.6 |
| 東京都  | 82.3    | 61.5 | 76.4        | 86.3        | 83.8       | 63.5 |
| 神奈川県 | 66.7    | 48.3 | 59.4        | 81.0        | 82.0       | 42.0 |
| 新潟県  | 43.7    | 25.8 | 31.9        | 66.6        | 65.9       | 22.0 |
| 富山県  | 55.3    | 37.3 | 50.7        | 73.5        | 71.8       | 27.6 |
| 石川県  | 64.9    | 53.6 | 54.1        | 79.2        | 80.7       | 23.7 |
| 福井県  | 43.2    | 31.4 | 43.1        | 69.3        | 57.2       | 9.5  |
| 山梨県  | 48.3    | 38.1 | 59.1        | 72.4        | 66.8       | 18.9 |
| 長野県  | 35.7    | 26.2 | 37.6        | 71.1        | 71.8       | 12.4 |
| 岐阜県  | 50.2    | 38.5 | 51.3        | 73.3        | 73.2       | 20.3 |
| 静岡県  | 54.9    | 41.0 | 53.8        | 71.6        | 77.5       | 17.6 |
| 愛知県  | 70.9    | 31.5 | 58.7        | 78.7        | 84.0       | 47.3 |
| 三重県  | 49.9    | 29.9 | 54.2        | 66.4        | 70.2       | 7.1  |
| 滋賀県  | 60.5    | 35.2 | 61.6        | 75.4        | 71.2       | 20.8 |
| 京都府  | 71.4    | 50.3 | 54.8        | 84.2        | 86.2       | 39.2 |
| 大阪府  | 85.2    | 50.7 | 91.4        | 87.8        | 88.1       | 58.5 |
| 兵庫県  | 58.9    | 37.1 | 59.3        | 80.6        | 80.8       | 17.4 |
| 奈良県  | 46.3    | 31.5 | 73.2        | 68.4        | 78.0       | 20.2 |
| 和歌山県 | 47.7    | 42.9 | 54.4        | 65.5        | 70.8       | 18.5 |
| 鳥取県  | 51.1    | 38.3 | 32.4        | 73.0        | 77.4       | 13.2 |
| 島根県  | 54.4    | 36.0 | 40.8        | 74.2        | 67.6       | 21.2 |
| 岡山県  | 57.0    | 32.6 | 44.2        | 70.7        | 67.6       | 14.8 |
| 広島県  | 65.5    | 37.5 | 60.6        | 79.6        | 79.5       | 29.3 |
| 山口県  | 58.3    | 40.6 | 54.8        | 66.4        | 65.7       | 37.9 |
| 徳島県  | 47.9    | 25.8 | 52.3        | 65.8        | 64.1       | 9.2  |
| 香川県  | 55.6    | 35.1 | 58.4        | 64.9        | 66.1       | 19.0 |
| 愛媛県  | 53.5    | 50.4 | 45.2        | 64.8        | 69.6       | 15.7 |
| 高知県  | 48.0    | 31.3 | 44.5        | 63.6        | 70.8       | 16.5 |
| 福岡県  | 68.7    | 32.7 | 66.0        | 73.0        | 82.1       | 31.1 |
| 佐賀県  | 56.4    | 50.2 | 68.4        | 65.6        | 57.7       | 10.5 |
| 長崎県  | 59.9    | 42.8 | 66.0        | 72.5        | 76.5       | 17.3 |
| 熊本県  | 55.5    | 40.2 | 53.8        | 69.2        | 72.4       | 16.9 |
| 大分県  | 53.6    | 38.2 | 62.2        | 67.9        | 65.3       | 14.2 |
| 宮崎県  | 53.0    | 31.2 | 44.3        | 66.2        | 60.9       | 19.4 |
| 鹿児島県 | 52.4    | 36.1 | 43.9        | 66.3        | 64.8       | 15.6 |
| 沖縄県  | 67.7    | 20.5 | 76.3        | 76.8        | 81.0       | 33.3 |

※宿泊施設タイプ別にみたとき、客室稼働率が最も大きかった都道府県を朱書きにしている。

また、客室稼働率が80%を超えている都道府県は青色、90%を超えている都道府県は黄色で示している。

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

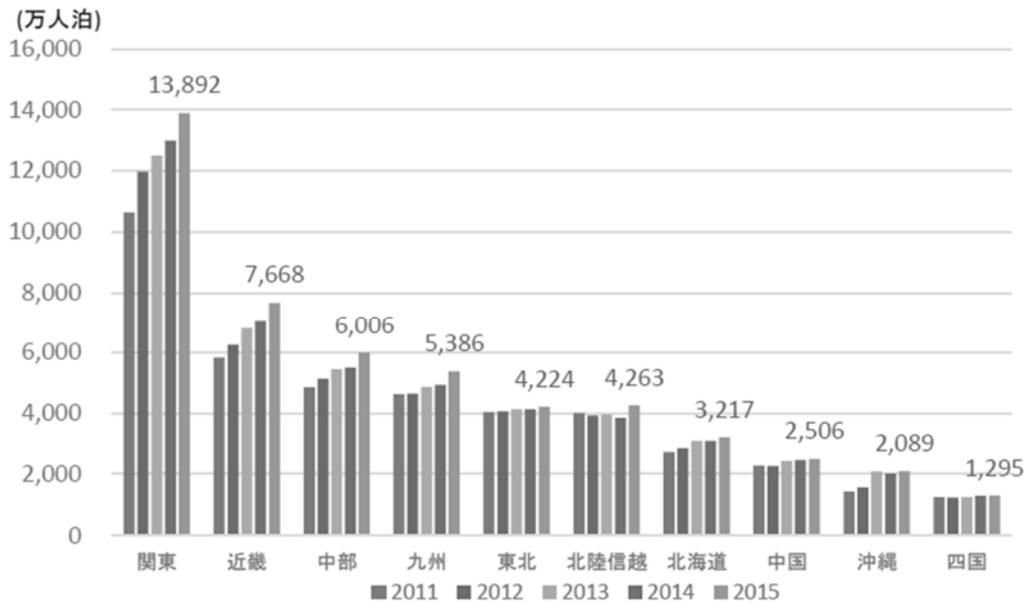
注1：2015年（平成27年）の数値は速報値。

**【地域における観光の状況】**

○2015年（平成27年）の沖縄ブロックの延べ宿泊者数は2,089万人泊となっており、全体の4.1%を占める。

○そのうち外国人延べ宿泊者数は392万人泊となっており、全体の5.1%を占める。

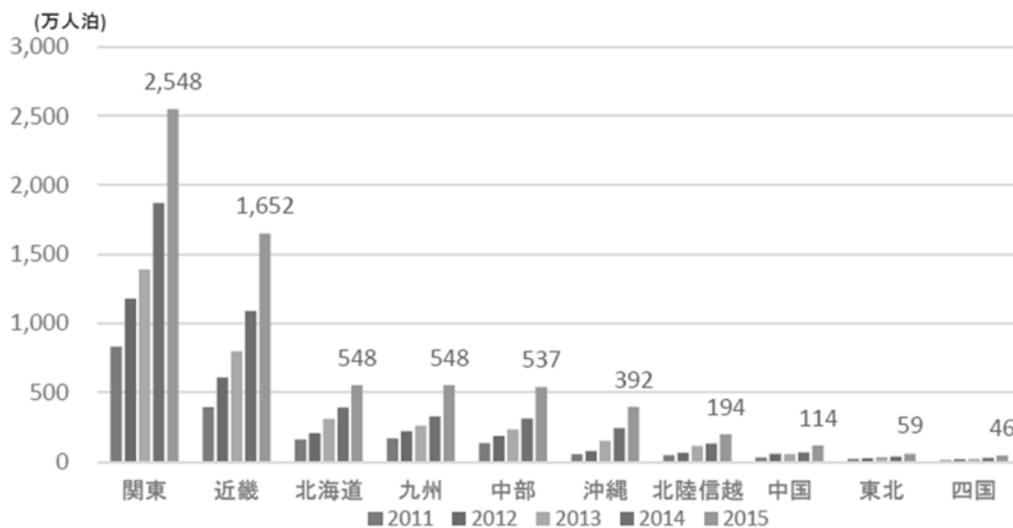
**図表 I - 19 地域ブロック別延べ宿泊者数**



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

注1：2015年（平成27年）の数値は速報値。

**図表 I - 20 地域ブロック別外国人延べ宿泊者数**



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

注1：2015年（平成27年）の数値は速報値。

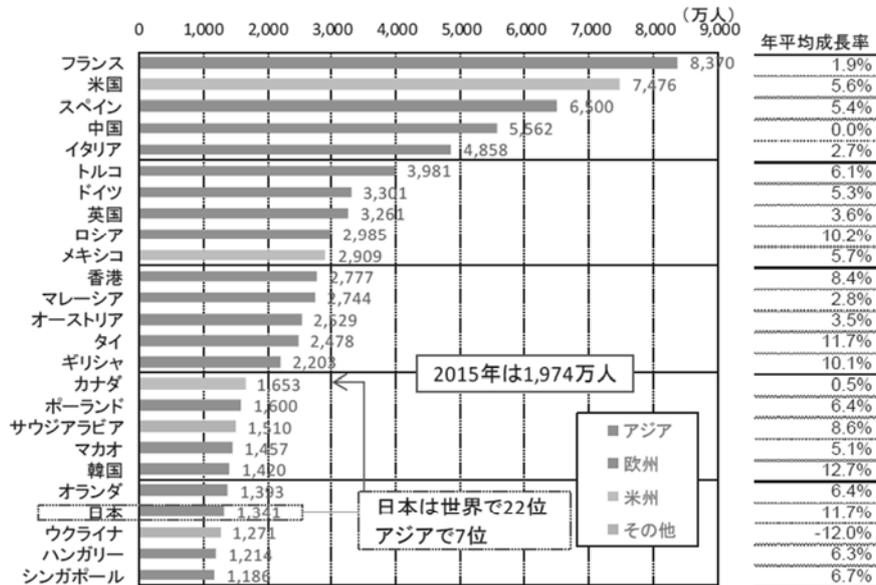
**【各国の国際観光収入と観光の経済への波及】**

○各国の外国人旅行者受入数を比較すると、2014年（平成26年）に1,341万人を記録した日本の順位は世界で22位、アジアで7位となっている。

○国際観光収入額上位10か国について外国人旅行者1人当たりの観光消費額を見ると、短期滞在者のカジノによる消費が多いマカオ（3,489ドル/人）を除くと、米国が2,371ドル/人で最も大きい。

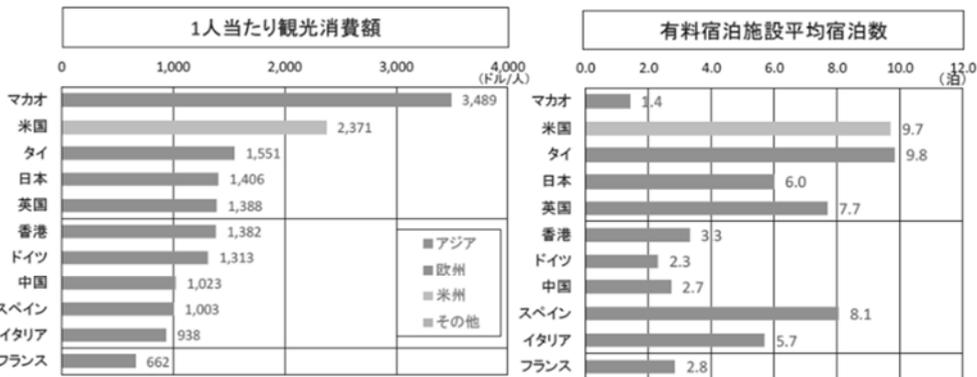
○日本は1人当たり観光消費額が1,406ドル/人と低いものの、外国人旅行者受入数  
 があまり高くない（平成24年は世界で22位、なお1位フランス、2位米国、3位ス  
 ペイン）、平均宿泊数が6.0泊にとどまっていることから、外国人が日本に長く滞在して旅  
 行を楽しむ仕掛けを検討していく必要がある。

図表Ⅱ-2 各国の外国人旅行者受入数と年平均成長率（上位25カ国）（2014年（平成26年）



資料：UNWTO（国連世界観光機関）、各国政府観光局資料に基づき日本政府観光局（JNTO）作成  
 注1：本表の数値は2015年（平成27年）6月時点の暫定値である。  
 注2：本表で採用した数値は、韓国、日本を除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数である。  
 注3：外国人訪問者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、その都度順位が変わり得る。  
 注4：外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。  
 注5：年平均成長率は2010-2014年（平成22年-26年）の直近5年間で算出

図表Ⅱ-5 外国人旅行者1人当たり観光消費額及び外国人旅行者の有料宿泊施設平均宿泊数  
 （観光収入上位10カ国+日本）（2014年（平成26年）



資料：UNWTO(国連世界観光機関)「Compendium of Tourism Statistics」資料に基づき観光庁作成  
 注1：1人当たり観光消費額は国際観光収入÷外国人旅行者数で算出。  
 注2：国際観光収入には宿泊・日帰り旅行の両方による収入が含まれているが、国によって旅行者数に日帰りの旅行者が含まれていない場合がある。よって、国際観光収入に対して外国人旅行者数が少なくなるため、1人当たり旅行消費額は高くなることに注意が必要である。  
 注3：有料宿泊施設平均宿泊数の米国、中国、イタリアは2013年（平成25年）の数値。  
 注4：有料宿泊施設平均宿泊数の日本の数値は、「訪日外国人消費動向調査」の結果から、ホテル、旅館にのみ宿泊した旅行者の平均泊数を集計。  
 注5：有料宿泊施設平均宿泊数は、留学・ビジネスなどを含め、全ての旅行目的での旅行者が対象。

④平成 27 年度版 観光の実態と志向（公益社団法人 日本観光振興協会）

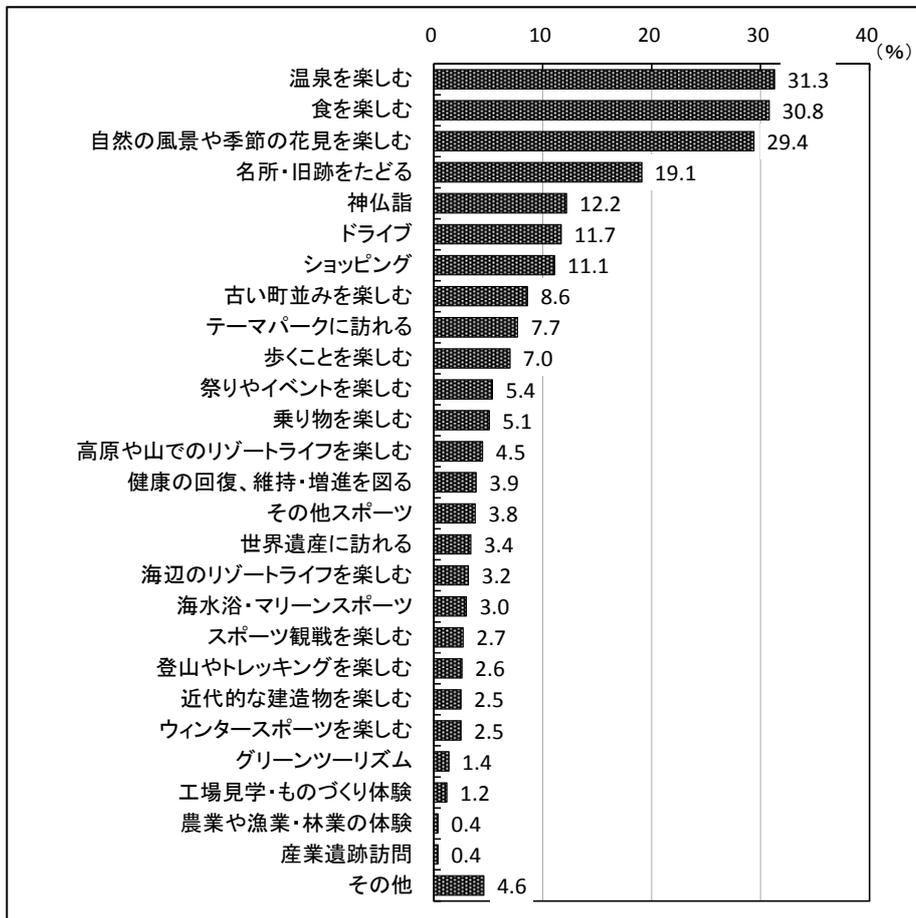
1. 調査の概要

- ①対象地域：全国（47 都道府県）
- ②調査方法：インターネット調査
- ③対象者条件：15 歳以上の男女個人（ただし、マスコミ・広告、新聞・放送業、市場調査の業種従事者は調査関連業種として除外）
- ④設計標本数：10,000 件
- ⑤標本抽出方法：都道府県別、性別・年代別人口構成比に準拠して割付（平成 22 年度国勢調査結果を使用）
- ⑥調査時期：平成 27 年 9 月 30 日～10 月 8 日

2. 調査結果の概要（一部抜粋）

【旅先での行動】

○旅先で実際に行った行動を見ると、「温泉を楽しむ」(31.3%)、「食を楽しむ」(30.8%)、「自然の風景や季節の花見を楽しむ」(29.4%) の順となっている。



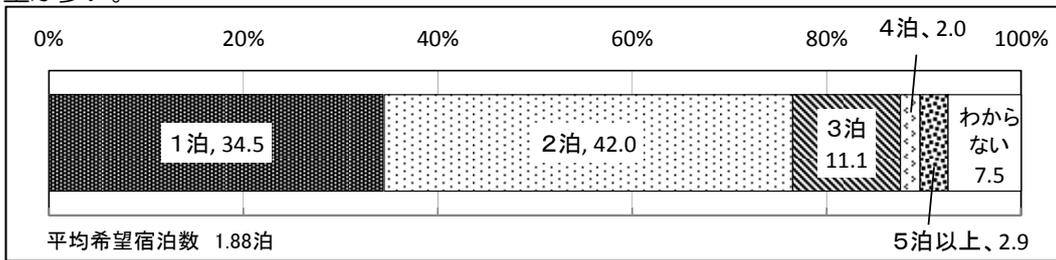
【個人の年間宿泊旅行費用】

○個人の年間宿泊旅行費用を算出すると以下の通り。

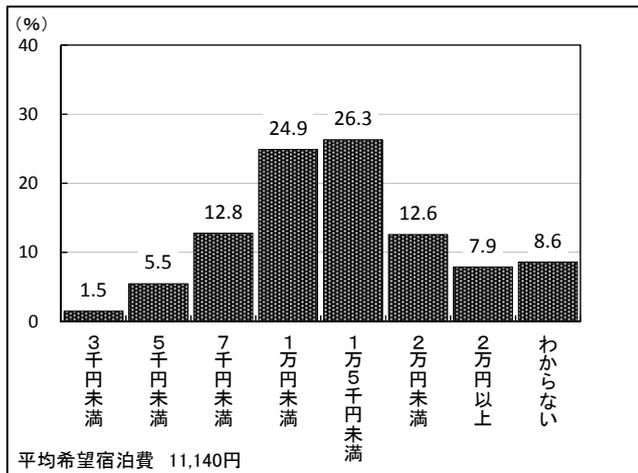
|                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 回の総費用                     | 51,180 円                |
| 1 泊あたりに換算した場合の総費用           | 30,890 円（平均宿泊数 1.66 泊）  |
| 個人年間宿泊観光旅行費用                | 132,560 円（参加者平均 2.59 回） |
| 15 歳以上の国民の年間宿泊観光旅行費         | 7 兆 7,179 億円            |
| 15 歳以上の人口（10,822 万人）の平均参加回数 | 1.39 回                  |

**【旅行に関する希望】**

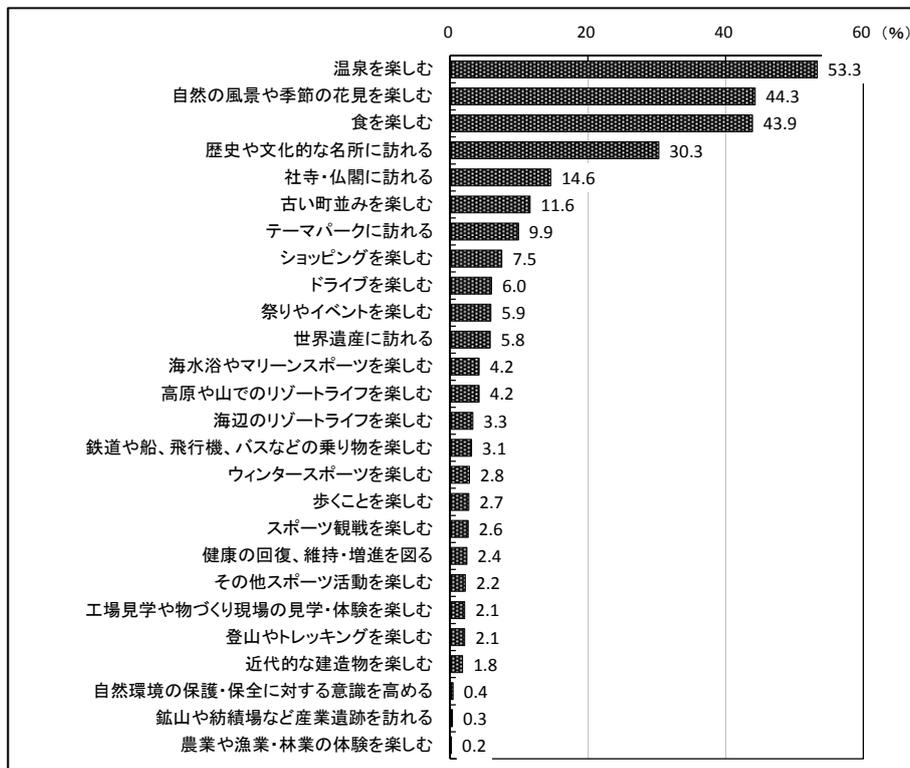
○希望宿泊数を見ると、「2泊」(42.0%)の希望が最も多く、次いで「1泊」(34.5%)の希望が続いている。1～2泊を合わせると8割弱(76.5%)となり、比較的短期の宿泊希望が多い。



○希望宿泊費を見ると、「1万円～1万5千円未満」(26.3%)が最も多く、次いで「7千円～1万円未満」(24.9%)、「5千円～7千円未満」(12.8%)となっている。



○希望する旅行の種類を見ると、「温泉を楽しむ」(53.3%)が最も多く、「自然の風景や季節の花見を楽しむ」(44.3%)、「食を楽しむ」(43.9%)と続いている。



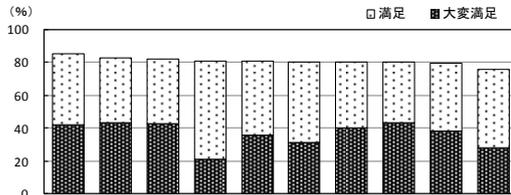
○これら上位3項目のうち、2位の「自然の風景や季節の花見を楽しむ」及び3位の「食を楽しむ」の2項目において、沖縄県は満足度が上位10位以内に入っている。

○「自然の風景や季節の花見を楽しむ」で訪れた地域としては、沖縄県は第5位(4.0%)、1位は北海道であった。また、満足度(「大変満足」+「満足」)を見ると、沖縄県の満足度は3位(82.3ポイント)となっている。一方、再来訪意向(「大変思う」+「そう思う」)では9位(78.5ポイント)と順位を落としている。

①自然の風景や季節の花見を楽しむで訪れた地域(上位10位)

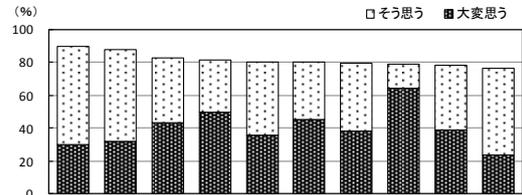
| 【全体】(n=1,960) |      | (%)  |
|---------------|------|------|
| 1             | 北海道  | 11.2 |
| 2             | 長野県  | 8.4  |
| 3             | 静岡県  | 5.6  |
| 4             | 山梨県  | 4.4  |
| 5             | 沖縄県  | 4.0  |
| 6             | 神奈川県 | 3.9  |
| 7             | 京都府  | 3.5  |
| 8             | 東京都  | 3.0  |
| 9             | 群馬県  | 2.7  |
| 10            | 青森県  | 2.6  |

②満足度(大変満足+満足)



|      | 北海道  | 大分県  | 沖縄県  | 熊本県  | 長野県  | 石川県  | 山口県  | 長崎県  | 京都府  | 山形県  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| n数   | 219  | 23   | 79   | 42   | 164  | 45   | 20   | 30   | 68   | 25   |
| 満足計  | 85.4 | 82.6 | 82.3 | 81.0 | 80.5 | 80.0 | 80.0 | 80.0 | 79.4 | 76.0 |
| 大変満足 | 42.0 | 43.5 | 43.0 | 21.4 | 36.0 | 31.1 | 40.0 | 43.3 | 38.2 | 28.0 |
| 満足   | 43.4 | 39.1 | 39.2 | 59.5 | 44.5 | 48.9 | 40.0 | 36.7 | 41.2 | 48.0 |

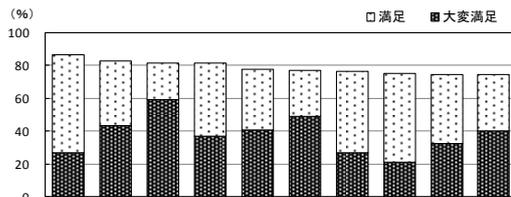
③再来訪意向(大変思う+そう思う)



|      | 愛媛県  | 山形県  | 大分県  | 北海道  | 秋田県  | 山口県  | 京都府  | 高知県  | 沖縄県  | 熊本県  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| n数   | 10   | 25   | 23   | 219  | 25   | 20   | 68   | 78   | 79   | 42   |
| 満足計  | 90.0 | 88.0 | 82.6 | 81.3 | 80.0 | 80.0 | 79.4 | 78.6 | 78.5 | 76.2 |
| 大変思う | 30.0 | 32.0 | 43.5 | 49.8 | 36.0 | 45.0 | 38.2 | 64.3 | 39.2 | 23.8 |
| そう思う | 60.0 | 56.0 | 39.1 | 31.5 | 44.0 | 35.0 | 41.2 | 14.3 | 39.2 | 52.4 |

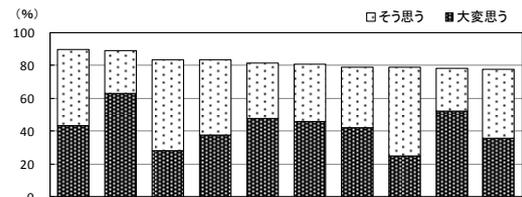
○「食を楽しむ」で訪れた地域としては、沖縄県は上位10位以内に入っていないが、満足度(「大変満足」+「満足」)を見ると、沖縄県の満足度は3位(81.5ポイント)となっている。一方、再来訪意向(「大変思う」+「そう思う」)では2位(88.9ポイント)と順位を上げており、食への評価の高さがうかがえる。

②満足度(大変満足+満足)



|      | 青森県  | 大分県  | 沖縄県  | 福岡県  | 宮城県  | 三重県  | 神奈川県 | 長野県  | 東京都  | 兵庫県  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| n数   | 15   | 23   | 27   | 70   | 54   | 43   | 93   | 28   | 161  | 90   |
| 満足計  | 86.7 | 82.6 | 81.5 | 81.4 | 77.8 | 76.7 | 76.3 | 75.0 | 74.5 | 74.4 |
| 大変満足 | 26.7 | 43.5 | 59.3 | 37.1 | 40.7 | 48.8 | 26.9 | 21.4 | 32.9 | 40.0 |
| 満足   | 60.0 | 39.1 | 22.2 | 44.3 | 37.0 | 27.9 | 49.5 | 53.6 | 41.6 | 34.4 |

③再来訪意向(大変思う+そう思う)



|      | 北海道  | 沖縄県  | 石川県  | 香川県  | 宮城県  | 京都府  | 三重県  | 長野県  | 大分県  | 和歌山県 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| n数   | 146  | 27   | 61   | 24   | 54   | 83   | 43   | 28   | 23   | 31   |
| 満足計  | 89.7 | 88.9 | 83.6 | 83.3 | 81.5 | 80.7 | 79.1 | 78.6 | 78.3 | 77.4 |
| 大変思う | 43.2 | 63.0 | 27.9 | 37.5 | 48.1 | 45.8 | 41.9 | 25.0 | 52.2 | 35.5 |
| そう思う | 46.6 | 25.9 | 55.7 | 45.8 | 33.3 | 34.9 | 37.2 | 53.6 | 26.1 | 41.9 |

## (2) 沖縄県の観光の動向

本村の観光振興施策の検討に資するよう、沖縄県における観光を取り巻く動向や観光関連施策を把握・整理し、以下に示す。

### ◆整理事項一覧

| 整理事項                                       | 備考   |
|--|--|
| ①沖縄県観光振興基本計画（第5次）                          | 計画期間：平成24年度～33年度                                 |
| ②土産・買い物向上プロジェクト<br>（平成27年度 沖縄観光消費額向上モデル事業） | 株式会社ノイズ・バリュー社<br>株式会社沖縄県物産公社<br>ブルームーンパートナーズ株式会社 |
| ③平成28年度ビジットおきなわ計画                          | 沖縄県文化観光スポーツ部                                     |
| ④平成27年度観光要覧                                | 平成28年8月 沖縄県                                      |
| ⑤平成27年度観光統計実態調査                            | 平成28年3月 沖縄県文化観光スポーツ部                             |
| ⑥平成26年度外国人観光客実態調査                          | 平成27年3月 沖縄県文化観光スポーツ部                             |
| ⑦インバウンド <sup>※1</sup> 関連情報統合調査             | 平成28年2月 沖縄県                                      |

<sup>※1</sup>インバウンド【Inbound】：元々は「外から中に入り込む」という意味だが、一般的に外国人の訪日旅行の意味で使われることが多い。対義語は、日本からの海外旅行を指すアウトバウンド(outbound)。

## ①沖縄県観光振興基本計画（第5次）

◆**計画期間**：10年間 平成24年度～平成33年度

### ◆**計画の目標**

沖縄全体の今後の目指すべき姿を指し示す沖縄21世紀ビジョンで掲げる「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築することを目的とする。

### ◆**目標フレーム（平成33年度達成目標）**

- (1) 観光収入：1兆円
- (2) 観光客1人当たり県内消費額：10万円
- (3) 平均滞在日数：5日
- (4) 人泊数：4,027万人泊（うち国内客3,152万人泊、外国空路客875万人泊）
- (5) 入域観光客数<sup>※1</sup>：1,000万人（うち国内客800万人 外国客200万人）

### ◆**基本方向**

#### 1 目指す将来像

##### (1) 将来像

世界水準の観光リゾート地

洗練された観光地としての基本的な品質を確保するとともに、独自の観光価値を発揮することにより、アジア・太平洋地域における競合地との比較対照の中で「沖縄／OKINAWA」のポジションが確立され、国内外において高いブランド力を保持する観光リゾート地として認知された状態となっている。

##### (2) 達成イメージ

将来像を実現することにより、以下の状態を達成する。

###### (観光客の視点)

⇒観光客は国内外から、ニーズに応じた観光地を訪れることができ、リラックスして沖縄ならではの感動体験と交流を楽しんでいる。

###### (観光産業の視点)

⇒観光産業は、安定的に観光収入を得ていて、県経済を牽引する存在であり、誇りと責任ある産業体を形成している。

###### (県民の視点)

⇒県民は、観光から社会的・経済的なメリットを最大限享受しており、沖縄における観光の価値を認め、積極的に魅力的な観光地づくりに参画している。

###### (観光資源の状態)

⇒観光資源は、自然・文化資源とともにその価値が尊重されており、地域の状況に応じた適切な活用がされるとともに、その保全が図られている。

#### 2 ターゲット市場の考え方

##### (1) 国内

国内市場の安定確保のため、未来訪者の需要開拓とリピーター対策を合わせて積極的に実施し、国内市場からなお一層の誘客を図る。

##### (2) 海外

マーケット特性に合わせた誘客戦略と受入体制の整備を図ることにより、海外市場からの誘客を図る。

#### 3 将来像実現の核となる3要素

##### (1) 島の海・森・生物多様性—自然—

※1入域観光客数：沖縄県に入域する者（沖縄県在住者を除く）全ての人数。

- (2) 島の歴史・文化芸能—文化—
- (3) 島の安全・安心・快適性—人・環境—

◆**施策の基本方向**

- (1) 多様で魅力ある観光体験の提供
- (2) 基盤となる旅行環境の整備
- (3) 観光産業の安定性確保
- (4) 効果的なマーケティング
- (5) 推進体制の再構築

◆**圏域別の基本方向**

- (1) 北部地域

【**主な特性**】

本圏域は拠点都市である名護市を中心として、恩納村、金武町から北の沖縄本島北部とその周辺離島から形成されている。さらに、やんばる地域の国立公園化が検討されるとともに、同地域が鹿児島県奄美地方や西表島等とあわせ「琉球諸島」として世界自然遺産登録の候補に挙げられるなど、優れた自然環境を有している。

また、沖縄海岸国定公園に指定されている西海岸地域では多くのリゾートホテルが建ち並び、沖縄を代表する観光リゾート地を形成している。さらに、第二尚氏王統発祥地である伊是名島や世界遺産に登録された今帰仁城跡、大宜味村喜如嘉の芭蕉布等、歴史的・文化的に優れた資源を有している。

【**展開の基本方向**】

多様で個性豊かな自然環境を活用したエコツーリズム<sup>※1</sup>や民泊等、体験・参加型観光の取組による地域特性、地域産業と密接に連携した観光スタイル等の充実を促進するとともに、金武湾の特性や自然、文化を活かした健康保養をテーマとした滞在型観光や海洋レジャー等の取組を促進する。

さらに、プセナ地区や恩納村海岸線に代表する西海岸地域、カヌチャ地域等のリゾート施設と万国津梁館の活用や、沖縄科学技術大学院大学をはじめ県内外の研究教育機関等と連携した学会会議等のMICEを推進するほか、圏域内の歴史・文化遺産等を生かした他圏域との広域的な連携による多様な周遊ルート開発を促進する。

あわせて、沖縄を代表する観光リゾート地としての沿道景観整備やまちなみ景観創出等、地域にふさわしい個性豊かな風景づくりを進め、観光イメージや地域の魅力向上を図る。

②土産・買い物向上プロジェクト（平成27年度 沖縄観光消費額向上モデル事業）

◆**目的**：観光土産品に対する消費額の増加及び満足度の向上を目指す。

◆**事業推進方針**：①市場の創造  
②開発と販売・プロモーション間での  
コンセプトの共有

◆**ブランドコンセプト**

「今風（NAMAKAJI）」

【**今風の概要**】

「日本の旬とは異なる季節が魅力の沖縄。その変化に富んだ沖縄の季節の素材にこだわったお土産もの。」



※1 エコツーリズム：生態系や自然環境に配慮し、旅を通じて環境に対する理解を深めようという考え方。また、そのような旅の仕方。

それが今風（NAMAKAJI）。素材に込められた沖縄の思いと今だけの沖縄の風情を感じながら商品を堪能いただきたい」

【今風（NAMAKAJI）の定義】

1. 旬や季節で変化に富んだ土産を演出
2. 高品質とこだわり
3. 沖縄らしさ

◆ターゲット・マーケット

ターゲット①「国内＝ビジネス客のリピーター」

ターゲット②「海外＝東アジア4か国」 東アジア4か国＝台湾、韓国、中国、香港

◆沖縄観光客のココロを掴む為のキーワード

- ①季節ごとに変わる商品と売り場はリピーターをつくる有効な手段
- ②シンプルで高級感のあるデザインは既存商品とは異なるイメージを形成でき、売り場で目につきやすくなる
- ③高付加価値・高単価商品の基準価格は2,000円～4,000円。
- ④沖縄観光客の商品選択は沖縄のマーケット内での相対評価
- ⑤単品勝負ではなく複数社による、多品種で販売を行う事が重要
- ⑥「生」や「生らしさ」は競合が少なく、長期的に見ればターゲットを獲得できる重要なカテゴリー

③平成28年度ビジットおきなわ計画

◆平成28年度の数値目標

| 項目                | 平成28年度<br>目標値 | 対前年度比 | 平成27年度<br>実績値 | 項目         | 平成28年度<br>目標値 | 対前年度比 | 平成27年度<br>実績値 |
|-------------------|---------------|-------|---------------|------------|---------------|-------|---------------|
| 観光収入              | 6,743億円       | 12.0% | 6,022億円       | 平均滞在日数     | 4.00日         | 0.17日 | 3.83日         |
| うち空路外国人観光客        | 1,650億円       | 32.2% | 1,248億円       | うち空路外国人観光客 | 5.50日         | 0.73日 | 4.77日         |
| うち海路外国人観光客        | 165億円         | 25.0% | 132億円         | 人泊数        | 2,516万人泊      | 11.8% | 2,250万人泊      |
| 観光客一人当たり<br>県内消費額 | 80,000円       | 5.4%  | 75,881円       | うち空路外国人観光客 | 635万人泊        | 44.6% | 439万人泊        |
| うち空路外国人観光客        | 117,000円      | 9.0%  | 107,302円      | 入域観光客数     | 840万人         | 5.8%  | 794万人         |
| うち海路外国人観光客        | 28000円        | 7.8%  | 25,973円       | うち外国人観光客   | 200万人         | 19.8% | 167万人         |

◆平成28年度の主な施策展開

2-4 観光体験等の拡充（着地型観光・離島観光の推進、消費拡大に向けた取組等）

- (3) 文化・芸能等を活用した新たな観光コンテンツを創出し、観光客がアクセスしやすいエリアでの公演実施や様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、観光資源化を推進する。
- (6) 沖縄観光閑散期対策として、沖縄の自然、文化、スポーツ等の特有の観光資源を生かした沖縄オリジナルの感動体験を演出する沖縄感動体験プログラムの実証を行う。
- (8) 安全、安心及び快適なダイビング環境を提供するため、ダイビング事業者向けにサービスレベル向上を目的としたワークショップ等を実施し、受入体制整備を進めるとともに、県内のダイビング総合情報を世界に発信し、リゾートダイビングアイランド沖縄としての認知度の向上を図る。
- (9) 自然環境等の保全に配慮し、環境と共生した持続可能な環境共生型観光を推進するため、市町村が行う環境共生観光施設の整備に対し支援するほか、エコツーリズムに関する情報発信や推進体制の強化等を行う。

## 2-5 持続可能な観光リゾート地の形成

- (1) 外国人観光客に対応するため、Wi-Fi<sup>※1</sup>環境の統合や免税書類作成システムの導入を支援するほか、多言語観光案内版の設置や観光施設等の多言語表示を促進し、今後の増加が見込まれるムスリム<sup>※2</sup>層をはじめ、観光客の多様な文化や習慣等にも対応できる受入体制の整備を促進するとともに、多言語コンタクトセンターによる外国人観光客への通訳サービスや観光案内等を引き続き行う。
- (4) インバウンド受入体制の強化を目的に、民間事業者や行政機関等がインバウンド施策の共有や課題解決に向けた意見交換等を行うインバウンド連絡会を開催するほか、「ウェルカムんちゅになろう」を合言葉に、県民が異文化等への理解を深め、外国人観光客を温かくお迎えする気運の醸成を図る。

## ④平成 27 年度 観光要覧

### ◆入域観光客数に関する統計

#### (1) 調査概要

##### (目的)

沖縄県に來県する観光客を計数的に把握し、観光関連業界へ情報提供するとともに、観光行政の基礎資料とする。

##### (調査の期間)

【年度】平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの期間

【暦年】平成 27 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの期間

##### (調査の方法)

##### ◆国内客

本土ー沖縄間（本土から沖縄本島以外の離島への直行便も含む）に就航する航空会社と海運会社の航路別利用月間旅客輸送実績に、航空乗客アンケート調査により算出された混在率を乗じ、国内客（沖縄県在住者を除く）の人数を推計する。

##### ◆外国客

沖縄県内で入国審査を受けた外国人の人数を集計し、外国客数とする。特例上陸者（乗務員等の一時上陸者）を含む。（沖縄県以外の地域で入国した後、国内路線で沖縄県に入域する外国人は国内客数として推計される。）

##### (用語の定義)

##### 「入域観光客数」

沖縄県に入域する者（沖縄県在住者を除く）の全ての人数

##### 「混在率」

沖縄県が実施する航空乗客アンケート調査の結果に基づき、航空乗客の占める沖縄県在住者以外の者の割合

#### (2) 入域観光客数の動向

○平成 27 年度の観光客数は、793 万 6,300 人（対前年比+76 万 6,400 人、+10.7%）となっている。このうち、国内客は前年度実績から 8 万 2,100 人（+1.3%）増加の 626 万 6,000 人、外国客は 68 万 4,300 人（69.4%）増加の 167 万 300 人となり、国内・外国客とともに 3 年連続で過去最高を記録している。

○国内客の入込増の要因として、主に羽田ー石垣及び福岡ー那覇路線の拡充や、関西方面が好調であったこと、成田及び名古屋ー那覇路線の新規就航を含む LCC<sup>※3</sup>を中心とした航空路線が拡充したことが考えられる。

※1 Wi-Fi【Wireless Fidelity】：パソコンやテレビ、スマホ、タブレット、ゲーム機などのネットワーク接続に対応した機器を、無線（ワイヤレス）で LAN（Local Area Network）に接続する技術のこと。

※2 ムスリム：イスラム教徒のこと。

※3 LCC【Low Cost Carrier】：格安航空会社

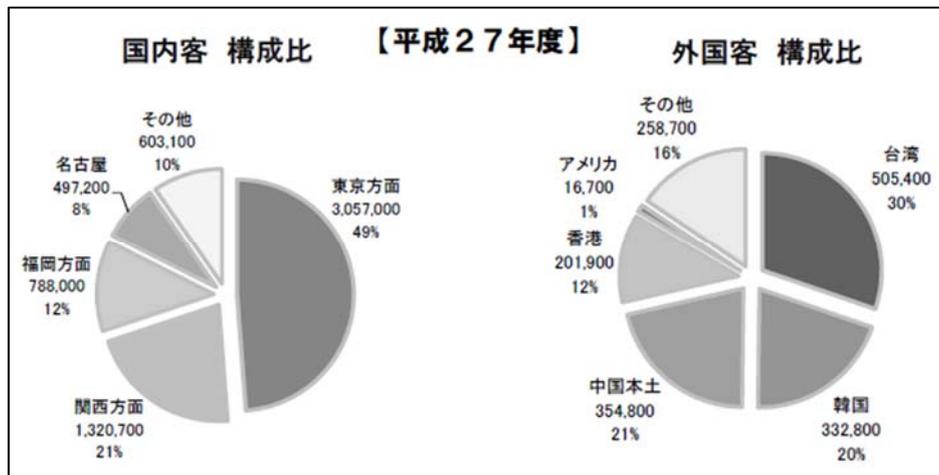
○外国客の入込増の要因として、全体として円安傾向であったことに伴い、訪日旅行需要が高かったことに加え、クルーズ船の例年より長い運航期間と寄港回数の大幅増等が考えられる。

最近5年間の入域観光客数の動向

|       | 入域観光客数    |         | 国内客       |        | 外国客       |         |
|-------|-----------|---------|-----------|--------|-----------|---------|
|       | 人数(人)     | 対前年度比   | 人数(人)     | 対前年度比  | 人数(人)     | 対前年度比   |
| H23年度 | 5,528,000 | △ 3.1%  | 5,226,600 | △ 3.6% | 301,400   | + 6.6%  |
| H24年度 | 5,924,700 | + 7.2%  | 5,542,200 | + 6.0% | 382,500   | + 26.9% |
| H25年度 | 6,580,300 | + 11.1% | 5,953,100 | + 7.4% | 627,200   | + 64.0% |
| H26年度 | 7,169,900 | + 9.0%  | 6,183,900 | + 3.9% | 986,000   | + 57.2% |
| H27年度 | 7,936,300 | + 10.7% | 6,266,000 | + 1.3% | 1,670,300 | + 69.4% |

○平成 27 年度の国内客の地域別入域状況を見ると、東京方面が 305 万 7,000 人（対前年比+1 万 900 人、+0.4%）と一番高く、関西方面、福岡方面とつづいている。

○外国客の国籍別入域状況を見ると、台湾が 50 万 5,040 人（対前年比+14 万 3,200 人、+39.5%）と最も高く、中国本土、韓国とつづいている。



◆観光消費額、観光収入に関する統計、資料

(1) 観光収入および観光消費額の動向（年度）

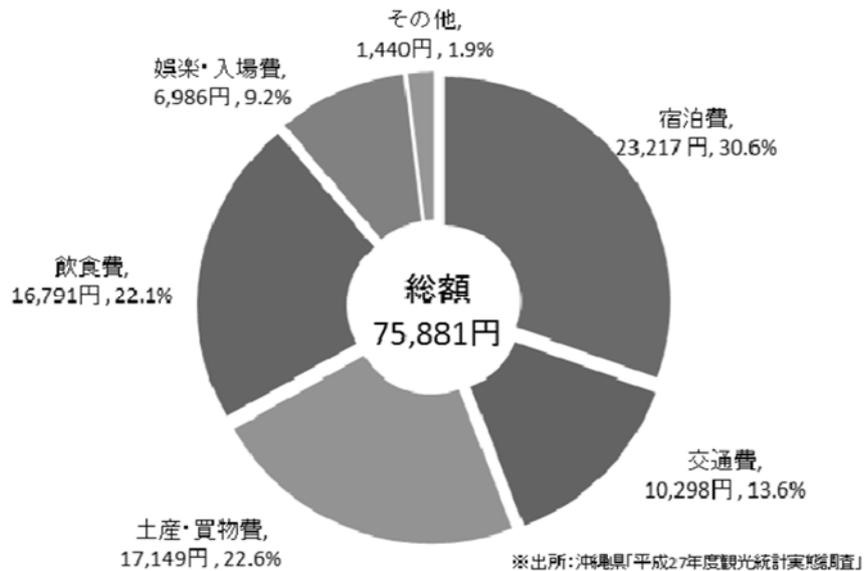
○平成 27 年度の観光収入は、6,022 億 1,400 万円（対前年比+680 億 4,200 万円、+ 12.7%）となっている。観光客一人当たり県内消費額の増、入域観光客数の大幅な増加により、前年度と比較し 12.7%増となり、観光収入は3年連続で過去最高を記録している。

○観光客一人当たり県内消費額は、75,881 円となっている（対前年比+1.9%）。

■観光収入及び一人当たり消費額の推移

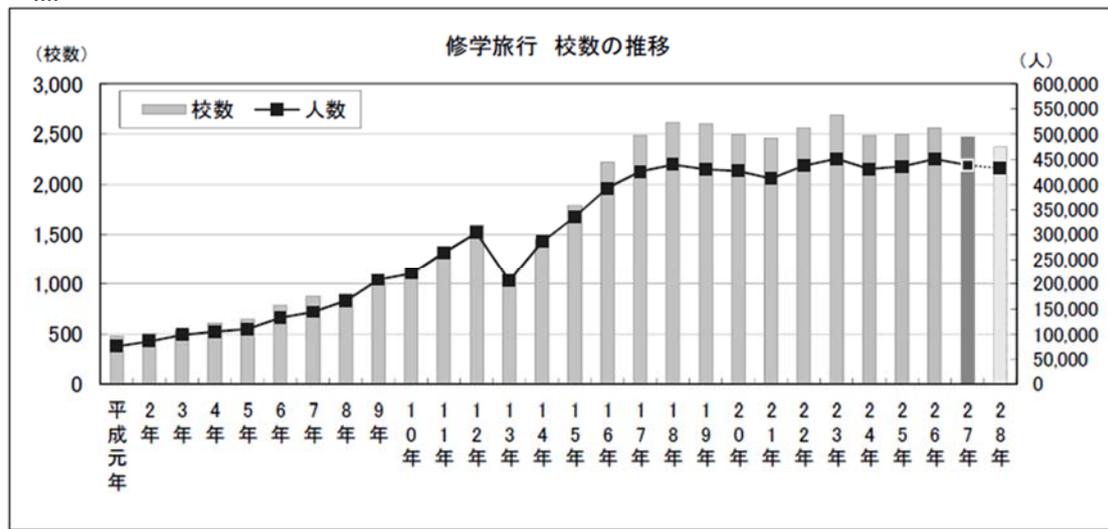
| 区分<br>年度 | 観光収入<br>(百万円) |        | 観光客一人当たり消費額<br>(円) |        | 入域観光客数<br>(人) |        |
|----------|---------------|--------|--------------------|--------|---------------|--------|
|          | 実績            | 対前年度比  | 実績                 | 対前年度比  | 実績            | 対前年度比  |
| H18年度    | 408,286       | 100.6% | 71,560             | 98.3%  | 5,705,100     | 102.4% |
| H19年度    | 428,939       | 105.1% | 72,795             | 101.7% | 5,892,300     | 103.3% |
| H20年度    | 429,882       | 100.2% | 72,458             | 99.5%  | 5,934,300     | 100.7% |
| H21年度    | 377,832       | 87.9%  | 66,403             | 91.6%  | 5,690,000     | 95.9%  |
| H22年度    | 402,526       | 106.5% | 70,553             | 106.2% | 5,705,300     | 100.3% |
| H23年度    | 378,264       | 94.0%  | 68,427             | 97.0%  | 5,528,000     | 96.9%  |
| H24年度    | 399,674       | 105.7% | 67,459             | 98.6%  | 5,924,700     | 107.2% |
| H25年度    | 447,868       | 112.1% | 68,062             | 100.9% | 6,580,300     | 111.1% |
| H26年度    | 534,172       | 119.3% | 74,502             | 109.5% | 7,169,900     | 109.0% |
| H27年度    | 602,214       | 112.7% | 75,881             | 101.9% | 7,936,300     | 110.7% |

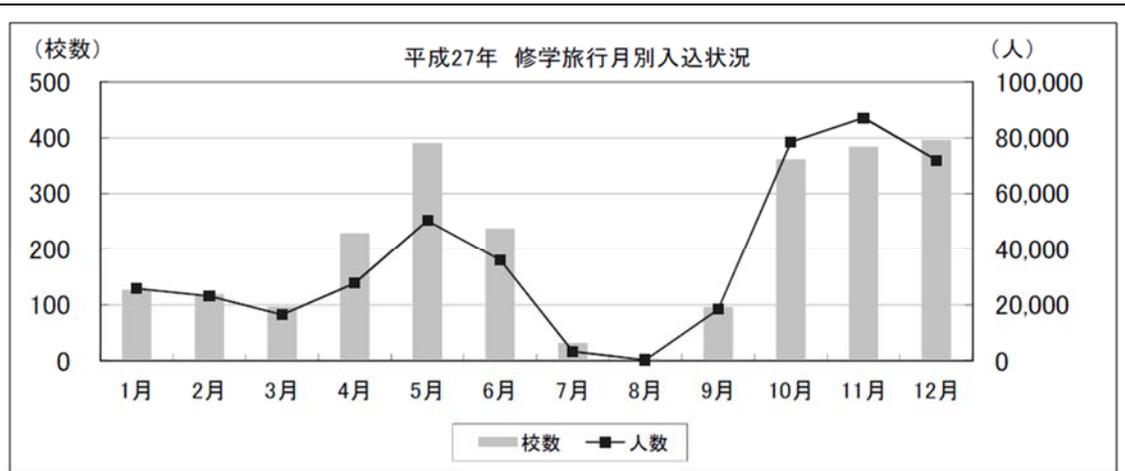
■平成 27 年度観光客一人当たり県内消費額の内訳



◆修学旅行に関する統計

- 平成 27 年の沖縄修学旅行の入込実績は、校数 2,473 校（対前年－82 校、－3.2%）、人数は 43 万 8,854 人（対前年－12,105 人、－2.7%）となっている。
- 平成 23 年は東日本大震災による旅行先の振替の影響もあり、校数、人数ともに過去最高となったが、平成 24 年は一昨年の水準に戻った。平成 23 年を除くと、平成 17 年からは 2,500 校前後、40～45 万で推移している。
- 平成 27 年の修学旅行月別入込状況を見ると、5月、10月、11月、12月に校数、人数ともに多くなっている。
- 宿泊地別入込状況（平成 27 年）を見ると、那覇市の 1,340 校に次いで、恩納村が 910 校となっている。





■ 宿泊地別入込状況 (平成27年)

(単位: 校、%)

| 市町村名      | 校数    | 構成比    |
|-----------|-------|--------|
| 1 那覇市     | 1340  | 28.2%  |
| 2 恩納村     | 910   | 19.2%  |
| 3 本部町     | 396   | 8.3%   |
| 4 名護市     | 368   | 7.8%   |
| 5 読谷村     | 311   | 6.6%   |
| 6 伊江村     | 280   | 5.9%   |
| 7 南城市     | 158   | 3.3%   |
| 8 糸満市     | 125   | 2.6%   |
| 9 うるま市    | 118   | 2.5%   |
| 10 北谷町    | 116   | 2.4%   |
| 11 今帰仁村   | 103   | 2.2%   |
| 12 石垣市    | 82    | 1.7%   |
| 13 金武町    | 51    | 1.1%   |
| 14 北中城村   | 51    | 1.1%   |
| 15 竹富町    | 45    | 0.9%   |
| 16 沖繩市    | 43    | 0.9%   |
| 17 東村     | 36    | 0.8%   |
| 18 宮古島市   | 33    | 0.7%   |
| 19 豊見城市   | 31    | 0.7%   |
| 20 国頭村    | 30    | 0.6%   |
| 21 宜野湾市   | 26    | 0.5%   |
| 22 渡嘉敷村   | 24    | 0.5%   |
| 23 伊是名村   | 23    | 0.5%   |
| 24 座間味村   | 13    | 0.3%   |
| 25 久米島町   | 6     | 0.1%   |
| 26 中城村    | 5     | 0.1%   |
| 27 大宜味村   | 4     | 0.1%   |
| 28 伊平屋村   | 1     | 0.0%   |
| 29 八重瀬町   | 1     | 0.0%   |
| 30 その他・不明 | 18    | 0.4%   |
| 合計        | 4,748 | 100.0% |

注) 同一校の複数市町村への宿泊を含む。

### ◆リゾートウエディング※<sup>1</sup>に関する統計

#### 沖縄リゾートウエディングとは

県外及び海外に在住する新郎新婦が、沖縄でウエディングをあげることを目的に来県し行うウエディングのことである。

#### 調査方法

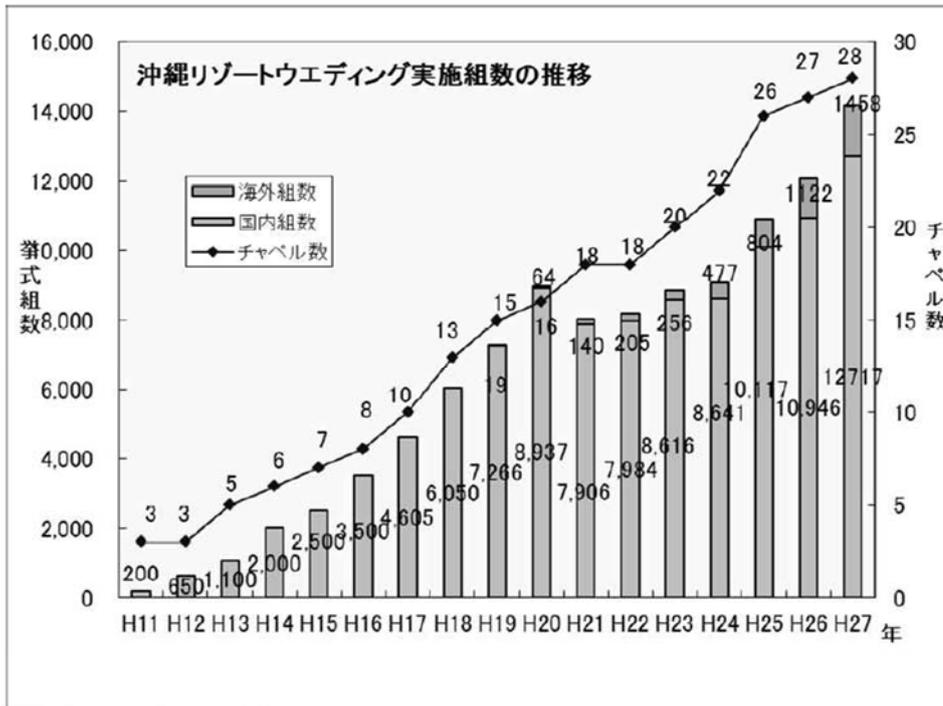
沖縄リゾートウエディングを取り扱う県内関係企業 59 社を対象に調査を実施。このうち回答のあった 49 社の数値を集計した。

#### 沖縄リゾートウエディングの挙式組数と特徴

○平成 27 年「沖縄リゾートウエディング」の実施組数は、14,715 組（対前年比+2,107 組数、+17.5%）である。内訳は、国内組数が 12,717 組数（対前年比+1,771 組、+16.2%）、海外組数が 1,458 組数（対前年比+336 組数、+29.9%）となっている。

○月別では、涼しく比較的安く来県できる季節である、3月・4月・10月・11月に集中しており、1月・8月・12月の挙式組数は少なくないが平成 27 年は前年と比較して、2月以外の全ての月で挙式組数が増加している。

○香港からニーズがあるリーガルウエディング※<sup>2</sup>（海外で現地の法律に基づいて結婚すること）の実施組数も確実に増加しており、平成 27 年は 312 件のリーガルウエディングの届出があった（県実施の市町村に対する調査結果）。読谷村での実施が最も多く、恩納村・国頭村・名護市とつづいている。



(注)沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課調べ

### ◆宿泊施設に関する統計

#### 宿泊施設実態調査（施設数、客室数、収容人数）

○宿泊施設軒数は 1,644 軒（対前年比+123 軒、108.0%）、客室数は 4 万 1,037 数（対前年比+794 室、102.0%）、収容人数は 10 万 4,724 人（対前年比+2,466 人、102.4%）となっている。

※<sup>1</sup>リゾートウエディング：リゾート地で行う結婚式。美しい自然に囲まれたチャペルでのセレモニーやガーデンパーティーなど、従来にない個性豊かな結婚式を挙げることができる。

※<sup>2</sup>リーガルウエディング：海外で結婚式を挙げること。リーガルという言葉には「法的な、合法的」という意味が含まれ、この場合、現地の民法に則って行うことが決まりとなっている。

○平成27年宿泊施設別軒数・客室数・収容人数を見ると、民宿の増加率（軒数 1,266 軒・対前年比 110.2%、客室数 8,000 人・対前年比 105.6%、収容人数 22,004 人・対前年比 106.6%）が、ホテル・旅館、団体経営施設・ユースホステルと比べ高くみられる。

|        | H27年      | H26年      | 増減数      | 対前年比   |
|--------|-----------|-----------|----------|--------|
| 宿泊施設軒数 | 1,664 軒   | 1,541 軒   | +123 軒   | 108.0% |
| 客室数    | 41,037 室  | 40,243 室  | +794 室   | 102.0% |
| 収容人数   | 107,190 人 | 104,724 人 | +2,466 人 | 102.4% |

平成27年宿泊施設 軒数・客室数・収容人数

平成27年12月31日現在

| 平成27年                 | 軒数    |          | 客室数    |          | 収容人数    |          |
|-----------------------|-------|----------|--------|----------|---------|----------|
|                       | (軒)   | 対前年比 (%) | (室)    | 対前年比 (%) | (人)     | 対前年比 (%) |
| ホテル・旅館                | 362   | 101.7%   | 32,648 | 101.1%   | 82,434  | 101.3%   |
| 大規模<br>(収容人数300人以上)   | 85    | 104.9%   | 20,144 | 104.8%   | 56,138  | 102.9%   |
| 中規模<br>(収容人数299~100人) | 111   | 97.4%    | 9,075  | 93.7%    | 19,347  | 96.7%    |
| 小規模<br>(収容人数100人未満)   | 166   | 103.1%   | 3,429  | 101.9%   | 6,949   | 102.2%   |
| 民宿等                   | 1,266 | 110.2%   | 8,000  | 105.6%   | 22,004  | 106.9%   |
| 団体経営施設・ユースホステル        | 36    | 100.0%   | 389    | 100.0%   | 2,752   | 99.6%    |
| 合計                    | 1,664 | 108.0%   | 41,037 | 102.0%   | 107,190 | 102.4%   |

※1 ホテル・旅館＝リゾートホテル、ビジネス・宿泊特化型ホテル、シティホテル、旅館

※2 民宿等＝民宿、ペンション・貸別荘、ドミトリー・ゲストハウス、ウィークリーマンション

※3 平成27年1月1日～平成27年12月31日の期間に新規開業・廃業した施設のほか、新たに宿泊施設の営業・廃業の実態が確認された施設も含む。

■恩納村内宿泊施設別軒数・客室数・収容人数

| 平成27年        | 軒数 | 客室数   | 収容人数   |
|--------------|----|-------|--------|
| ホテル・旅館       | 22 | 3,845 | 13,245 |
| 民宿           | 9  | 55    | 169    |
| ペンション・貸別荘    | 58 | 285   | 1,281  |
| ドミトリー・ゲストハウス | 2  | 10    | 64     |
| ウィークリーマンション  | 1  | 20    | 48     |
| 団体経営施設       | 0  | 0     | 0      |
| ユースホステル      | 0  | 0     | 0      |
| 合計           | 92 | 4,215 | 14,807 |

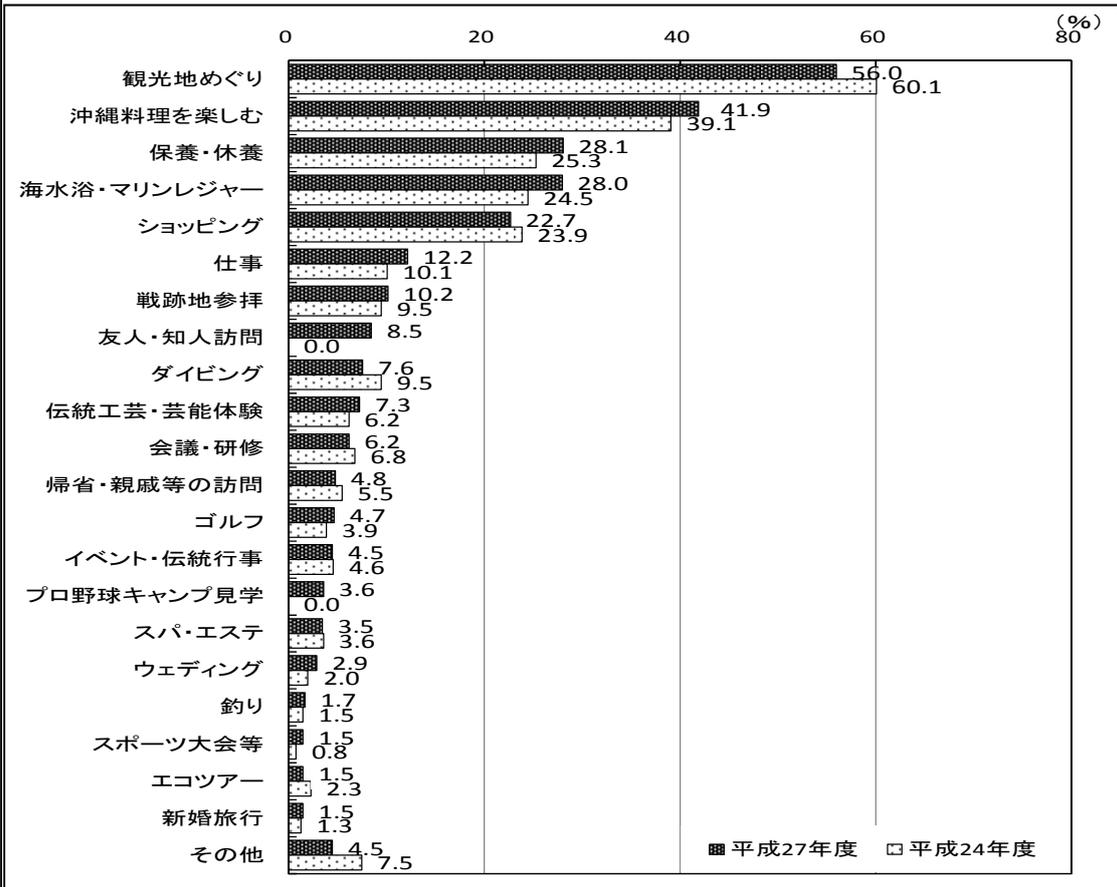
⑤平成 27 年度観光統計実態調査

◆県外客の旅行内容

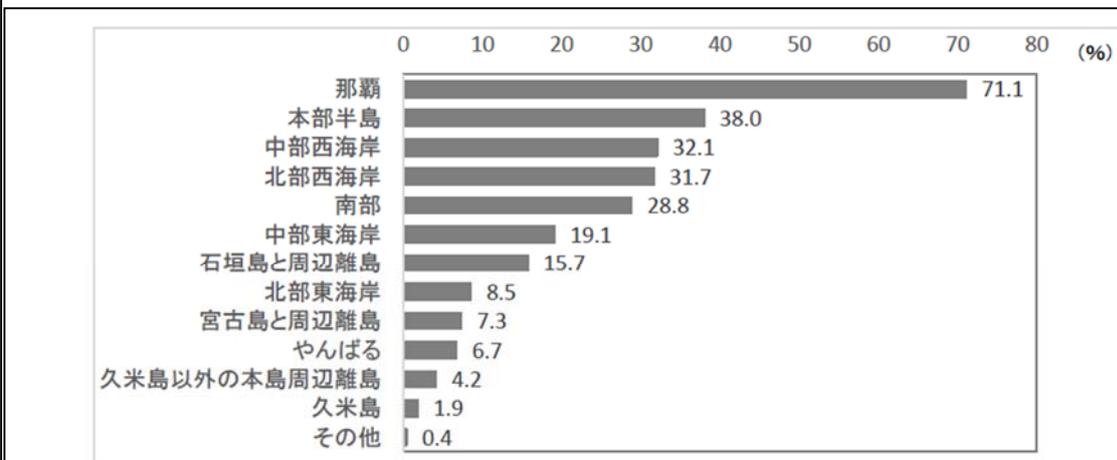
○県外客の体験した活動内容として、「観光地めぐり」が 56.0%と最も多くみられ、「沖縄料理を楽しむ」、「保養・休養」、「海水浴・マリトレジャー」とつづいている。

○県外客の訪問地域・宿泊地域ともに「那覇市」の割合が高く、北部西海岸は訪問地域としては 31.7%みられるが、宿泊地域としては 20.9%となっている。

■県外客の体験した活動内容（複数回答）

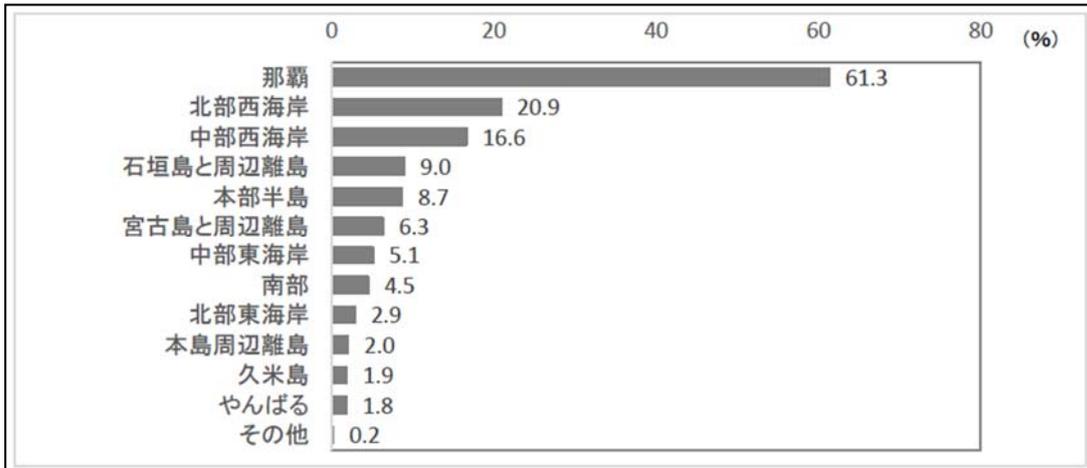


■県外客の訪問地域



(注) 移動で通過しただけの場所は除く。構成比は無回答割戻し後(以下同じ)。

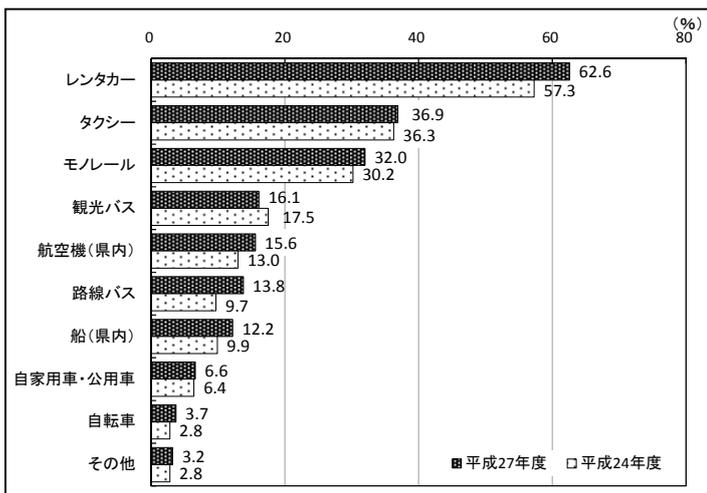
■ 県外客の宿泊地域



◆ 県外客の移動手段

○ 県外客の交通手段は、「レンタカー」が62.6%で最も多く、次いで「タクシー」(36.9%)、「モノレール」(32.0%)となっている。

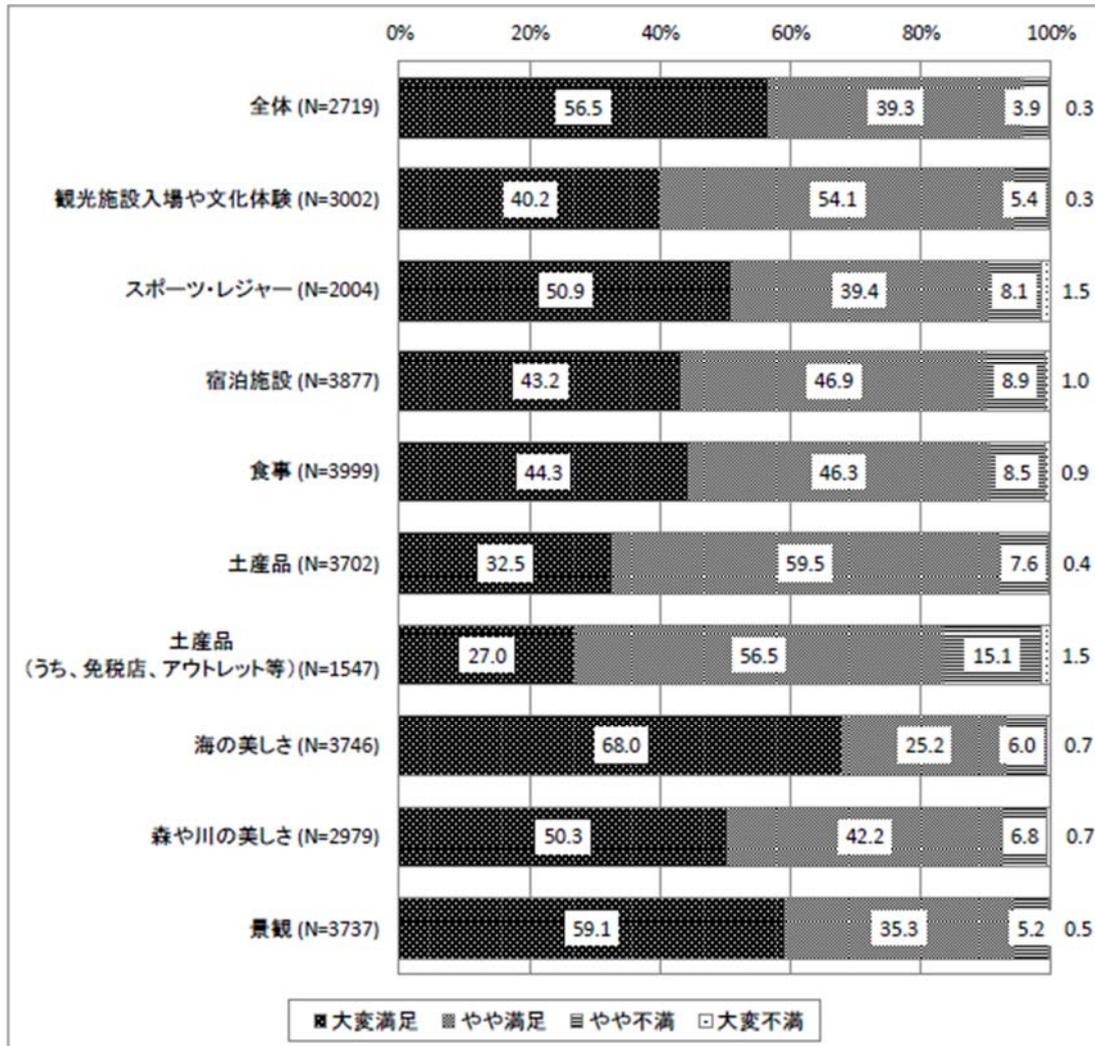
■ 県外客の交通手段



◆沖縄旅行の満足度

○旅行全体の満足度を見ると、大変満足（56.5%）とやや満足（39.3%）とあわせて、9割強が満足となっている。

○項目別で見ると、「海的美しさ」に93.2%が満足と回答した割合が最も高く、次いで景観、森・川のうつくしさ、スポーツ・レジャーへの満足度が高くみられる。



(注) 満足度に対する構成比は無回答を除く総数に対するもの(以下同じ)

## ⑥平成 26 年度外国人観光客実態調査

### ◆空路調査

○調査対象者：那覇空港、石垣空港を出国する訪日外国人

ただし、1年以上の滞在者、「永住者」、「日本人の配偶者」、「永住者の配偶者」、「定住者」等、日本に居住している人、乗組員を除く。

○調査場所：那覇空港、石垣空港国際線ターミナル搭乗待合室

○調査方法

4言語の紙対応調査票を用い、外国語を話せる調査員による聞き取り調査を実施

※調査対応言語：英語、韓国語、中国語（繁体字、簡体字）、石垣は英語と中国語（繁体字）

○調査標本数

|                | 那覇空港調査               | 石垣空港調査   |
|----------------|----------------------|--|
| 平成 26 年 4-6 月期 | 6 月 13 日（金）～15 日（日）  | —  |
| 7-9 月期         | 7 月 25 日（金）～27 日（日）  | 7 月 26 日（土）、30 日（水）<br>8 月 2 日（土）、16 日（土）、<br>20 日（水）、23 日（土）<br>9 月 17 日（水）、20 日（土）、<br>24 日（水）、27 日（土） |
| 10-12 月期       | 11 月 21 日（金）～23 日（日） | 10 月 1 日（水）、4 日（土）   |
| 平成 27 年 1-3 月期 | 1 月 23 日（金）～25 日（日）  | —  |

#### 那覇空港調査

|     | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 | 合計    |
|-----|-------|-------|---------|-------|-------|
| 全体  | 323   | 351   | 355     | 383   | 1,412 |
| 台湾  | 122   | 140   | 112     | 111   | 485   |
| 韓国  | 53    | 62    | 65      | 117   | 297   |
| 香港  | 75    | 53    | 86      | 65    | 279   |
| 中国  | 59    | 74    | 73      | 68    | 274   |
| 米国  | 3     | 12    | 7       | 11    | 33    |
| その他 | 11    | 10    | 12      | 11    | 44    |

#### 石垣空港調査

|     |     |
|-----|-----|
| 全体  | 356 |
| 台湾  | 330 |
| 韓国  | 2   |
| 香港  | 14  |
| 中国  | 4   |
| 米国  | 1   |
| その他 | 5   |

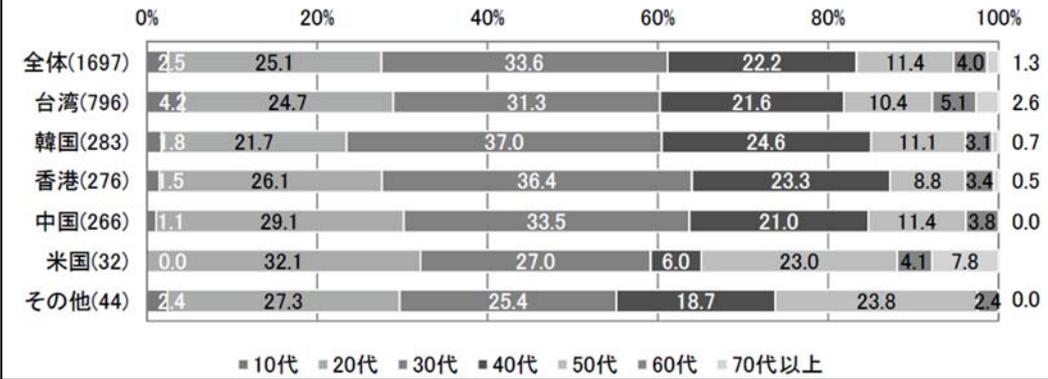
### ◆訪沖外国人の属性と旅行内容

○年代別構成比の全体を見ると、30代（33.6%）が最も高く、次いで20代（25.1%）となっている。台湾、韓国、香港、中国本土の主要4か国・地域の年代別の割合も、20代と30代で、約6割を占める。

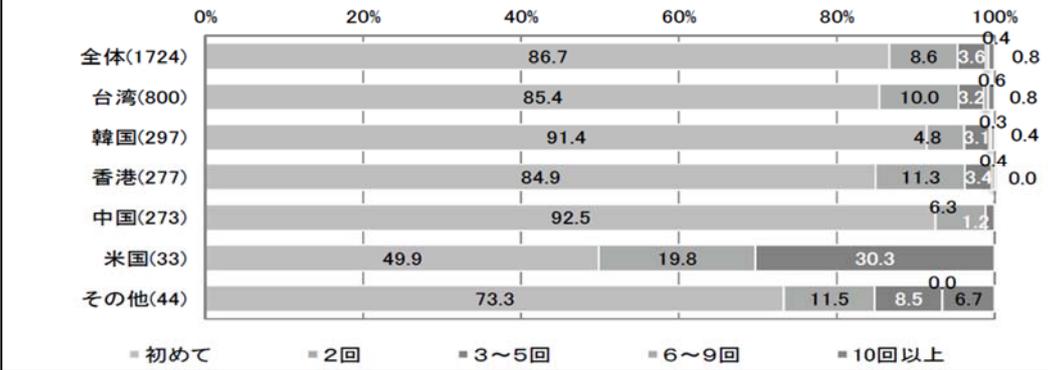
○沖縄旅行回数を見ると、全体の9割弱が「初めて」となっている。国籍別で見ると、韓国、中国本土の9割が「初めて」と回答している。一方で、米国は「初めて」が約5割（49.9%）となっている。

○沖縄訪問の目的として、9割が「観光・レジャー」と回答している。国籍別で見ると、台湾、韓国、香港、中国本土の9割が「観光・レジャー」を目的としているが、米国は「親族・知人訪問」を目的とした訪問が4割と高くみられる。

図表 1-2 年代別構成比（国籍・地域別）

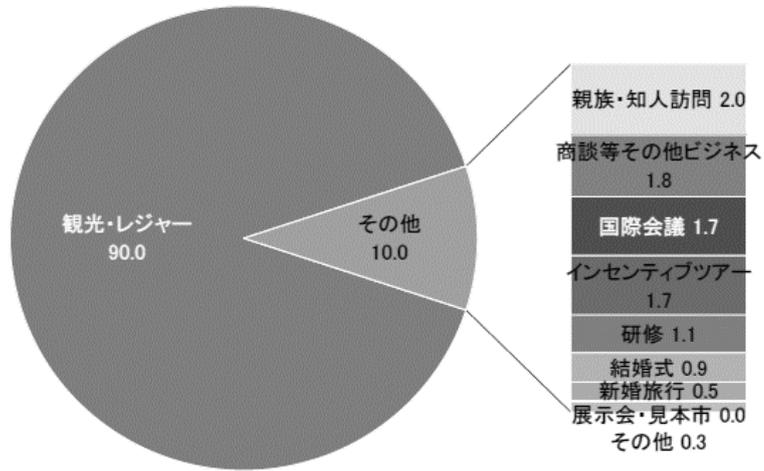


図表 1-5 沖縄旅行回数（国籍・地域別）



図表 1-7 沖縄訪問の目的

(%)  
n=1,742

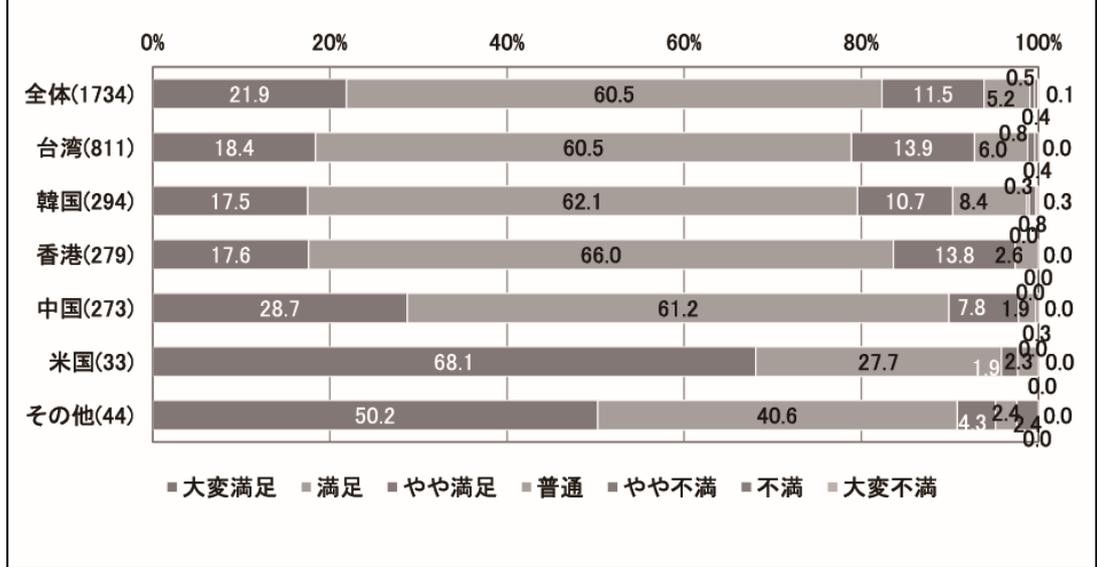


|            | 全体<br>(1,742) | 台湾<br>(815) | 韓国<br>(297) | 香港<br>(279) | 中国<br>(274) | 米国<br>(33) | その他<br>(44) |
|------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 観光・レジャー    | 90.0          | 93.2        | 93.3        | 93.6        | 90.3        | 24.0       | 56.4        |
| 親族・知人訪問    | 2.0           | 0.4         | 1.0         | 0.3         | 1.0         | 40.5       | 16.8        |
| 商談等その他ビジネス | 1.8           | 1.0         | 1.1         | 0.9         | 1.4         | 31.3       | 6.7         |
| 国際会議       | 1.7           | 0.6         | 1.3         | 0.3         | 2.1         | 1.9        | 14.0        |
| インセンティブツアー | 1.7           | 3.1         | 0.0         | 0.7         | 3.3         | 0.0        | 0.0         |
| 研修         | 1.1           | 0.4         | 3.0         | 0.0         | 0.3         | 0.0        | 2.4         |
| 結婚式        | 0.9           | 0.4         | 0.0         | 3.3         | 0.0         | 0.0        | 1.9         |
| 新婚旅行       | 0.5           | 0.8         | 0.3         | 1.0         | 0.0         | 0.0        | 0.0         |
| 展示会・見本市    | 0.0           | 0.0         | 0.0         | 0.0         | 0.3         | 0.0        | 0.0         |
| その他        | 0.3           | 0.0         | 0.0         | 0.0         | 1.1         | 2.3        | 1.9         |

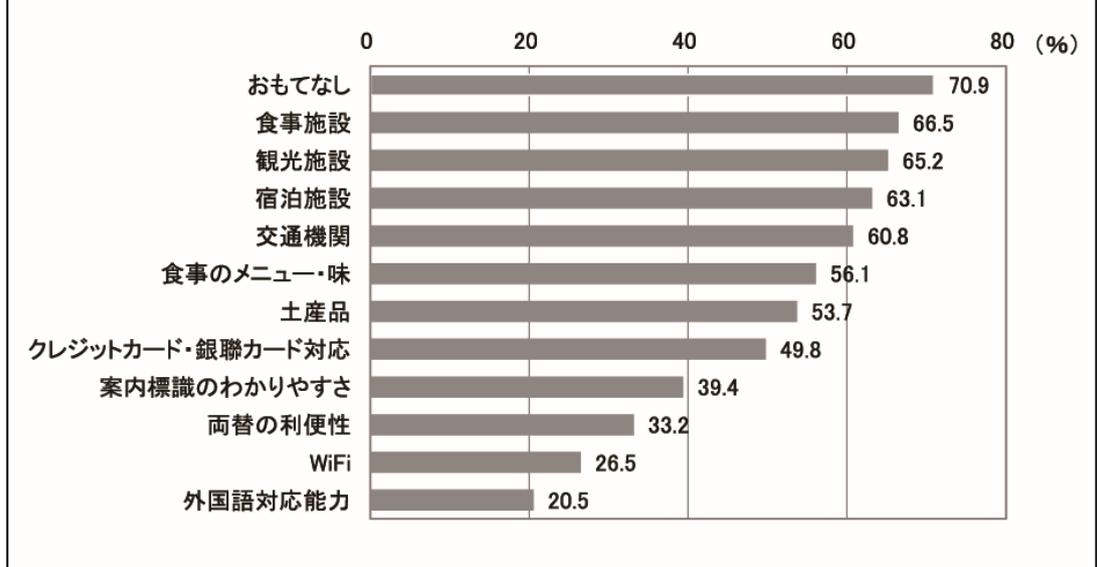
○沖縄旅行全体の満足度を見ると、全体の9割(93.9%)が満足と回答している(大変満足、満足、やや満足の合計)。国籍別で見ると、米国の約7割(68.1%)が大変満足と回答している。

○項目別満足度では、「おもてなし」への満足度が約7割(70.9%)と最も高い。一方で、Wi-Fi(26.5%)や外国語対応能力(20.5%)と、それぞれの満足度が低い。

図表 1-29 旅行全体の満足度(国籍・地域別)



図表 1-31 項目別満足度



## ⑦インバウンド関連情報統合調査

### 第2章 県内宿泊施設等Wi-Fi環境実態調査

#### ◆調査方法

沖縄県内の観光・宿泊施設にアンケートを送付し、施設の設置状況及び設定者が考えるフリーWi-Fiの方向性（意向）について集計した。

#### ■観光・宿泊施設アンケート実施状況

|       |  |
|-------|--|
| 調査実施日 | 2015年11月16日～12月18日   |
| 調査対象  | 沖縄県内の観光・宿泊施設(453施設)<br>内訳:観光施設97施設、宿泊施設356施設   |
| 調査方法  | 郵送により送付、WEB画面への記入及びFAXにより回収。Wi-Fi設置状況のみは電話による聞き取り調査を含む。  |
| 回答総数  | 243施設(回収率53.6%) (Wi-Fi設置状況のみ453施設(100%))<br>内訳:観光施設70施設(72.2%)、宿泊施設173施設(48.6%)                      |
| 設問    | ○フリーのインターネットサービスの提供状況<br>○フリーWi-Fiの接続方法・セキュリティ状況<br>○未導入施設への支援状況<br>○フリーWi-Fiの課題<br>○フリーWi-Fiの利用促進方策 |

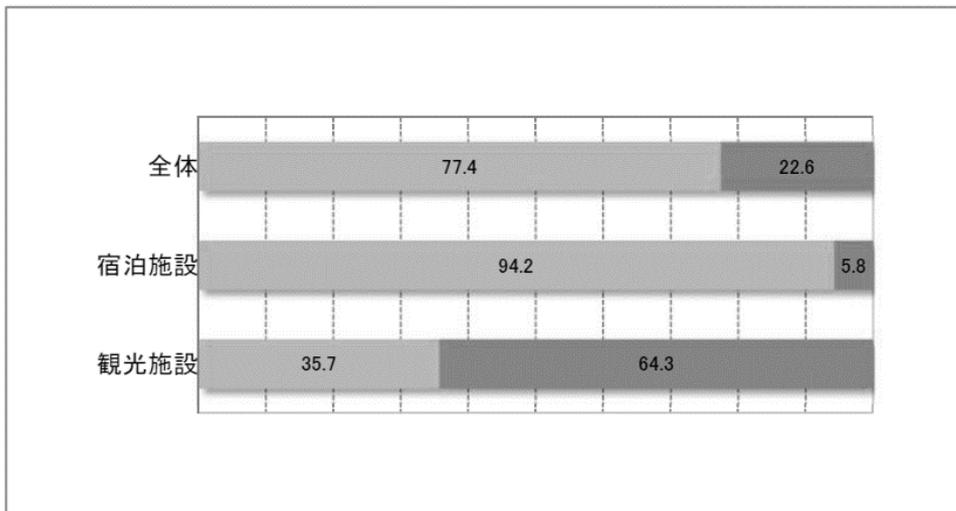
#### 空港アンケート実施状況

|       |  |
|-------|--|
| 調査実施日 | 2015年11月28日、12月5,6,16,17日  |
| 調査場所  | 那覇空港(国際線ターミナル)、石垣空港  |
| 回答総数  | 875名(韓国、台湾、中国、香港、米国など)   |
| 設問    | ○インターネット利用状況・利用目的・利用場所・接続手段<br>○フリーWi-Fiの利用状況・利用場所・満足度・不満点・利用ニーズ<br>○観光情報の入手手段・ニーズ・今後必要なサービス |

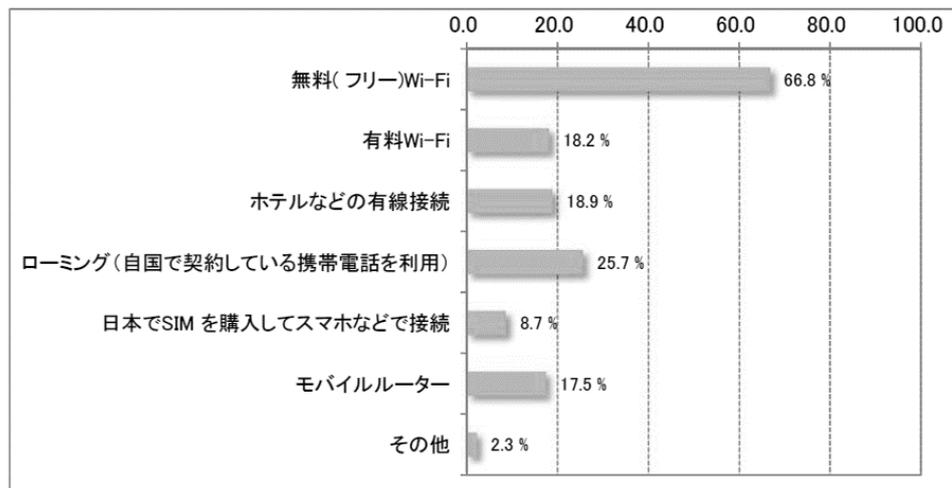
#### ◆調査結果（一部抜粋）

- 宿泊・観光施設でのフリーインターネットの提供状況は、全体で77.4%が提供している状況が確認できる。施設別で見ると、宿泊施設でのフリーインターネットの提供状況は94.2%と高いが、観光施設では提供状況が35.7%と提供低い状況がみられる。
- フリーWi-Fiサービスの課題として、全体では通信速度、利用エリア、故障時対応が上位に挙げられている。宿泊施設でも同様の課題が上位にあげられ、観光施設では、利用エリア、問い合わせ対応スキル（言語）が課題として挙げられている。
- 全体の利用促進策としては、利用場所の拡大と、通信速度の向上がみられる。

### フリーのインターネットサービスの提供状況



### インターネットの接続手段



## 第3章 外国人観光客域内動態等調査

### 空港アンケート調査

#### ◆調査手法

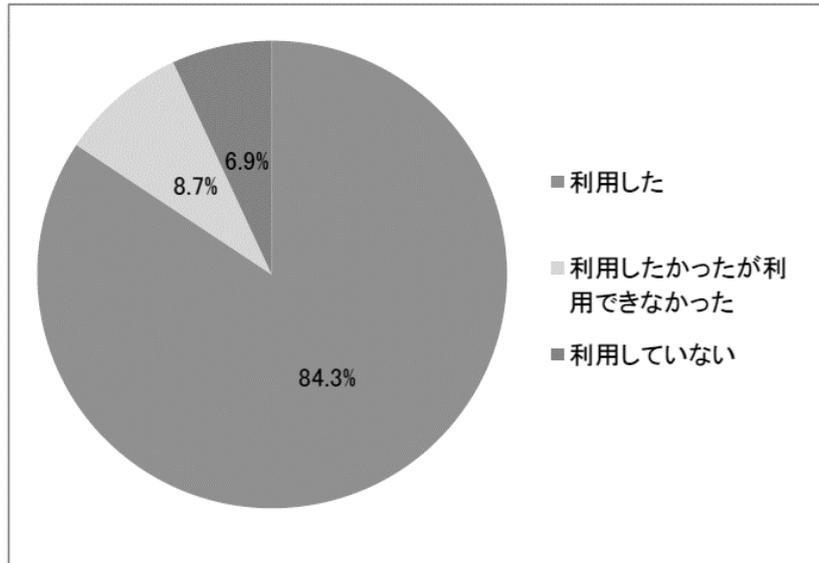
沖縄県を来訪した外国人が、滞在中にインターネットやWi-Fiを利用したかどうか、どのような情報を利用したか、満足度はどうだったか等を確認するためにアンケート調査を実施した。

#### ◆調査結果 (一部抜粋)

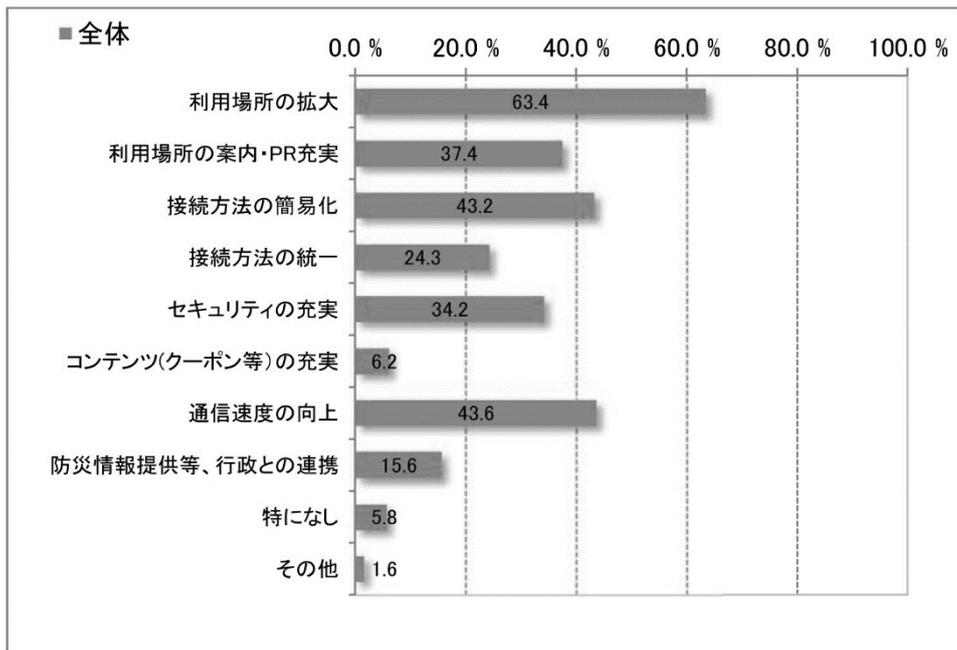
- 外国人観光客の8割(84.3%)がインターネットサービスを「利用した」と回答している。一方で、「利用したかったができなかった」が約1割(8.7%)みられる。
- 滞在中のインターネット接続手段として、最も高い割合を占めるのが「無料Wi-Fi」(66.8%)である。次いで、「ローミング<sup>※1</sup>(自国で契約している携帯電話を利用)」、「モバイルルーター」となっている。
- 外国人観光客のフリーWi-Fiサービスへの不満点として、「利用場所が少ない」(44.2%)と最も高く、次いで「Wi-Fiの通信速度が遅い」(30.6%)、「利用者認証・登録方法が煩わしい」(25.0%)がみられる。

※1ローミング：携帯電話やインターネット接続サービスなどを、その通信事業者のサービス範囲外の場所においても、他の事業者の設備を通じて利用できるようにすること。

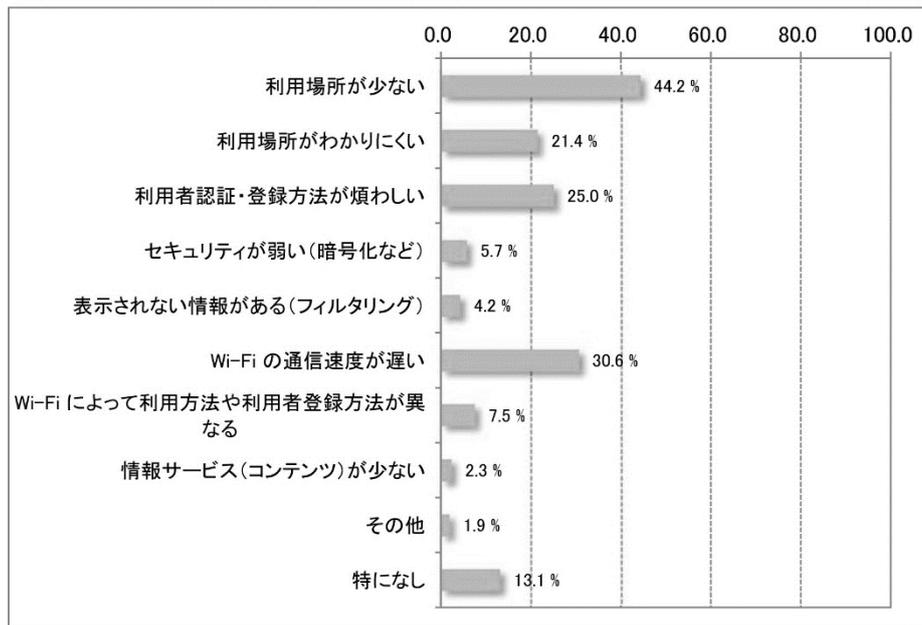
### インターネットサービスの利用状況



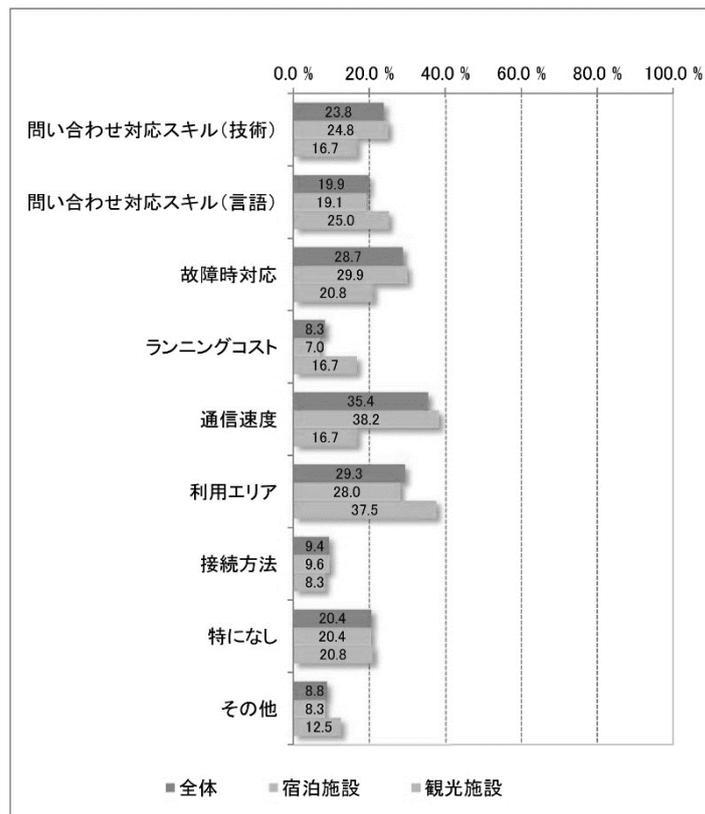
### 利用促進策



### フリーWi-Fiの不満点



### フリーWi-Fiサービスの課題



#### ◆今後のWi-Fi整備方針

- ・観光施設を含めたアクセスポイントの設置促進：利用場所の拡大
- ・Wi-Fi 利用可能場所のPR や周知：利用場所の周知
- ・利用登録・認証の簡易化：使いやすいWi-Fi の導入

## 2. 恩納村観光等の現状と課題

### 1) 恩納村の概況

#### (1) 立地特性

##### ①位置・地勢

本村は、県都那覇市より北に約 50 km、沖縄本島のほぼ中央部の西海岸側に位置し、北に名護市、東に宜野座村、金武町、うるま市、南に沖縄市、読谷村の各市町村に接している。

村域は南北に細長く、西側は東シナ海に面しており、海にそびえたつ断崖や緩やかな弧を描く海浜、海に点在する島々、沖縄本島西海岸に残された数少ない干潟等、変化に富んだ海岸線を有している。

東側は恩納岳を中心に、北から漢那岳、熱田岳、ブート岳、屋嘉岳、石川岳、読谷岳等の山々に囲まれ、さらにこれらの山々を水源とする小さな川が 40 近くあり、山や川、海等の変化に富んだ自然豊かな地域となっている。

##### ②交通・アクセス

恩納村への交通アクセス状況は、那覇市内（県庁前）から路線バスを利用した場合、本村の主要な観光スポットである万座毛までの所要時間が約 110 分、運賃が 1,500 円程度を要するため、公共交通機関の利用によるアクセスは不便な状況となっている。

休日等を中心に多くの観光レジャー客が自家用車やレンタカーを利用し本村を訪れるため、本村を縦断している国道 58 号では慢性的な交通渋滞がみられた。

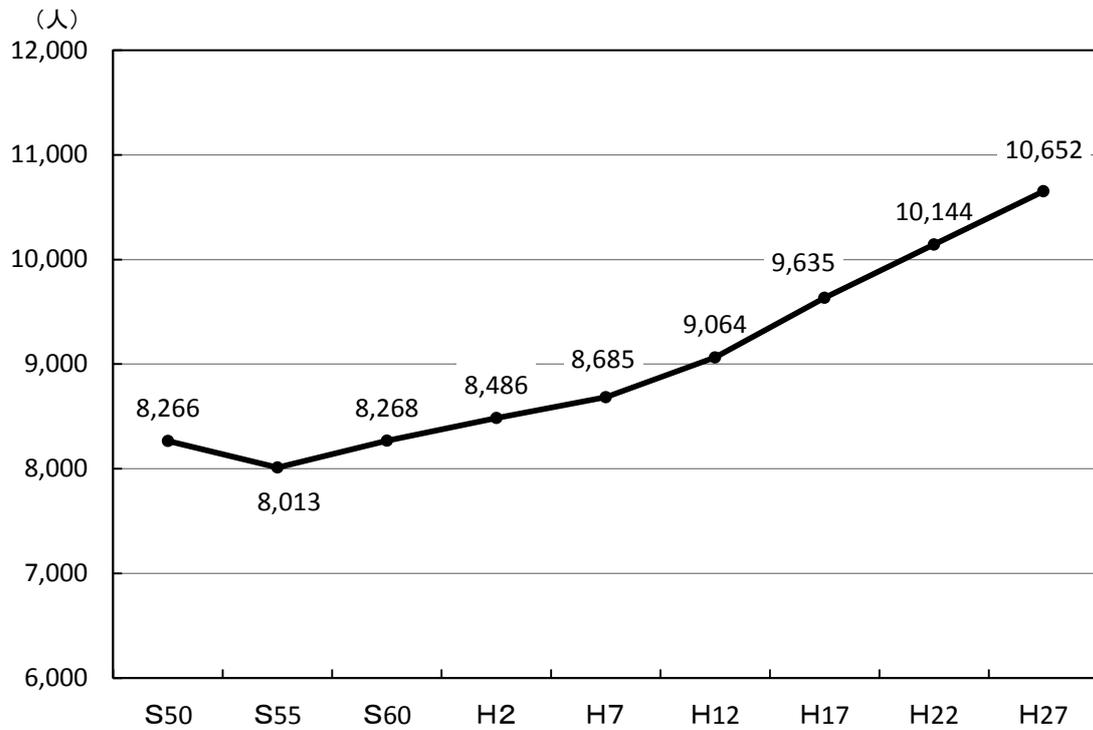
このため、恩納バイパス及び恩納南バイパスの整備による渋滞解消が図られ、それによって自動車利用による交通アクセスの利便性が向上している。



## (2) 人口の動向

国勢調査によると平成 27（2015）年国勢調査における本村の人口は 10,652 人となっており、昭和 55 年以降、一貫して増加が続いている。

図－人口の推移



資料：国勢調査

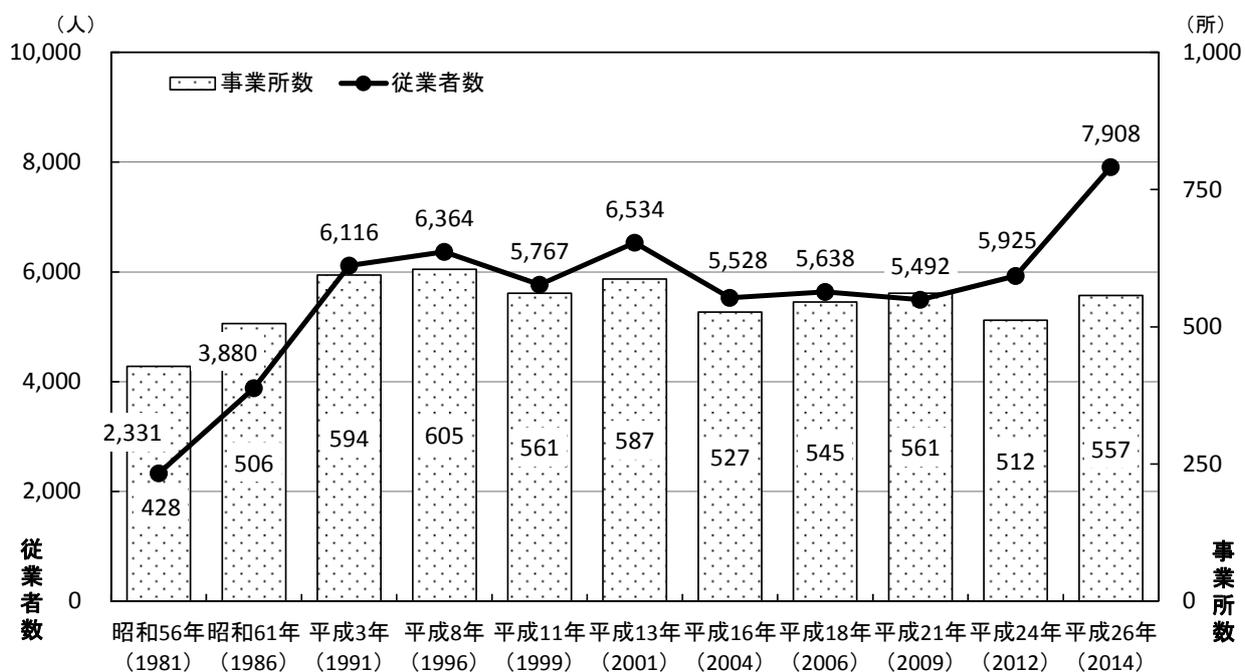
### (3) 従業者数と事業所数の推移

#### ① 従業者数と事業所数の推移

事業所・企業統計調査、経済センサスにおける村内の事業所数の昭和 56（1981）年以降の推移を見ると、昭和 56（1981）年の 428 事業所から増加し、平成 8（1996）年の 605 事業所をピークに減少傾向となっていたが、近年は回復しており平成 26（2014）年には 557 事業所となっている。

従業者数は、昭和 56 年以降、増加傾向で推移し、平成 13（2001）年の 6,534 人をピークとして一旦減少したが、近年は増加しており、平成 26（2014）年には 7,908 人と過去最高となっている。

図－従業者数と事業所数の推移

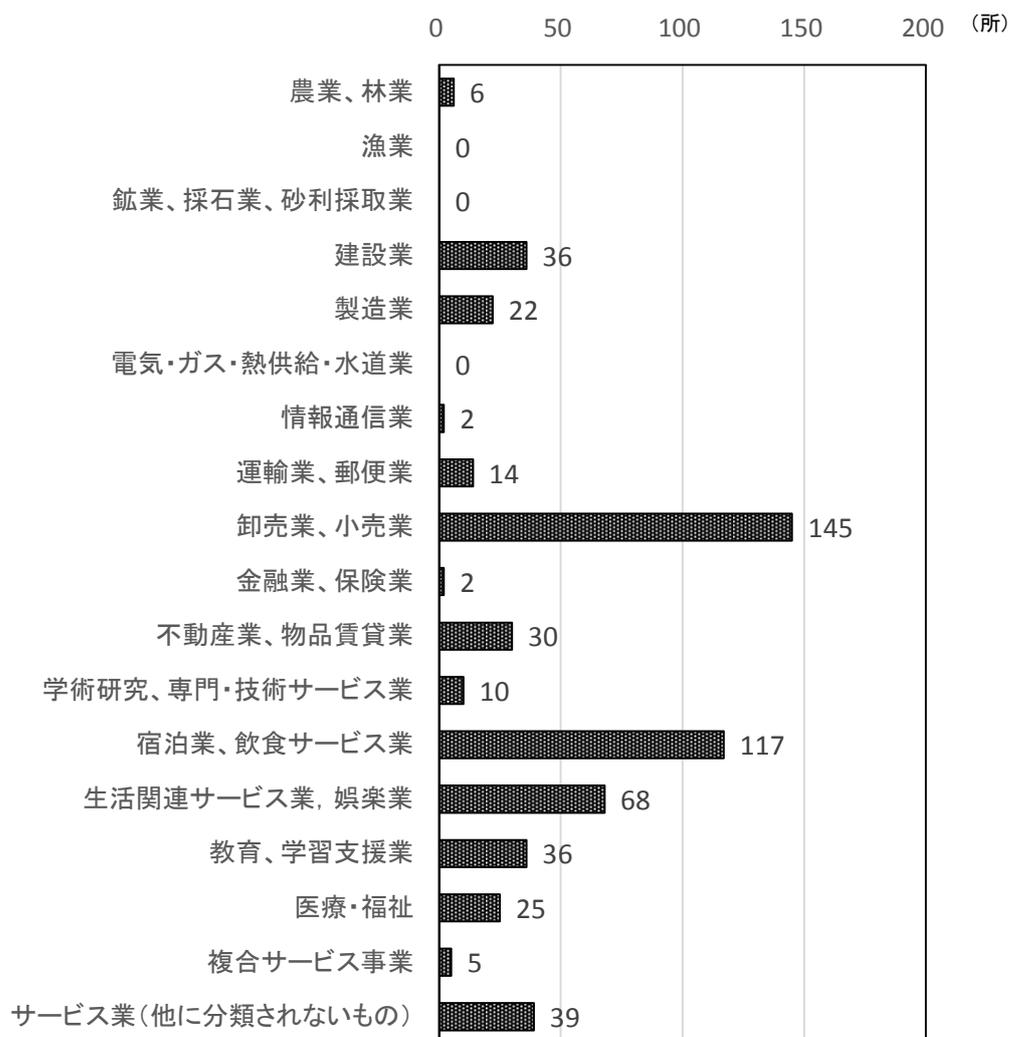


資料：事業所・企業統計調査、経済センサス（公務除く）

## ②産業別事業所数

平成 26 年経済センサスにおける産業別事業所数を見ると、「卸売業、小売業」が 145 事業所で最も多く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」（117 事業所）、「生活関連サービス、娯楽業」（68 事業所）と続いている。

図－産業別事業所数（平成 26 年）



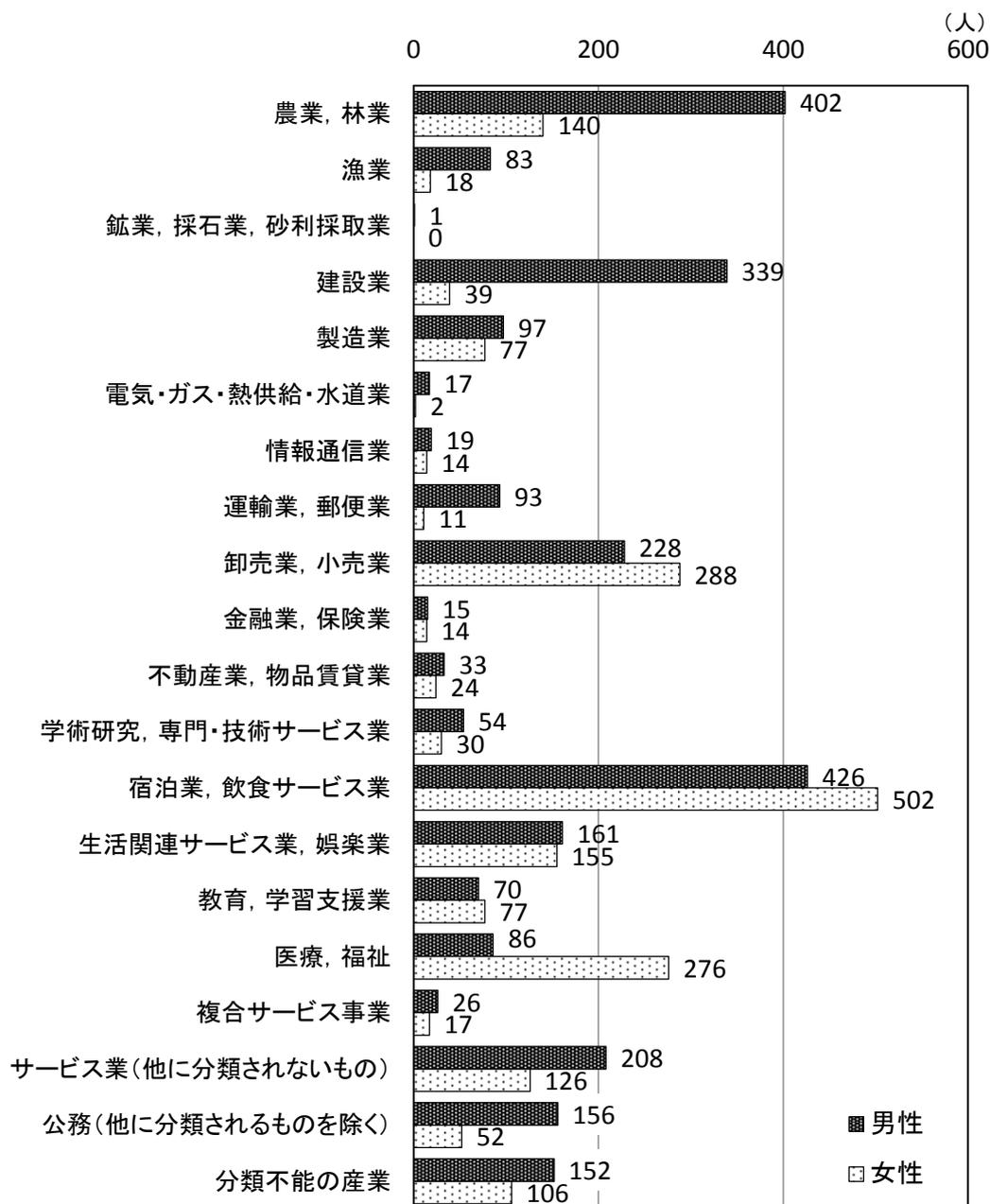
資料：経済センサス（公務除く）

### ③男女別産業人口

平成 22 年の国勢調査における男女別産業人口の状況を見ると、男性では「宿泊業、飲食サービス業」(426 人)、「農業、林業」(402 人)、「建設業」(339 人)が多くなっている。

女性では、男性と同じく「宿泊業、飲食サービス業」(502 人)が最も多く、次いで「卸売業、小売業」(288 人)、「医療、福祉」(276 人)が多くなっている。

図－男女別産業別就業人口（平成 22 年）



資料：国勢調査

## 2) 恩納村の観光の状況

### (1) 恩納村の観光資源の整理

本村は、西は東シナ海に面し、東は恩納岳等の山々に囲まれた風光明媚な村である。沖縄海岸国定公園に指定されている西海岸は、琉球石灰岩層の切り立った断崖と砂浜海岸、サンゴ礁が広がる美しい海岸線となっており、これらを観光資源としてリゾートホテルが立ち並んでいる。

仲泊遺跡や山田グスク、国頭方西海道をはじめとする貴重な文化財が点在している他、各集落には御嶽をはじめ村民生活に身近な文化的資源がみられる。

また、本村の海沿いを走る県道6号線～国道58号（宇加地区から名嘉真区）を魔法の夕日に出会える「おんなサンセット海道※<sup>1</sup>」として位置付け、恩納村への誘客や地域活性化に向けた取り組みを行っている。

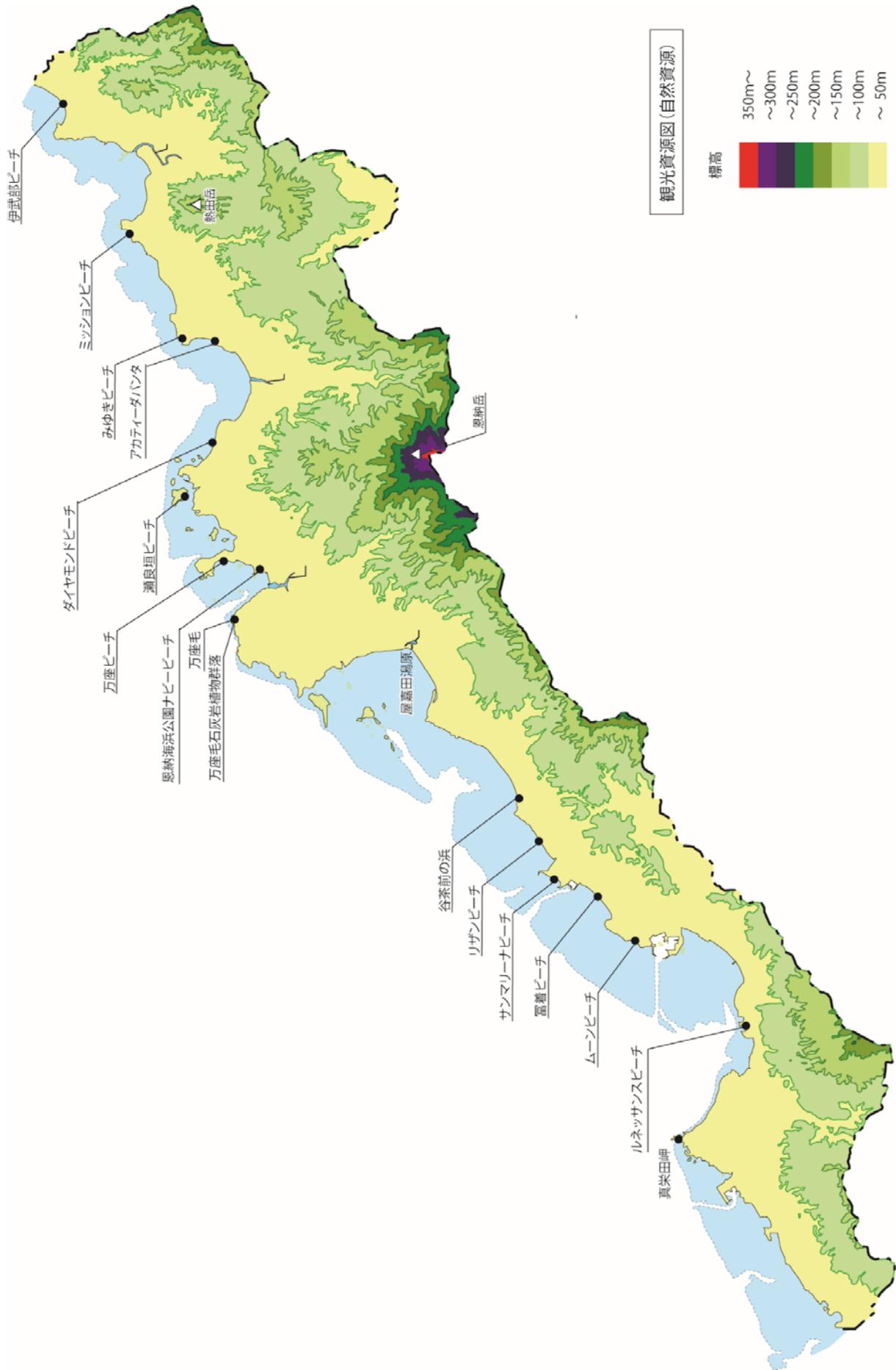
■ 恩納村の観光資源一覧表

平成29年3月1日現在

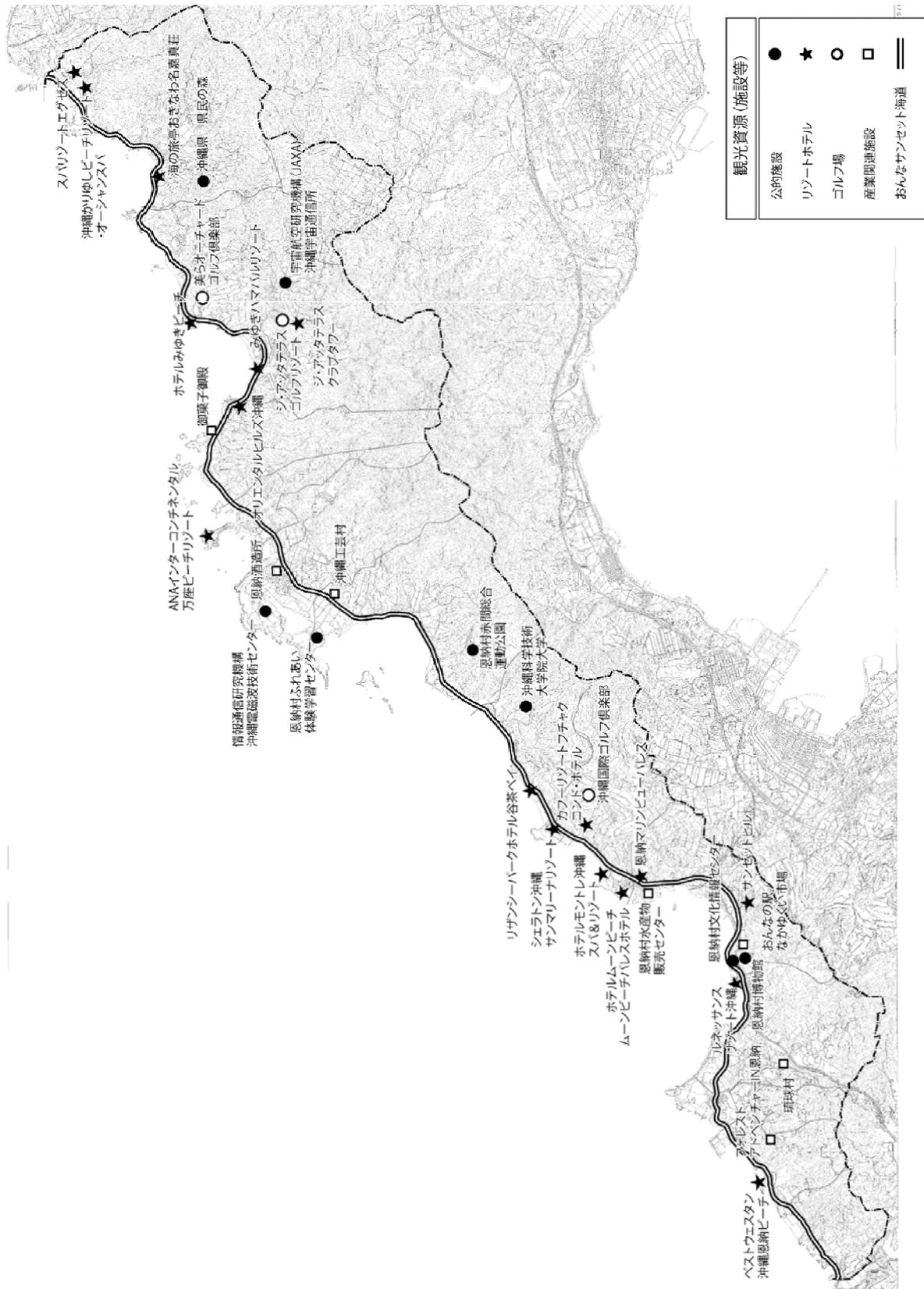
| 資 源      |      |  |
|----------|------|--|
| 自然       | 山岳   | 恩納岳、熱田岳  |
|          | 海浜   | いんぷビーチ、ミッションビーチ、みゆきビーチ、ダイヤモンドビーチ、瀬良垣ビーチ、万座ビーチ、恩納海浜公園ナビビーチ、谷茶前の浜、リザンビーチ、サンマリナービーチ、富着ビーチ、ムーンビーチ、ルネッサンスビーチ  |
|          | 海岸景観 | アカティータバンタ、万座毛、屋嘉田潟原、真栄田岬、おんなサンセット海道  |
|          | 動物   | カラスバト、ノグチゲラ、リュウキュウヤマガメ等 希少種多数  |
|          | 植物   | 万座毛石灰岩植物群落(コウライシバ群落)   |
| 歴史・文化    | 旧街道  | 歴史の道(国頭方西海道 国指定)   |
|          | 史跡   | 仲泊遺跡(国指定)、山田城跡(国指定)、国頭方西海道(国指定)、万座毛(県指定)、恩納グスク・崎浜御嶽(村指定)、カンジャガー(村指定)、神アサギ、ウドウイガマ(村指定)、唐人墓の墓碑(村指定)、伊武部貝塚、マナツジ獄、御待毛、熱田貝塚、熱田御嶽、ボージガマ、森城獄、藍壺、太田志喜根貝塚、兼久の殿、ヤウの嶽、谷茶貝塚、アフシマの御嶽、安幸地原貝塚、親王森、ガジャグスク、仲泊の一里塚、仲泊の石畳道、比屋根坂、仲泊の高麗人墓、仲泊前の御嶽、大和浜と大和干瀬、久良波貝塚、真栄田の一里塚、真栄田の御待毛、フェーレー岩、塩屋貝塚、美留貝塚、 |
|          | 歌碑   | 恩納松下の歌碑、谷茶前の浜の歌碑、仲間節   |
| まつり・郷土芸能 | 行・祭事 | ムーンビーチ「おきなわ全島やちむん市」、前兼久ハーリー、沖縄県知事杯争奪万座ハーリーフェスティバル、うんなまつり、ウスデーク(名嘉真/恩納/谷茶/富着/仲泊)、豊年祭(各区)、恩納村文化祭、琉歌大賞表彰式、恩納村産業まつり、OTV 杯マスターズゴルフ選手権大会、美ら海花火大会   |
|          | 郷土芸能 | エイサー(全地域)、ウスデーク(仲泊・富着・谷茶・恩納・名嘉真)、豊年祭(名嘉真・安富祖・瀬良垣・恩納・南恩納・仲泊)、フェーヌシマ(仲泊・名嘉真)、長者大主、組踊り、獅子舞  |

※<sup>1</sup>おんなサンセット海道：恩納村内の海沿いを走る県道6号線～国道58号（宇加地区から名嘉真区）の魔法の夕陽に出会える海道。

| 資 源      |                 |  |
|----------|-----------------|--|
| 学習・鑑賞・公園 | 博物館、図書館等        | 恩納村博物館、恩納村文化情報センター、森林科学館(県民の森)、沖縄科学技術大学院大学(OIST)、宇宙航空研究機構(JAXA) 沖縄宇宙通信所、情報通信研究機構 沖縄電磁波技術センター   |
|          | 産業観光施設          | おんなの駅なかゆくい市場、恩納村水産物販売センター、恩納酒造所、御菓子御殿、琉球村、沖縄工芸村  |
| 研修・スポーツ  | 研修センター・スポーツセンター | 赤間総合運動公園、恩納村ふれあい体験学習センター、県民の森  |
|          | スポーツリゾート        | 沖縄かりゆしビーチリゾート  |
|          | サイクリングコース       | 県民の森   |
|          | ハイキングコース        | 県民の森   |
|          | 自然研究路           | 県民の森   |
|          | キャンプ場           | 県民の森   |
|          | ゴルフ場            | 美らオーチャードゴルフ倶楽部、ジ・アッタテラスゴルフリゾート、沖縄国際ゴルフ倶楽部  |
|          | フィールド・アスレチック場   | 県民の森   |
| レジャー・ヘルス | 海水浴場            | いんぷビーチ、ミッションビーチ、みゆきビーチ、ダイヤモンドビーチ、瀬良垣ビーチ、万座ビーチ、恩納海浜公園ナビービーチ、リザンビーチ、サンマリーナビーチ、富着ビーチ、ムーンビーチ、ルネッサンスビーチ   |
|          | 漁港等             | 瀬良垣漁港、前兼久漁港、恩納漁港、真栄田漁港   |
|          | 観光農林業           | サトウキビ収穫体験  |
|          | 観光漁業            | 体験漁業   |
|          | レジャーランド         | 琉球村、フォレストアドベンチャーin 恩納  |
| 宿泊施設     | リゾートホテル         | 沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ、スパリゾートエグゼス、ジ・アッタテラス クラブタワーズ、海の旅亭おきなわ名嘉真荘、ホテルサンセットヒル、ホテルみゆきビーチ、みゆきハマバルリゾート、オリエンタルヒルズ沖縄、ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾート、リザンシーパークホテル谷茶ベイ、シエラトン沖縄サンマリーナリゾート、カフーリゾートフチャクコンド・ホテル、ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート、ホテルムーンビーチ、ムーンビーチパレスホテル、恩納マリンビューパレス、ホテルサンセットヒル、ルネッサンス リゾート オキナワ、ベストウエスタン 沖縄恩納ビーチ             |
|          | その他宿泊施設         | にらい恩納、コンドミニウムホテル しまんちゅクラブ、ペンション ウィークエンド、デイズ イン ハウディ、ピンクマーリンクラブ、なかどまinn、ペンション ムーンヴィラ、ペンション サーフサイド、南恩納トロピカル、オーベルジュ・ボンヌ・シェール・ラウー、ペンション 美留、隠れ家レストラン 与久田邸、ウージリゾートコンドホテル&カフェ、民宿 富士、民宿 シーハウス、民宿 玉井荘、ペンション ほろほろ、山や草、ラ・カーサ・パナシア・オキナワ・リゾート、民宿 山内荘、小さな癒しの楽園 シーサーガーデン、志喜屋荘、コテージ シーサイド、コテージ 泊楽、チュラマーチ、ペンション遊民 潮騒苑 他 |
| 特産物(味覚)  |                 | 海ぶどう、もずく、アーサ、ゴーヤー、パッションフルーツ、アテモヤ、泡盛  |







## (2) 恩納村の観光の概況

本村は日本有数の観光リゾート地であることから、リゾートホテルを中心に多くの宿泊施設が集積しており、客室数の県内シェア率は 10.3%、収容人員数の県内シェア率は 13.8%となっている。

また、修学旅行の宿泊先としても多くの受入を行っており、県内シェアの 36.8%を占めている。

表一 恩納村観光の概況

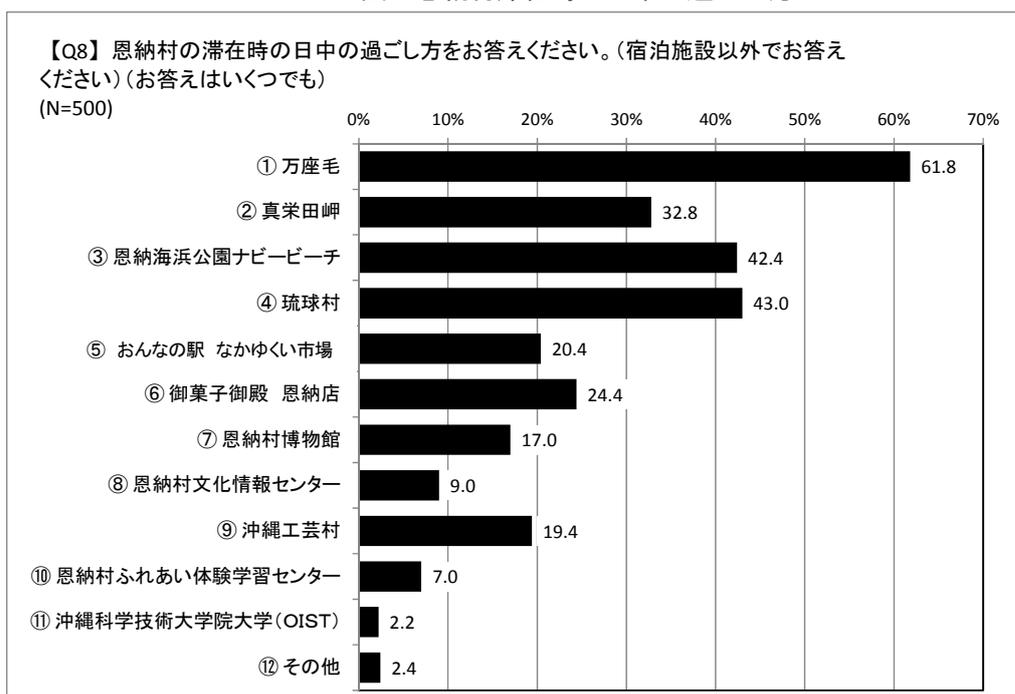
| 項目                           | 単位  | 恩納村               | 沖縄県     | 備考  |
|------------------------------|-----|-------------------|---------|---|
| 延べ宿泊者数<br>(対県シェア)            | 千人泊 | 2,569<br>(12.8)   | 20,064  | 恩納村：主要宿泊施設実態調査（17施設の合計）（恩納村）<br>沖縄県：平成27年宿泊旅行統計調査（観光庁）      |
| 平均泊数<br>(恩納村での泊数)            | 泊   | 1.80<br>(3.02)    | 3.41    | 恩納村：インターネットモニター調査<br>沖縄県：平成27年観光統計実態調査（7・8月期）               |
| 宿泊施設<br>定員稼働率：H26            | %   | 71.87             | 47.0    | 恩納村：主要宿泊施設実態調査（17施設の平均稼働率）（恩納村）<br>沖縄県：平成26年観光要覧（沖縄県）       |
| 宿泊施設 客室数<br>(対県シェア)          | 室   | 4,215<br>(10.3%)  | 41,037  | 平成27年宿泊施設実態調査（沖縄県）  |
| 宿泊施設 収容人員<br>(対県シェア)         | 人   | 14,807<br>(13.8%) | 107,190 | 平成27年宿泊施設実態調査（沖縄県）  |
| 人口千人当たり<br>宿泊施設収容人員          | 人   | 1,410             | 75      | 平成27年宿泊施設実態調査（沖縄県）<br>人口移動報告（沖縄県）                           |
| 一人当たり旅行費用<br>(県=100)         | 円   | 88,057<br>(101.5) | 86,747  | 恩納村：インターネットモニター調査<br>沖縄県：平成27年観光統計実態調査（観光客全体消費単価、H27年7-9月期） |
| 沖縄リピーター率<br>(うち恩納村リピーター率)    | %   | 48.4%             | 85.3    | 恩納村：インターネットモニター調査<br>沖縄県：平成27年観光統計実態調査（7・8月期）               |
| レンタカー利用率                     | %   | 62.2              | 77.6    | 恩納村：インターネットモニター調査<br>沖縄県：平成27年観光統計実態調査（7・8月期）               |
| 修学旅行入込状況<br>：宿泊地別<br>(対県シェア) | 校数  | 910<br>(36.8%)    | 2,473   | 平成27年版観光要覧（沖縄県）   |

### (3) 観光客入込数

#### ①立ち寄り先

平成28年10月に実施したインターネットモニター調査によると、村内の観光スポットで最も多い立ち寄り先としては、「万座毛」が約6割（61.2%）を占めている。以下、「琉球村」（43.0%）、「恩納海浜公園ナビビーチ」（42.4%）と続いている。

図一 恩納村滞在時の日中の過ごし方



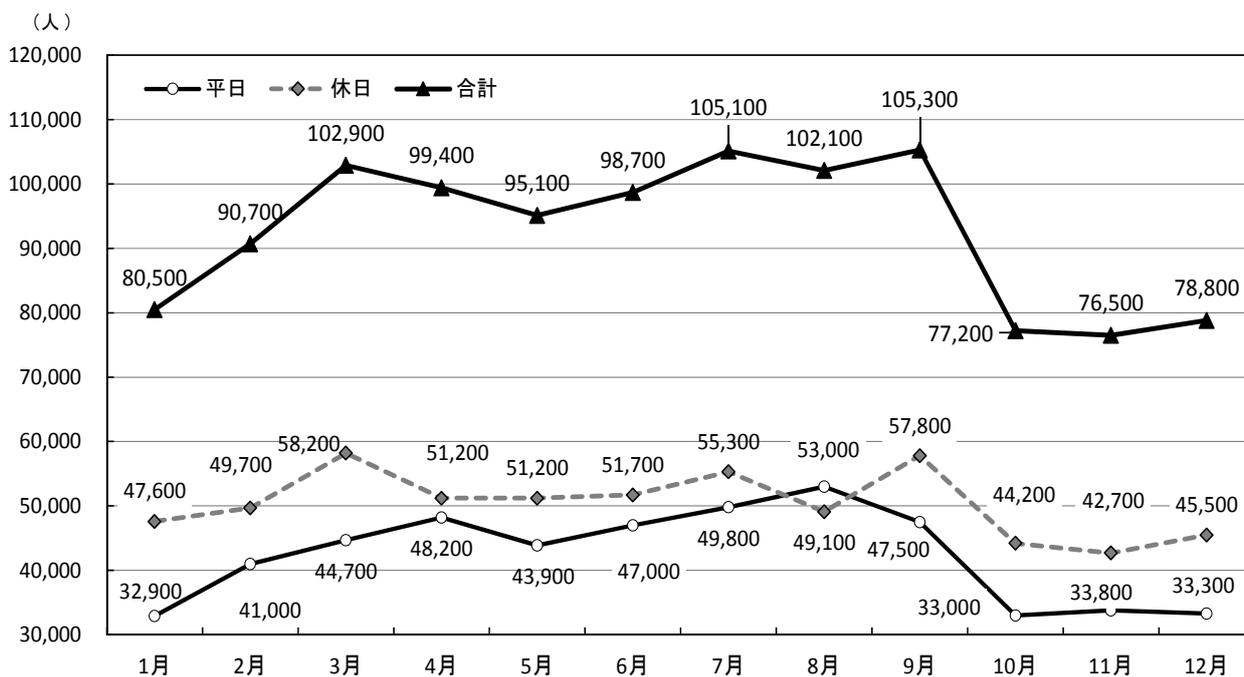
資料：インターネットモニター調査

## ②月別滞在人口（平日・休日）

国が提供しているRESAS地域経済分析システム<sup>※1</sup>で平成27（2015）年の月別滞在人口を見ると、3月～9月の滞在人口は10万人が多く、中でも7～9月は平日、休日ともに多くなっている。

しかし、10月以降は7万人程度に落ち込んでいることから、秋季から冬季にかけての観光客の誘致に向けた取り組みが求められている。

図－月別滞在人口（平日・休日）



資料：RESAS地域経済分析システム

※滞在人口とは、市区町村単位で滞留時間が2時間の人口を表している。

※滞在人口は、スマートフォンアプリから得られた位置情報ログより生成されている。

※1 RESAS地域経済分析システム【Regional Economy Society Analyzing System】：地方自治体の様々な取り組みを情報面から支援するために、まち・ひと・しごと創生本部事務局が提供する、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム。

### 3. 村民・旅行者等ニーズの把握

#### 1) 旅行者ニーズ調査

##### (1) 村内旅行者アンケート

###### ①村内宿泊者アンケート

○対 象：恩納村商工会の会員の宿泊施設に宿泊した方々（4,200名）

- ・日本語（1,400件）、英語（700件）、  
中国語（1,400件）、韓国語（700件）

○調査期間：平成28年10月25日～12月31日

○調査方法：対象となる宿泊施設のフロント等で調査票を配布し、郵送による回収

○回収状況：

|        | 配布数    | 有効回収数 | 有効回収率 |
|--------|--------|-------|-------|
| 日本人宿泊者 | 1,395件 | 358件  | 25.6% |
| 外国人宿泊者 | 2,365件 | 67件   | 2.8%  |
| 合計     | 3,760件 | 425件  | 11.3% |

###### ②インターネットモニター調査

○対 象：過去3年以内に恩納村に宿泊したことがある20歳以上の方（沖縄県在住者を除く）

○調査期間：平成28年10月

○調査方法：・インターネットによる調査

- ・スクリーニング調査を実施し、恩納村への宿泊経験（過去3年以内）がある者に対し本調査を実施した。
- ・年代別に必要サンプル数を設定し、必要数に達した時点で調査を終了した。

○サンプル数：・20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上の5段階、各100サンプル（合計500サンプル）

## <調査結果の考察>※（ ）は資料編のページ数に対応

※①村内宿泊者アンケート、②インターネットモニター調査結果をまとめて掲載

### ①村内宿泊者アンケート、②インターネットモニター調査より

#### ア) 恩納村への滞在日数は「1泊」が半数。

○旅行の形態(①P115、②P154)を見ると、「フリープラン」や「個人旅行」といった、旅行者自身で旅行内容を決定する形態が多い。また、旅行の目的(①P119、②P157)は「観光地めぐり」が最も割合が高く、交通手段として「レンタカー」の利用が多くみられることから、恩納村を拠点とした観光地巡回コースの提案等により、村内滞在日数の増加につながる可能性がある。

#### イ) 恩納村内での消費額は、それぞれ「5,000円未満」が半数。

○一人当たりの消費額(①P122,125,130、②P158,159,161)を見ると、恩納村内での活動費用(体験、入場料等)、滞在中の食費、お土産購入費のいずれも「5,000円未満」が半数となっている。

○旅行の目的として「保養・休養」や「海水浴・マリンスポーツ」、「沖縄料理を楽しむ」といった項目は3割強と比較的高いこと、恩納村観光に必要なこと(①P137)として「恩納村の食材が楽しめる飲食店」が3割半みられること等から、恩納村内で活動や食事を楽しめるコンテンツの充実により、村内での消費の向上につながる可能性がある。

#### ウ) 今後の恩納村観光振興について

○今後の恩納村観光振興に必要なこと(①P137、②P164)を見ると、「自然を大切に」、「恩納村の食材が楽しめる飲食店」、「美しい自然が楽しめる散歩コースの紹介や、遊歩道の整備」、「集落景観、リゾート地としての雰囲気づくり」等、恩納村の印象で比較的満足度の高い項目が上位にきているため、現在の魅力を引き続き伸ばしていく方向性への期待がうかがえる。

○一方、恩納村の印象(①P134、②P163)では、ほとんどの項目で満足度は高かったものの、「食事」、「地元らしい土産物の品揃え」、「施設での接客態度」、「交通事情」、「地元の人のおもてなし」、「スポーツや体験学習、芸能鑑賞等の充実度」といった項目については、『どちらともいえない』の割合が2～4割程度を占めている。いずれも、『不満』が高いわけではなく、コンテンツの少なさ等で判断が難しい状況が見受けられるため、今後はこれらの項目を充実させていくことで、恩納村観光全体の振興につながり、満足度を高めていくことができると推察される。

## ②インターネットモニター調査より

### ◆恩納村宿泊者は沖縄旅行のリピーターが多い。

- Ⅱ-1. スクリーニング調査結果（P148）\*を見ると、沖縄県への旅行経験がある者が全体の半数、そのうち恩納村への来訪経験があるものは約半数（全体の約4分の1）となっている。
- また、本調査に進んだ回答者（直近3年以内に恩納村に宿泊経験がある者）においては、沖縄県に複数回の旅行経験（F5、P152）があるリピーターが多くなっている。一方、恩納村での宿泊数（問6、P156）を見ると、「1泊2日」の回答が約5割に上り、村内での宿泊数が全体的に少ない。
- そこで、リピーター向けの観光プランやアクティビティの開発等を進めていくことで、村内宿泊数の増やリピーターの満足度向上等が期待される。

### ③恩納村観光に関する宿泊関連事業所アンケート

- 目的：本調査は、第3次恩納村観光振興計画を策定するにあたり、宿泊関連事業所の現状等について把握を行い、計画の施策を検討する際の基礎資料として活用することを目的に実施した。
- 対象：恩納村商工会に加入している宿泊施設及び平成28年10月時点でiタウンページに掲載されている宿泊施設（90箇所）
- 調査期間：平成28年10月
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 有効回収数：有効回収数は16件、有効回収率17.8%

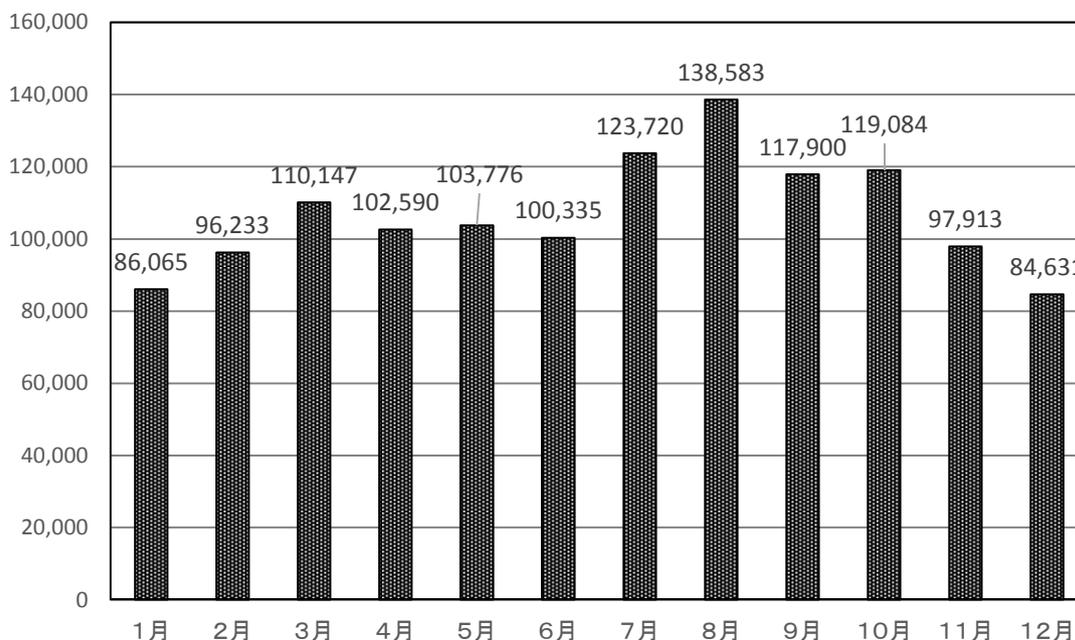
問1 月毎の宿泊者数をお聞かせください(平成27年)。  
また、特に多いと思われる客層について記入してください。

#### 【宿泊者数】

回答を頂いた宿泊施設における月別宿泊客数を見ると、8月が最も多く、次いで、7月、10月、9月と続いています。

逆に宿泊客数が最も少ない月は、12月で、以下1月、2月、11月と続いています。

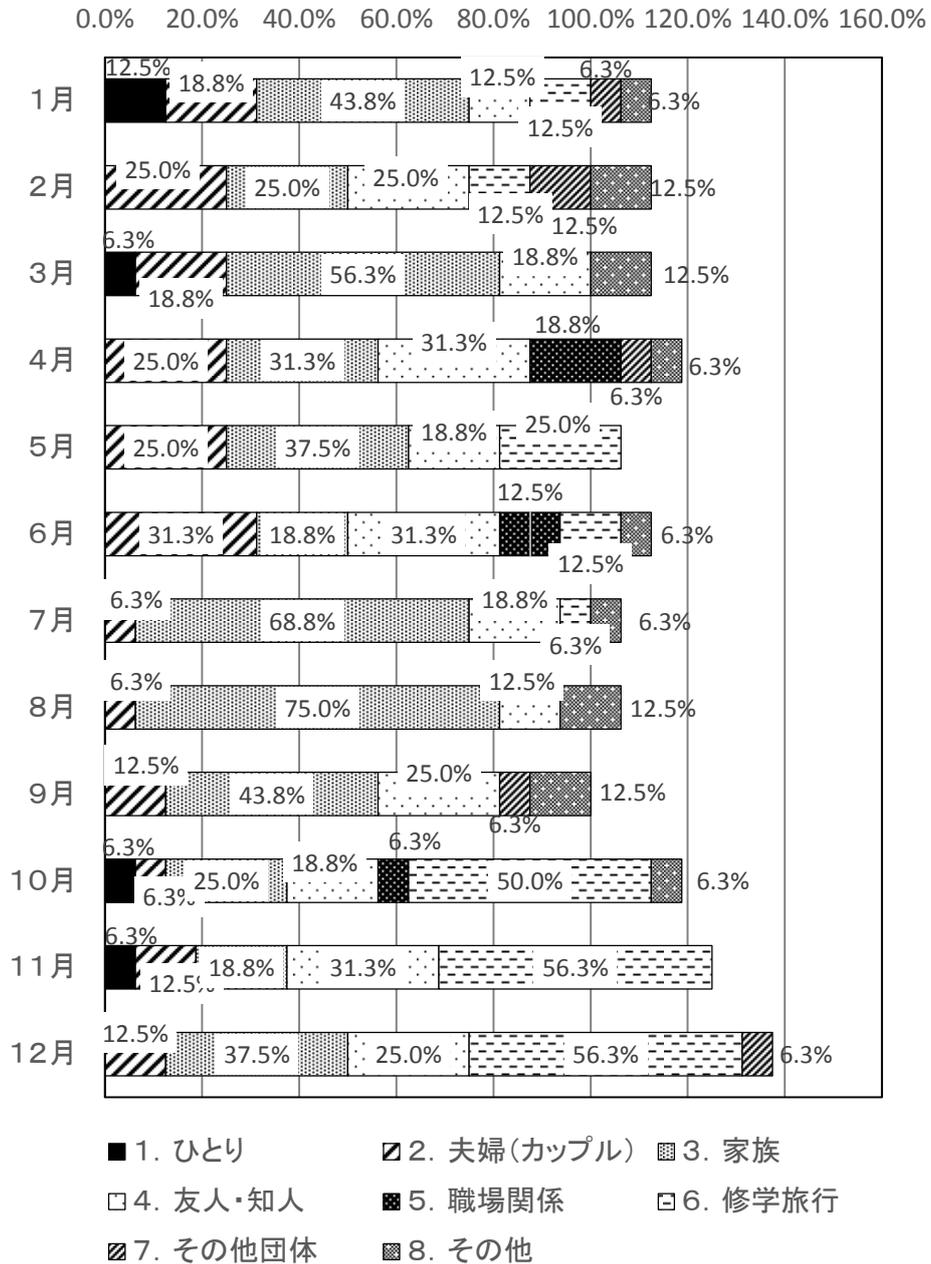
図一月別の宿泊客数（各施設の累計）



【客層】

月別の客層について見ると、夏休み期間である7月、8月を中心に学校が長期休暇期間である1月、3月で、「家族」が多くみられます。「修学旅行」については、10月、11月、12月で多くなっています。

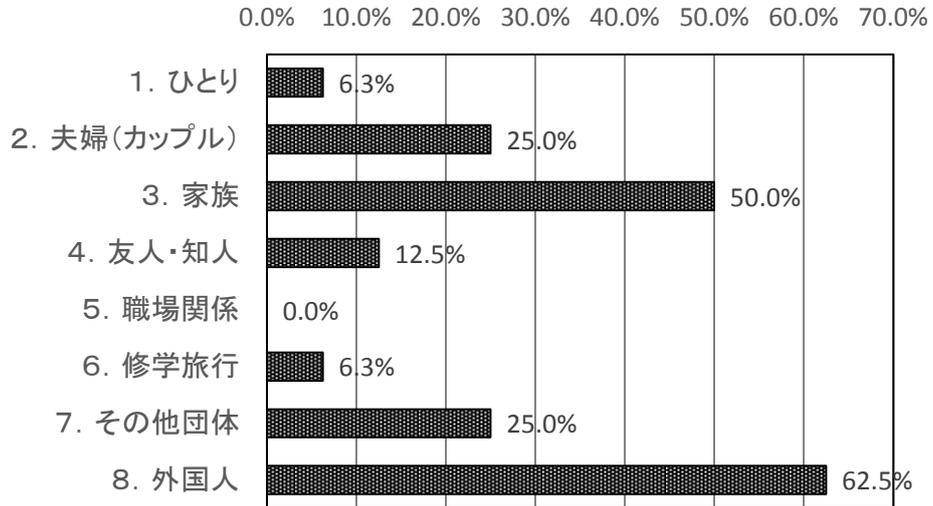
図一月別の客層



問2 今後、特に増加が予想される客層は以下のうちどれですか。(〇は2つ以内)

今後、特に増加が予想される客層としては、6割強(62.5%)が「8. 外国人」と回答しており、次いで「3. 家族」(50.0%)と続いています。

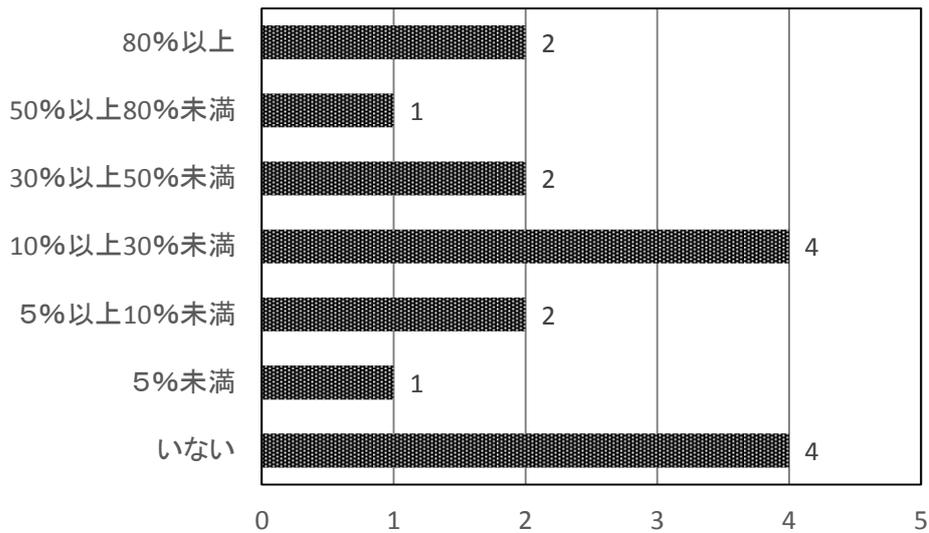
図一今後、特に増加が予想される客層



問3 従業員に占める恩納村出身者又は在住者の割合

「いない」とする事業所が4箇所、「30%未満」の合計が7箇所となっていますが、80%以上も2箇所みられます。

図一従業員に占める恩納村出身者又は在住者の割合



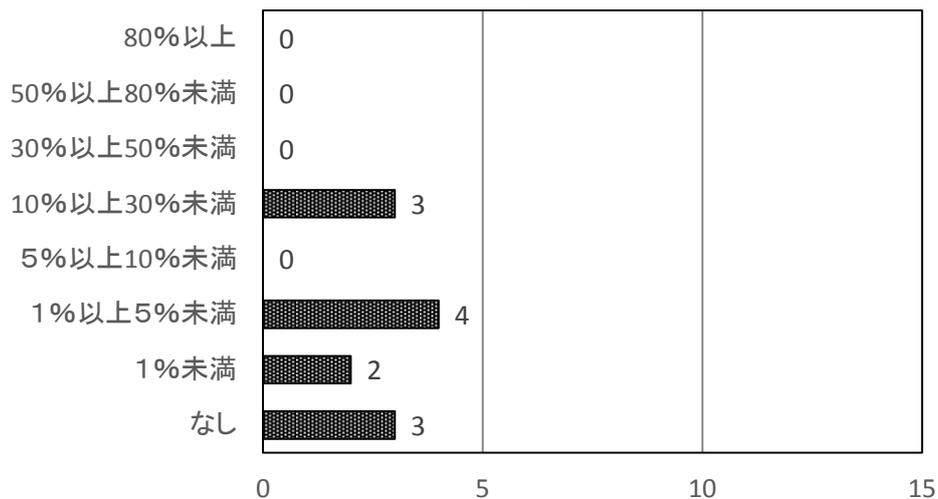
問4 ホテル営業支出についてお聞かせください。

そのうち恩納村内からの調達割合はどの程度でしょうか。「恩納村調達」の欄にご記入ください。

【食材費】

食材費に占める村内調達率の割合は平均 3.8%（無回答を除く平均）となっています。また、村内で食材の調達を行っていない「なし」は3事業所となっています。

図一 食材費に占める村内調達率

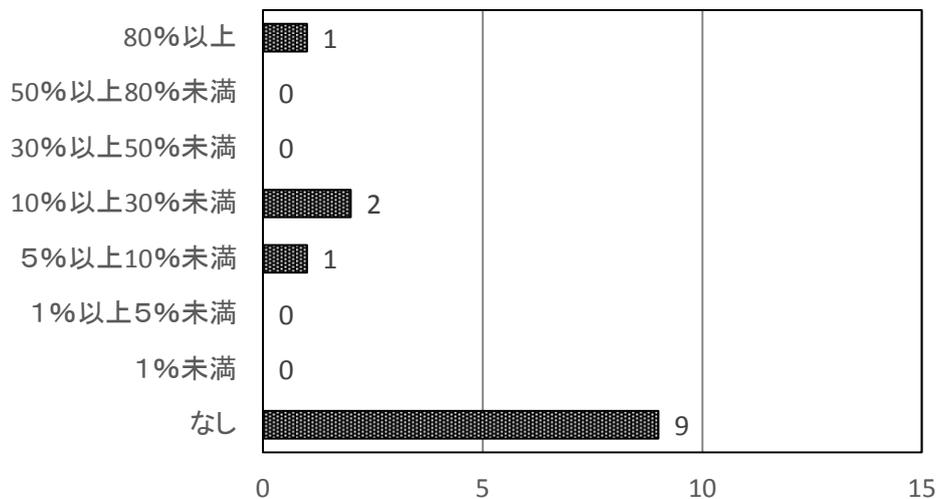


【施設メンテナンス、設備費】

施設メンテナンス、設備費に占める村内調達率の割合は平均 8.2%（無回答を除く平均）となっています。

村内で80%以上を確保している事業所が1箇所みられる一方で、「なし」が9事業所となっています。

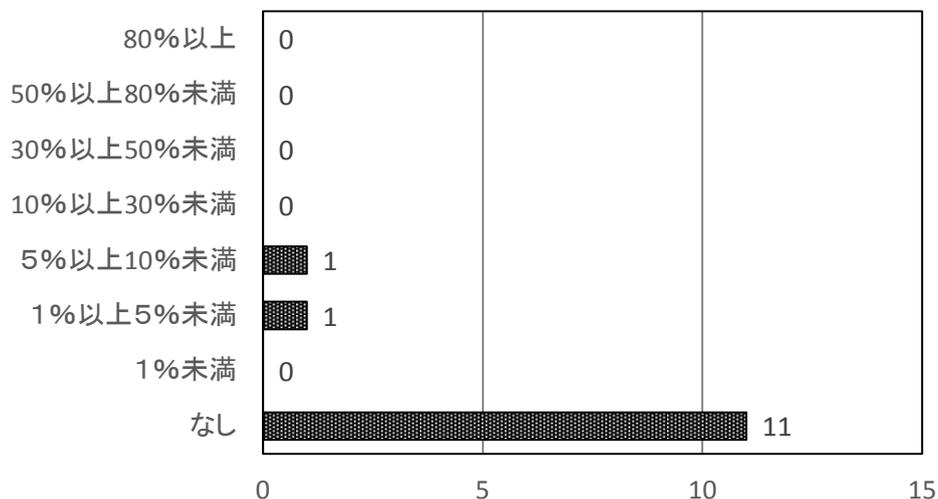
図一 施設メンテナンス、設備費に占める村内調達率



【造園、花き費】

造園、花き費に占める村内調達率の割合は平均 0.5%（無回答を除く平均）と僅かにみられる程度となっています。

図一 造園、花き費に占める村内調達率



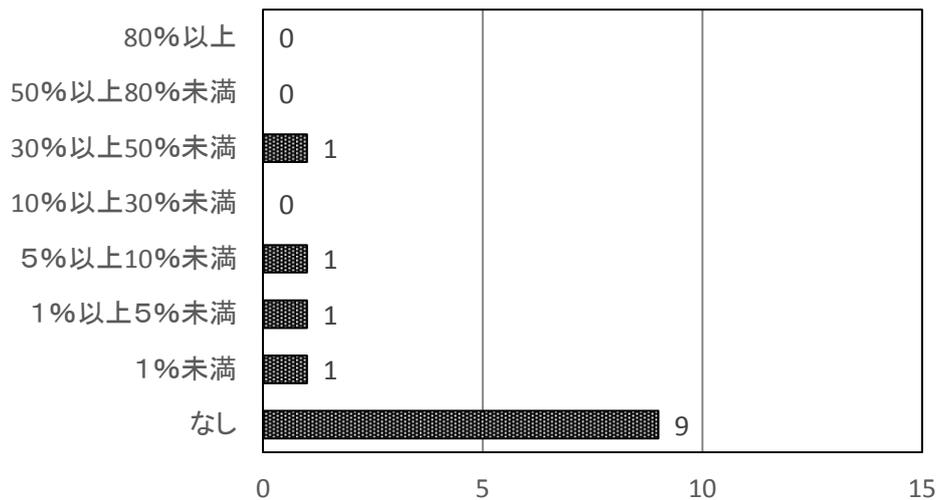
問5 特に食材費関連についてお聞かせください。

そのうち恩納村内からの調達割合はどの程度でしょうか。

【野菜類】

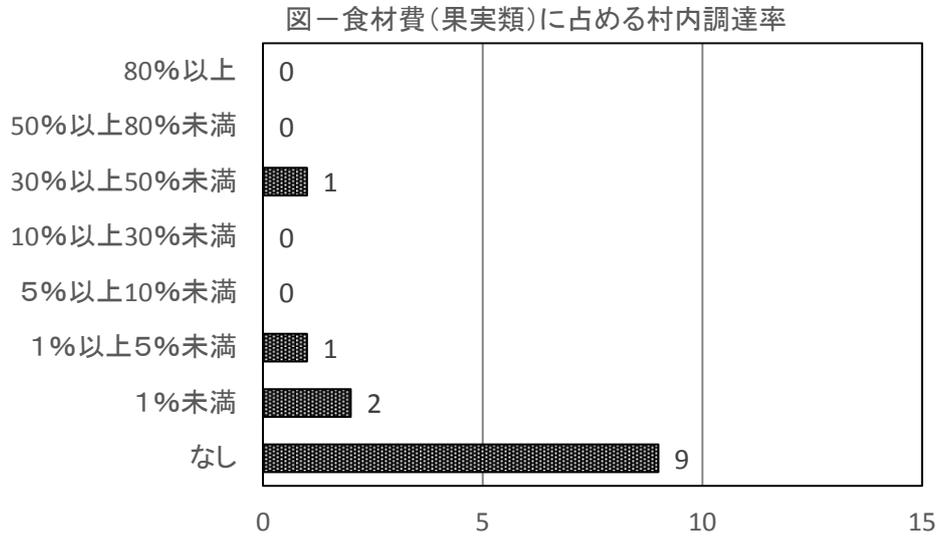
食材費（野菜類）に占める村内調達率の割合は平均 3.1%（無回答を除く平均）となっています。また、村内で野菜類の調達を行っていない事業所は9箇所となっています。

図一 食材費（野菜類）に占める村内調達率



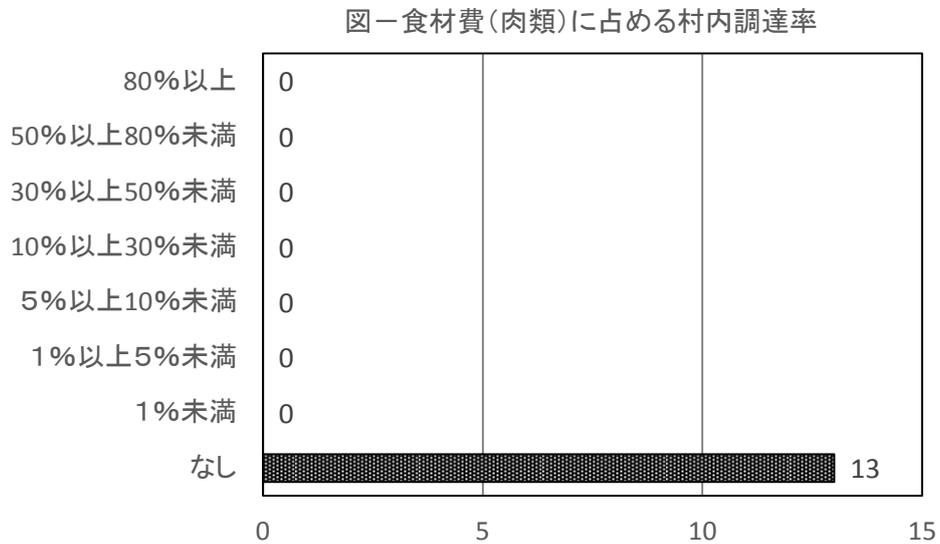
【果実類】

食材費（果実類）に占める村内調達率の割合は平均 3.2%（無回答を除く平均）となっています。また、村内で果実類の調達を行っていない事業所は9箇所となっています。



【肉類】

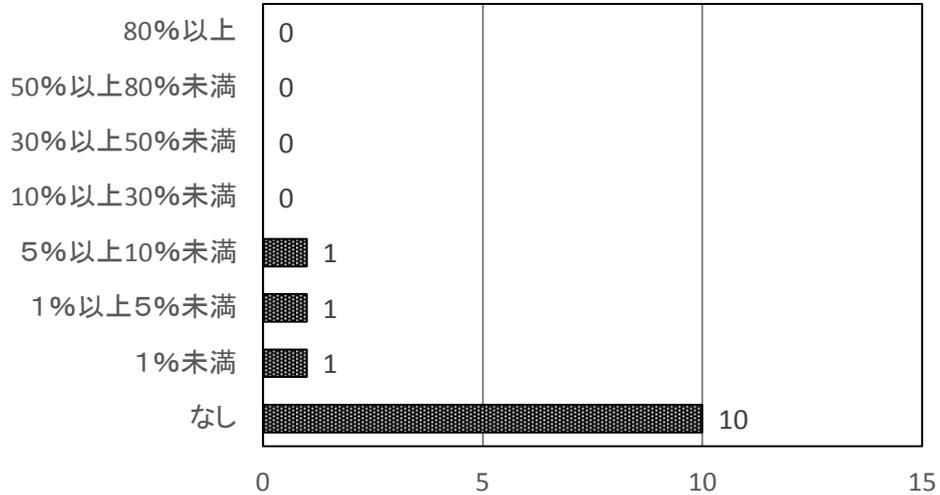
村内で肉類の調達を行っている事業所はみられません。



【魚類】

食材費（魚類）に占める村内調達率の割合は平均 0.7%（無回答を除く平均）となっています。また、村内で魚類の調達を行っていない事業所は 10 箇所となっています。

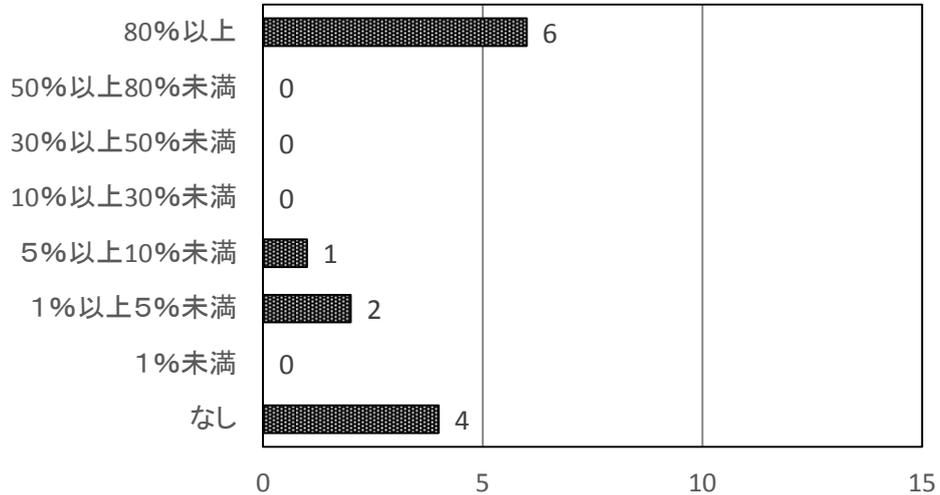
図一 食材費（魚類）に占める村内調達率



【もずく、海ぶどう】

食材費（もずく、海ぶどう）に占める村内調達率の割合は平均 45.7%（無回答を除く平均）となっています。また、村内でもずく、海ぶどうの調達を行っていない事業所は 4 箇所となっています。

図一 食材費（もずく、海ぶどう）に占める村内調達率

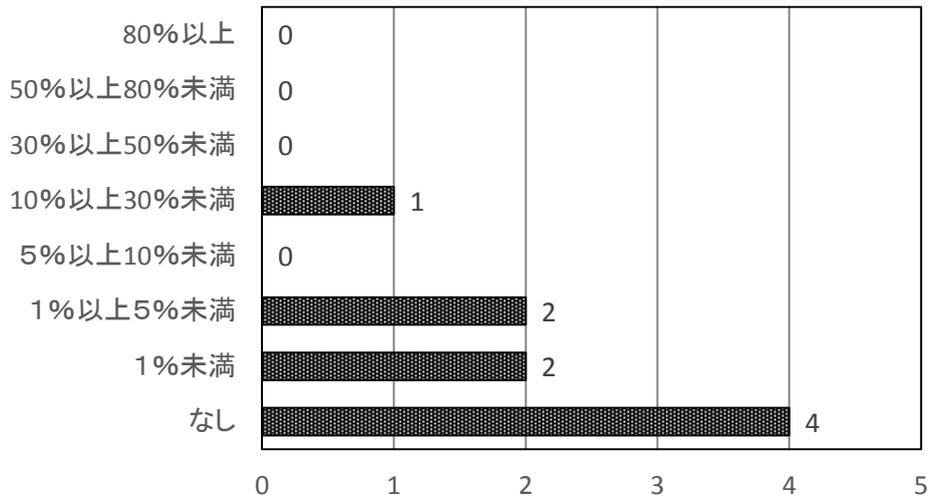


問6 お土産品について： お土産品の年間販売額及び商品の村内からの調達状況についてお聞かせください。

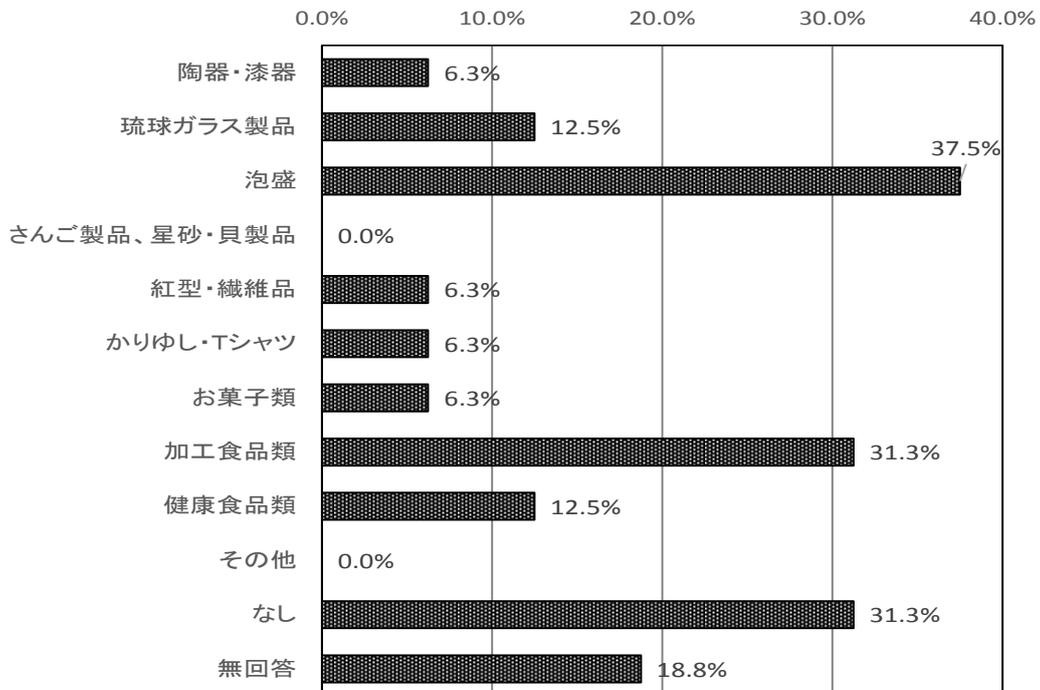
お土産品に占める村内調達率の割合は平均 2.5%(無回答を除く平均)となっています。また、村内でお土産品の調達を行っていない事業所は4箇所となっています。また、7事業所が無回答となっています。

また、村内で調達を行っているお土産品としては、「泡盛」(37.5%)や「加工食品類」(31.3%)が多くなっています。

図一 お土産品の村内調達の割合(金額)



図一 お土産品の村内調達の割合(金額)



## 2) 村民等ワークショップ

### (1) 恩納村観光振興計画の策定に向けた意見交換会（村民等ワークショップ）

村の観光に携わる方、農業や漁業に関わりのある方、住民等を対象に観光振興への期待や提案をくみ上げる場として、意見交換会（村民等ワークショップ）を開催した。

意見交換会に参加を呼び掛けたメンバーは、観光、産業関連団体、地域活動団体等から20人程度確保し、「恩納村の観光の強みや弱み」、「強みや特徴を活かし、弱みや問題点を解決するために必要な取り組み（企画ノートの作成）」をテーマに2回実施した。

その概要は以下の通りである。

#### ①恩納村の観光に関する強み・弱みについて

|          | 恩納村の強み、特徴、自慢したいこと   | 恩納村の弱み、問題で、心配なこと   |
|----------|---|--|
| 人財       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の心のよさ</li> <li>・村民のおおらかさ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足（働いている人は、地元の人が少ない）</li> </ul>  |
| 立地       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的に有利</li> <li>・立地条件がよい</li> <li>・美ら海水族館への通り道であることあとは、恩納村を通過する人も多く、チャンスがたくさんある</li> <li>・那覇より1時間圏内とアクセスがよい</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇から遠い</li> </ul>  |
| 自然に関すること | <p>&lt;自然が豊富&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海がきれい</li> <li>・景観が美しい</li> <li>・万座毛</li> <li>・真栄田岬</li> <li>・南恩納の夕日</li> <li>・青の洞窟</li> <li>・景勝地が多い</li> <li>・海岸の自然に恵まれている</li> <li>・美しいビーチが南北に点在している</li> <li>・ビーチクリーン活動が多い</li> </ul> <p>&lt;マリンスポーツが盛ん&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイビングポイントが多い</li> <li>・海を活かした観光</li> <li>・マリトレジャー施設が多い</li> <li>・マリメニューが多い</li> <li>・ダイビングやシュノーケリングの人気スポットがある</li> <li>・サンゴの養殖</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漂着ゴミ</li> <li>・万座毛ではタバコのぼい捨てが多い</li> <li>・河川や海の水質改善</li> <li>・海以外の観光資源が少ない</li> <li>・10～12月はお客さんが少ない</li> </ul> <p>&lt;マリトレジャーの安全確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北、西風に弱く海が荒れるため、金武町や本部町にダイビング客が流れる</li> <li>・海の安全管理に関するルールがない（遊泳、ルールづくりが必要）</li> <li>・真栄田岬のみがダイビングスポットとして有名</li> <li>・村の南部はファンダイビングが少ない</li> <li>・10～2月は村外にダイビング客が出ている</li> </ul> |
| 観光に関すること | <p>&lt;観光関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型ホテルや宿泊施設が集積している</li> <li>・宿泊施設が充実している</li> <li>・村内ホテルの4～10月の稼働率が90%</li> <li>・観光施設が多い</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の観光、夜の観光への対応</li> <li>・体験メニューがあるが、雨の日や台風時にも対応できるように、複数持っておく必要がある</li> <li>・海ぶどう収穫体験が可能な施設がない</li> </ul>   |

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 観光に関すること | <p>→地域経済の活性化、雇用の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球村がある</li> <li>・観光客数（来村客数）が多い</li> <li>・有名な観光地やリゾートホテルゾーンに飲食店等が集積している</li> <li>・地元の食材を使ったお店、料理がある</li> <li>・海ぶどう収穫体験がとてもよい</li> </ul> | <p>&lt;外国人観光客への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fi スポットが少ない</li> <li>・アジア圏向けの案内が少ない</li> <li>→インターネットやスマートフォンを活用した多言語への対応が必要</li> </ul> <p>&lt;案内標識等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の道路交通標識</li> <li>・観光看板が少ない</li> <li>・信号機がない（前兼久漁港内）</li> </ul> <p>&lt;飲食店に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店の値段が高い</li> <li>・昼間に利用できる飲食店が少ない</li> </ul> <p>&lt;環境美化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草がのび放題で国道の見た目がよくない</li> </ul> |
| 第一次産業    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物が多く、拠点産地の認定を受けているものが多くある</li> <li>・アテモヤ、パッションフルーツ、マンゴー等の熱帯果樹が多い</li> <li>・水産物が豊富（モズク、海ぶどう、アーサ）</li> </ul>  |  |
| 第二次産業    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地酒がある</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お土産になるような特産品が少ない</li> <li>→ドレッシングやジャム等の二次加工品がよいのでは？</li> </ul>   |
| 文化・芸能    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各字に伝統芸能がある</li> <li>・音楽、琉歌がある</li> <li>・歴史の道（現在、土砂崩れがある）</li> </ul>   |  |
| 交通       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インター（屋嘉、石川）が近く、自動車でのアクセスがよい</li> <li>・夜の居酒屋で団体バスのサービスがある</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量が多い</li> <li>・交通渋滞がひどい（16～17 時南向け）</li> <li>・村内全体で駐車スペースが少なく、路上駐車が多い</li> <li>・レンタカーがないと不便</li> <li>・レンタカーでの事故が増えている</li> <li>・自動車がないと移動が不便</li> <li>・路線バス、リムジンバスが不便</li> <li>→リムジンバスは季節によって運行本数が異なる</li> </ul>   |
| その他      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・暴走族が少ない</li> <li>・静かである</li> <li>・OIST がある（会議の開催時は周辺ホテルが賑わう）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活地域と観光区域の区別がない</li> <li>・村民が住みづらい（スーパーがない、騒音等）</li> <li>・観光地なのに暴走族が多い。（特に週末）</li> <li>・若者が遊ぶ場所がない（商業施設がないので、昼も夜も北谷に遊びにくい人が多い）</li> </ul>  |

②強みや特徴を活かし、弱みや問題点を解決するために必要な取り組み

|          | 内 容  |
|----------|--|
| 人財       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光関連事業所の連携強化</li> <li>○観光協会を中心に、まとまった営業活動の実施</li> <li>○村民と触れ合う体験交流</li> </ul>  |
| 自然に関すること | <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境守って観光振興</li> <li>●(仮)環境税(環境協力金)の導入や海を利用するうえでの安全基準作り</li> <li>●観光(税・協力金)の導入</li> <li>○ナビビーチの有料化</li> <li>○環境保全のための環境税のようなものを導入</li> <li>○マリンスポーツや遊泳等のルールづくり</li> <li>○現在、地域住民のみで清掃活動を行っているので、観光客も参加できるようにしてはどうか</li> </ul>  |
| 観光に関すること | <ul style="list-style-type: none"> <li>●おんな村へ「むるりっか ツアー」(むる:全部 りっか:行こう)</li> <li>●"恩納村の歩き方"パンフ作成及び配布</li> <li>●恩納村見どころマップの作成</li> <li>●健康・長寿、ぬちぐすい恩納村(健康長寿(食事)にちなんだイベント)</li> <li>●長期滞在型宿泊の推進</li> <li>●観光アプリ(多言語への対応)</li> <li>●恩納村観光情報センター構築事業</li> <li>●恩納村 天皇杯受賞 海ぶどう収穫体験 実食付き</li> <li>●「恩納村うまいもの会」の開催</li> <li>○修学旅行生を対象としたメニューの開発</li> <li>○冬場の体験観光として老若男女がすぐできるものを開発</li> <li>○ふるさと納税のお礼の品として、宿泊券やアクティビティ体験券等、来村して体験できる特典を用意する</li> <li>○日中滞在できる観光プランづくり</li> <li>○避寒先として、冬の観光に力を入れる</li> <li>○周遊型観光メニューの作成</li> <li>○ホテルだけでなく、村内をまわる仕掛けが必要</li> </ul> |
| 第一次産業    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●農業者育成講座(仮名称)</li> <li>○農産物とホテルの連携(アテモヤ、パッションフルーツ、マンゴー)</li> <li>○農産物の安定した生産量の確保</li> </ul>   |
| 第二次産業    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●恩納村の認知度向上企画～特産品・景勝地・観光地等の認知度向上にむけたノベルティ・お土産品開発～</li> <li>●特産品加工品の開発・製造</li> <li>○果物を活用し、ジャム・お菓子を作る</li> </ul>  |
| 文化・芸能    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●芸能めぐり</li> <li>●体験ハーリー</li> <li>○伝統芸能の練習を見せる観光メニューの作成</li> <li>○ホテルとの連携によって、週1回伝統芸能を披露する</li> <li>○JTB主催「杜の賑わい」のようなイベントを村内で開催</li> </ul>   |
| 交通       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●恩納村リゾートホテル連絡バス「ちょこちょこバス」(仮称)(トローリーバスの運行)</li> <li>○ガイド付きバスの運行</li> <li>○バイパス側に看板の設置</li> </ul>   |

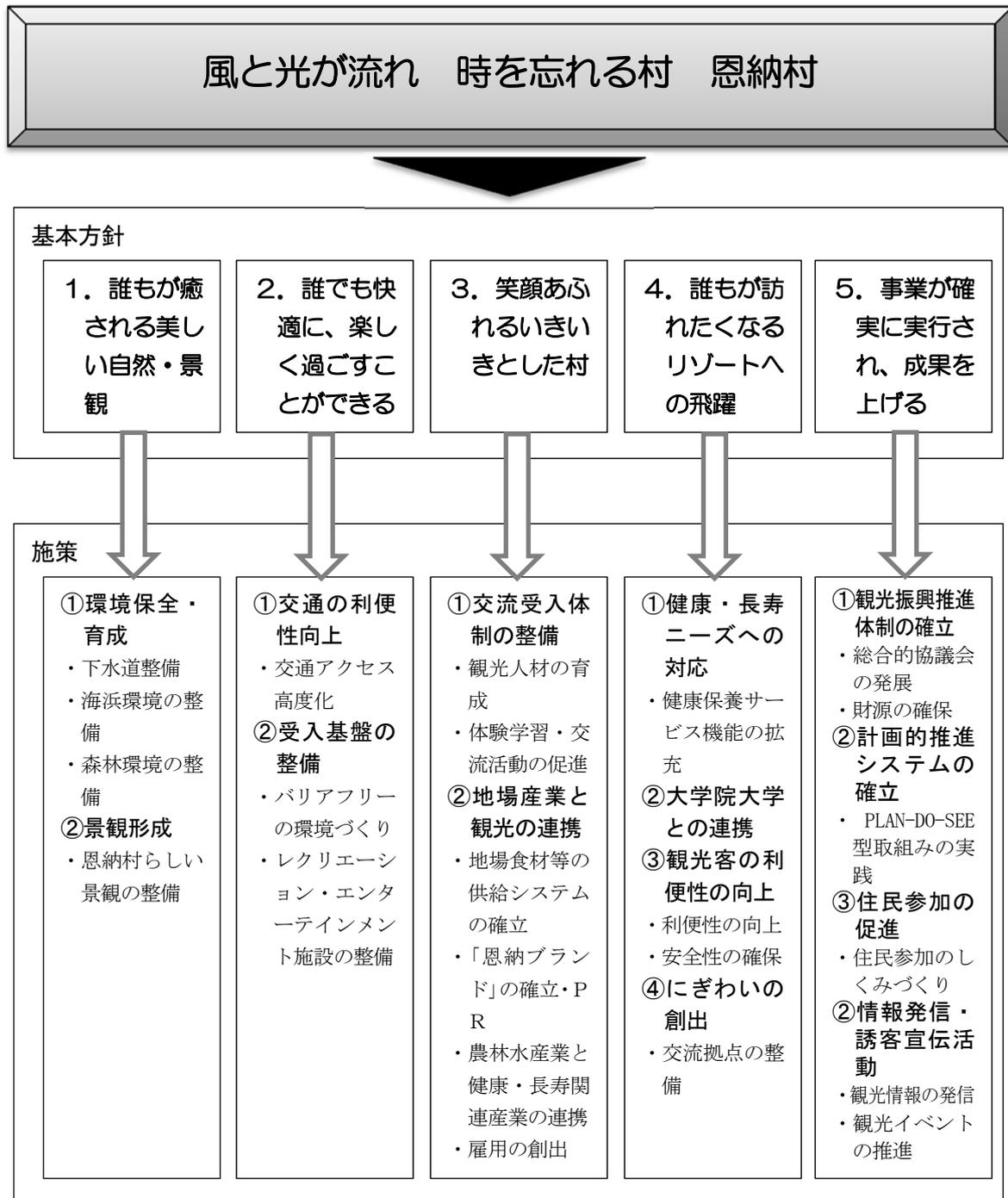
※●企画ノートとして提出された内容 ○必要な取り組みとして挙げられた内容

## 4. 観光振興関連施策の点検

平成18年度に策定された「恩納村第2次観光振興計画」の実施状況を検証し、課題や今後の方向性等の整理を行う。

### 1) 計画の体系

恩納村第2次観光振興計画では、『風と光が流れ 時を忘れる村 恩納村』を観光振興ビジョンとして掲げ、5つの基本方針をもとに計画が進められた。



## 2) 計画の実施状況、課題及び今後の方向性

### (1) 誰もが癒される美しい自然・景観

#### ①環境保全・育成

下水道の整備により、河川や海域の環境保全対策は一定の進捗がみられる。引き続き、下水道整備を進めるとともに、今後は農地等からの赤土流出防止対策の強化が求められる。

施設等が管理を行っていない海域において、安全管理上問題と思われる利用もみられることから、基準を満たしているダイビングショップに対し、認証を与える等の海域の安全な利用を促すための体制の構築を行う必要がある。

#### ②景観形成

恩納村景観むらづくり条例の制定や恩納村景観むらづくり計画の策定を行い、国内有数のリゾート地にふさわしい景観形成に向けた環境整備が整いつつある。

この間、緑の回廊事業により、海を眺めながら海岸線が楽しく散歩できる環境整備を進めてきた。今後は緑化や歩道の拡幅、眺望ポイントでの駐車場整備等、環境整備に取り組む必要がある。



万座毛

地域に対し苗の配布等による緑化活動に対する支援を行っており、一部の農村公園等においては地域による管理が行われている。国道等の除草作業については、実施回数に限られていることから、管理面で課題がみられる。引き続き、地域の主体的な緑化活動を促すとともに、国道等をはじめ沿道景観の向上等、観光リゾート地にふさわしい集落景観の形成に向けた取り組みが必要である。

この間、一部の集落において集落散策ルートやおすすめ眺望ポイント等が掲載されたマップ等の作成を行っている。今後は、散策ルートの開発及びマップの作成や、これらの利用促進が課題となっている。

### (2) 誰もが快適に、楽しく過ごすことができる

#### ①交通の利便性向上

自動車を利用しない村内移動の利便性の向上については、依然として課題となっており、引き続き検討を行う必要がある。

## ②受入基盤の整備

レクリエーションやエンターテインメントを提供する施設については、整いつつある。今後はふれあい体験学習センターや県民の森等を活用し、体験学習メニューの提供、芸術祭や音楽祭の開催、地域の伝統芸能の披露等、ソフト事業の展開による受入基盤の整備が求められる。



シーカヤック講習

また、よりシニア層や外国人観光客の増加が見込まれるなか、旅行者が心配なく訪れることができるユニバーサルツーリズム<sup>※1</sup>に対応した観光地づくりが求められている。

観光地周辺等においては、違法駐車が目立ち、村民生活にも影響を及ぼしている箇所がみられることから、観光モラルやマナーの向上を促す取り組みが必要である。

## (3) 笑顔あふれるいきいきとした村

### ①交流受入体制の整備

リゾートホテルでの職場体験の受入や県が実施している人材育成プログラムを活用し、観光産業に係る人材育成を行っている。現在、恩納村文化財案内人「道の会」を中心に地域資源の観光案内を行っているが、活動できる人材が限られているため、今後は、地域の人材を活用した観光案内ボランティアの育成を強化する必要がある。

本村には多くの宿泊施設が立地していることから、修学旅行の民泊の受入には消極的である。しかし、本村は県内でも修学旅行の宿泊団体数が多いことや、閑散期の対策として修学旅行の受入体制の強化を図る必要がある。

また、日本代表チームや大学のスポーツチームの合宿誘致を行い、日本代表女子野球侍ジャパンの誘致に成功した。引き続き、日本代表チーム等の合宿誘致に取り組むとともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた各国選手団の事前キャンプの誘致を図る必要がある。



日本代表女子野球侍ジャパン

※1ユニバーサルツーリズム：年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらずすべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、誰もが気兼ねなく参加できる旅行。

## ②地場産業と観光の連携

リゾートホテルでの村内で生産された農産物の活用は、一部の地域で買い取りが行われているものの、ほとんど進んでいないのが現状である。リゾートホテル等で村内産の農産物の活用促進を図るためには、安定供給が可能となるよう、計画的な生産体制の構築が課題となっている。

恩納村PRキャラクター「ナビーちゃん」の製作や村内事業所が参加する料理メニュー開発イベント等に取り組んだ。今後は「ナビーちゃん」を活用した「恩納村ブランド」の確立に向けた特産品開発や商品化に向けた体制づくりを行い、恩納村産の認知度の向上、地域イメージの確立を図る必要がある。

琉歌大賞については、県の共催等による取り組みを進めてきたが、琉歌の認知度向上に向けた新たな展開について検討を行う必要がある。



ナビーちゃん

## (4) 誰もが訪れたいリゾートへの飛躍

### ①健康・長寿ニーズへの対応

健康・長寿に対するニーズへの対応は、各種事業所の主体的な取り組みを促すとともに、有機栽培の推進等による恩納村産の農水産物や、健康に配慮した特産品開発等によって、健康・長寿の村としてのイメージ向上を進める必要がある。

### ②大学院大学との連携

沖縄科学技術大学院大学には、研究・見学を目的に年間約3万人の方々が訪れていることから、恩納村に関する情報提供を行う等、観光につなげていく必要がある。



沖縄科学技術大学院大学

### ③観光客の利便性の向上

一部のリゾートホテルで共通ミールクーポン<sup>※1</sup>の発行等の連携した取り組みが見られる。このように、マリンスポーツの管理システムの構築等、リゾートホテルが連携した活動を促進し、観光客の利便性向上を図ることで、村内宿泊施設の集客力強化を進める必要がある。

<sup>※1</sup>ミールクーポン【meal coupon】：食事券

#### ④にぎわいの創出

おんなの駅なかゆくい市場は多くの観光客等が訪れる主要な観光スポットとなっている。今後は、恩納村文化情報センターとの連携によるにぎわい・文化発信拠点として充実を図るとともに、営業時間の拡大等、夜の観光スポットとしての活用の検討を行う。



おんなの駅 なかゆくい市場

### (5) 事業が確実に実施され、成果を上げる

#### ①観光振興推進体制の確立

これまで、役場と商工会、NPO、むら興し協議会等が中心となって観光産業の振興を図ってきたが、平成28年度に村観光協会の発足によって、観光産業の振興に向けた推進体制の強化が図られた。今後は村観光協会を中心に推進体制の充実を図る必要がある。

本村の重要な観光資源である自然環境の保全を図りながら、観光振興を進めるために、環境保全や美化活動に係る財源の確保に向けた仕組みづくりが必要である。

#### ②計画的推進システムの確立

観光振興施策の推進に向け、事業の進捗状況の確認や新たな課題への検討を行う体制の構築を図る必要がある。

#### ③住民参加の促進

住民一人ひとりがおもてなしの心で観光客を迎える意識醸成、住民と観光客との交流促進等、本村へのリピーターの確保に向けた取り組みを進める必要がある。

#### ④情報発信・誘客宣伝活動

本村の観光情報の発信に向け、文化情報センターにおける観光情報の発信や村ホームページのリニューアルに取り組んでいる。今後は、より魅力的な観光情報誌の発行や旅行会社との連携による、より効果的な観光情報の発信に取り組む必要がある。



恩納村文化情報センター

## 5. 恩納村の観光振興に向けた課題の整理

前述の1.～4.を踏まえ、村の観光振興に向けた課題の整理を行う。

### 1) 立地特性からの課題

#### (1) 美しい自然及びリゾート地域にふさわしい景観の形成

自然海岸、緑豊かな森林、海を染める夕陽等、美しい豊かな自然環境は恩納村が世界に誇ることができる財産である。これは、恩納村民をはじめ、観光関連事業者、観光客に共通した認識となっている。これらの自然環境を将来に受け継ぎ、活用を図ることが、恩納村の観光を持続可能な産業として振興していくために最も重要なことである。

このため、各種法令をはじめ、環境保全条例や恩納村景観むらづくり条例等に基づき、自然環境の調和したリゾート地域にふさわしい景観の形成を図る必要がある。

また、海岸での漂着ゴミや道路の植栽マスの雑草、観光関連施設周辺等でのポイ捨て等への対応が課題となっており、これらの維持管理を行うための財源の確保が求められている。



万座毛から望む夕陽

#### (2) 交通環境の整備

本村は那覇市からの公共交通機関の利用によるアクセスが不便な状況であり、多くの観光客はレンタカーを利用して本村を訪れている。また、南北が27.4 km、東西が4.2 kmと南北に細長い村土となっており、自動車を利用しなければ村内の移動は不便な状況である。

このため、村内での滞在時間の長時間化を促進するため、本村に到着後の観光客の二次交通として、村内の主要な宿泊施設や観光施設を経由する利便性の高い周遊バスの導入等による交通体系の構築が求められている。

## 2) 恩納村の観光資源からの課題

### (1) 第一次産業との連携による村民所得の向上

本村は農業や漁業が盛んな地域であり、パッションフルーツは特別栽培認証<sup>※1</sup>を取得し、小菊、パッションフルーツ、切葉（ドラセナ）、海ぶどう、モズク、アーサが拠点産地<sup>※2</sup>に認定されている。

しかし、恩納村産の農水産物は供給量確保が不安定なため、村内の観光関連施設や飲食店での利用率が低いことが課題となっている。このため、村内に立地している宿泊施設における需要の高い農水産物の適切な把握や、需要に応じた農水産物の生産及び安定供給体制の確立を図るとともに、観光関連施設等での地産地消を進めるなど恩納村産の農水産物の利用率の向上を図ることで、村民所得の向上を図る必要がある。



海ぶどう



パッションフルーツ

### (2) 地域資源を活用した特産品及び体験メニュー等の開発

本村には年間を通して多くの観光客が訪れているが恩納村産の農水産物等を利用したお土産品が少ないことや、村内に製造・加工業が少ないこと等が要因となって、他産業への波及効果が少ない状況である。このため、農水産物等の地域資源を活かした特産品の開発や恩納ブランドの確立が課題となっている。

現在、修学旅行生やリゾートウエディングでの来村者を対象にエイサーや三線、沖縄料理の調理等の体験メニューを提供し好評を得ている。一方で、少子化が進む中、今後も継続的に教育旅行を受入れるためには、学生のみならず MICE 向けの体験メニューの提供等、多様でより魅力のあるプログラムの開発が求められている。

また、村内で宿泊する観光客は、レンタカーを利用し沖縄本島全域を行動範囲とする傾向が強いため、家族旅行やグループ旅行向けの体験メニューの提供、伝統芸能やハーリー、伝統的な娯楽の観光メニュー化等によって、村内での滞在時間の長時間化を促す工夫が必要である。

※1 特別栽培認証：沖縄県特別栽培農産物認証制度。本制度は、化学合成農薬（節減対象農薬）や化学肥料（窒素成分量）の使用回数及び使用量を低減する等、一定の要件を満たして生産された農作物を特別栽培農産物として沖縄県が認証するもので、この制度によって、消費者の県産農産物への信頼を高めるとともに、環境に優しい環境保全型農業の推進を図ることを目的としている。

※2 拠点産地：園芸拠点産地（拠点産地）沖縄県は、沖縄 21 世紀農林水産業振興計画に基づきサヤインゲン、ゴーヤー、カボチャ、キク、マンゴー等を戦略品目と定め、市場競争力の強化や有利販売に取り組んでいる。園芸作物の生産振興を図るため、県では、定時・定量・定品質の出荷ができる拠点産地を形成し、市場に信頼されるおきなわブランドの確立を進めている。平成 28 年 10 月末日現在で、野菜拠点産地 32 ヶ所、花き拠点産地 24 ヶ所、果樹拠点産地 26 ヶ所が認定されている。

このように、今後も観光リゾート地として更なる発展を目指すためには、本村の豊かな自然資源、歴史文化資源等の地域資源を活かした特産品及び体験メニュー等の開発が求められている。

### (3) 観光に対する村民の理解の必要性

本村にとって観光は基幹産業であり、他の産業との連携強化によって村全体の活性化につなげることができる重要な産業である。また、本村の伝統文化の継承を図っていくためにも重要な要素にもなる。

今後も国内有数の観光リゾート地として観光客を迎え入れ、『うとういむち（おもてなし）』を提供するためには、それらのことを村民が理解し、おもてなしの意識の向上が必要である。また、恩納村の魅力を多くの方々に発信していくためには、村民が自らの地域について理解を深めるよう、観光について多角的な視点で学ぶことができる機会を創出する必要がある。

## 3) 今後、求められる沖縄観光からの課題

### (1) 観光を担う人材の確保・育成

平成27年度の沖縄県の入域観光客数は約793万人となり、県内ホテルの稼働率は好調となっているが、ホテルの労働力不足は深刻化しており、外国人労働者の積極的な採用で対応している状況がみられる。

本村にとって観光産業は基幹産業であるが、全県的な傾向と同様にホテルでの慢性的な人材不足の状況がみられる。加えて、観光関連事業所で就労する村民は少ない状況である。

このため、村内在住者にとって働きがいのある職場となるような取り組みや外国人を含めた労働力の確保に努める必要がある。さらに、若者にとってやりがいのある職業として認識してもらえるよう業務内容の周知及び見直しを図るとともに、より魅力ある雇用条件や就労環境の整備等を行う必要がある。



サンゴの苗づくりについての説明風景

### (2) 安全・安心な観光地の形成

沖縄県は、夏季から秋季にかけて毎年のように台風が襲来する地域であり、台風接近時には、それぞれの施設で台風対策等を行っている。このため、台風災害等の自然災害の発生時に、外国人や高齢者、障がい者をはじめとした観光客が安全・安心に避難でき

るよう定期的な防災訓練の実施等、安全対策の充実が必要である。

近年は、世界各地でテロをはじめとした多くの危機が発生し、観光も大きな被害を受けている。観光は危機の影響を受けやすいことから、行政と観光事業者の協働による危機管理体制の確立が求められている。

本村には真栄田岬等、県内でも有数のダイビングスポットを有していることから、多くのダイビング客が訪れている他、シュノーケリングやシーカヤック等の様々な海洋レジャー客が増加している。しかし、施設等が管理を行っていない海域において、安全管理上問題と思われる利用もみられることから、基準を満たしているダイビングショップに対し、認証を与える等の海域の安全な利用を促すための体制の構築を行う必要がある。

### (3) 誰もが旅行を楽しめる環境づくり

我が国の人口は平成18年をピークに減少に転じており、本格的な超高齢社会を迎えつつある状況となっており、旅行者に占める高齢者の割合は今後さらに高まることが想定される。高齢になっていくと誰でも何らかの障害を持つ可能性があり、観光旅行分野においてもユニバーサルデザイン<sup>※1</sup>化が求められる。

近年は、我が国の観光客はアジア圏からの外国人観光客が増加しており、沖縄県においても同様の傾向となっている。さらに今後は、欧米諸国やイスラム圏等の誘客も期待されていることから、言語や慣習に不慣れな外国人観光客であっても旅行を楽しむことができる環境づくりが求められている。

---

※1ユニバーサルデザイン【universal design】：障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらずさまざまな人々が気持ちよく使えるよう都市や生活環境を計画する考え方。

